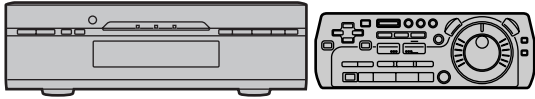
Panasonic

DVハードディスクエディター

取扱説明書

品番 NV-HDD1

上手に使って上手に節電

保証書別添付

このたびはDVハードディスクエディターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。
保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

VQT8617

もくじ

本機の特長 ･･･4

必ずお読みください

はじめに ･･･6
付属品 ･･･6
安全上のご注意(必ずお守りください) ･･････････････････7

準　備

各部の名前と働き ･････････････････････････････････12
本体前面 ･･12
本体後面 ･･14
編集コントローラー ･･･････････････････････････････16
接続する ･･･18
DVケーブルを使って接続する場合(DV接続) ････････････････18
S映像(映像)･音声コードを使って接続する場合(AV接続) ････････20
電源について ･････････････････････････････････････22
表示について ･････････････････････････････････････24
初期設定について ･････････････････････････････････26

編　集

編集する映像を取り込む ････････････････････････････32
ワンタッチダビング ･･･････････････････････････････33
マニュアルダビング/ハードディスクに録画 ･････････････････35
再生する(映像を見る) ･･･････････････････････････････36
ダイレクト編集(再生しながらシーンを登録する) ･････････44
シーン選択編集(シナリオを作る) ･･･････････････････････46
「シーン選択メニュー」画面を出す ･･･････････････････････47
シーンを選ぶ ･･49
シーンの選択を１つずつ取り消す ･･･････････････････････51
シーンの選択をすべて一度に取り消す ･･･････････････････53
指定されたシーンを再生する ････････････････････････････55
一つのシーンだけを再生する ････････････････････････････57
シーンを登録する ････････････････････････････････････59
登録したシーンを確認する ･･････････････････････････････59
「編集メニュー」画面からの編集 ･･･････････････････････60
「編集メニュー」画面を出す ････････････････････････････61
アッセンブル編集(シナリオを加工･作成する) ･･･････････62
シーンを登録する ････････････････････････････････････63
シーンのイン/アウト点を修正する ･･･････････････････････67
シーンを削除する ････････････････････････････････････71

編　集（つづき）

シーンを移動する ……73
シーンをコピーする ……75
シーンを再生する ……77
ビデオインサート編集(映像を差しかえる) ……78
音声の編集をする前に ……82
アフレコ編集(音声を追加する) ……84
ミックスダビング編集(元の音声と新しい音声をミックスする) ……88
オーディオインサート編集(音声を差しかえる) ……92
登録されたシーンの取り消し ……96
録画内容を消去する ……98
未登録の素材を消去する(映像の1本化) ……99
すべての録画内容を消去する ……101
編集した映像をテープに録画する ……102
ワンタッチダビング ……103
マニュアルダビング/テープに録画 ……105

便利な機能

自動録画(映像信号を受けて自動的に録画を開始する) ……106
タイムラプス(長時間録画をする/間欠録画) ……108
ビデオプリンターにつないで使う ……110
静止画をパソコンに取り込む ……112
パソコンを使って編集する ……113

その他

使用上のお願い ……114
自己診断表示機能（サービス番号） ……114
エラーメッセージについて ……115
こんなときは(Q&A) ……115
用語解説 ……118
索引 ……120
仕様 ……121
保証とアフターサービス ……122
修理ご相談窓口 ……123

本機の特長

本機ではテープなどを使用せず、デジタルビデオ機器やビデオなどからの映像や音声を、内蔵のハードディスクに記録し、いろいろな編集をお楽しみいただけます。
映像や音声はハードディスクに記録されるので、巻戻しや早送りの必要がなく、スムーズに編集することができます。

以下が、本機で行う編集の流れです。

映像(編集素材)を取り込む(☞32・34)

↓

シナリオを作る(☞44・46・63)

シナリオとは、編集する映像のストーリー構成のことです。登録した場面(シーン)を並べて、1つのストーリーにしていきます。

ダイレクト編集
シーン選択編集
アッセンブル編集
- シーンの登録

↓

シナリオの加工・作成(☞62・78)

- **シーン選択編集で作られたシナリオを、加工していきます。**

アッセンブル編集
- シーンの修正
- シーンの登録
- シーンの削除
- シーンの移動
- シーンのコピー
- シーンの確認

ビデオインサート編集

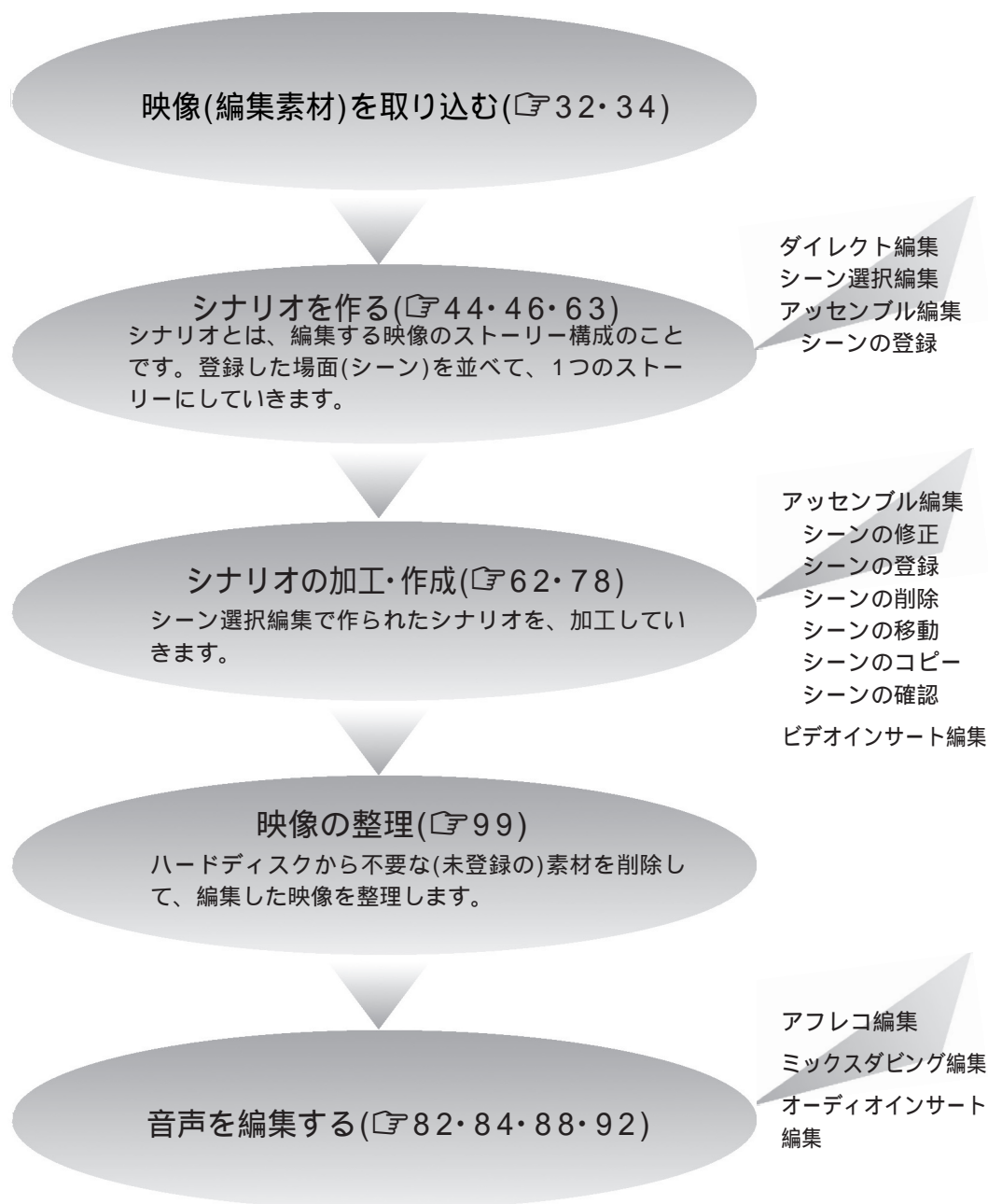
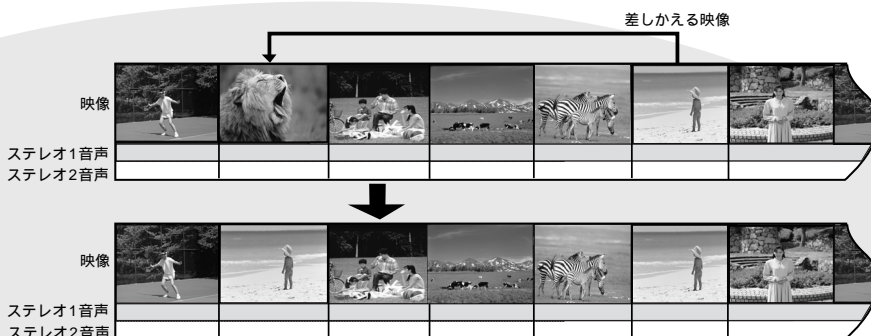
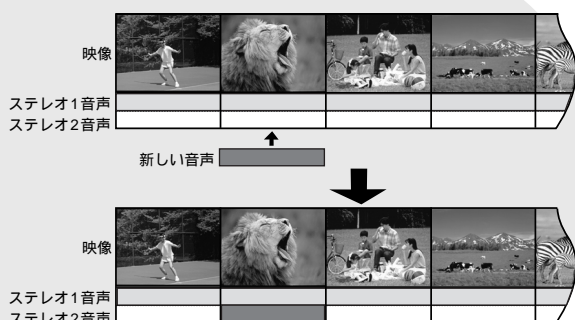
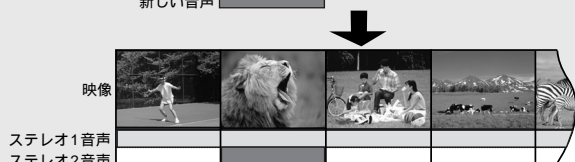
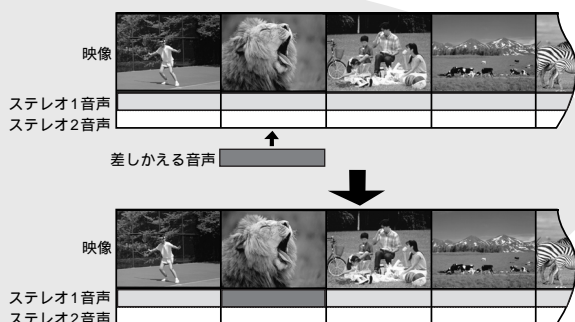
↓

映像の整理(☞99)

- **ハードディスクから不要な(未登録の)素材を削除して、編集した映像を整理します。**

↓

音声を編集する(☞82・84・88・92)

アフレコ編集
ミックスダビング編集
オーディオインサート編集

■ビデオインサート編集
録画された映像を、別の内容に差しかえます。
映像だけが差しかえられて、音声は元のまま変わりません。

■アフレコ編集
12bit音声モードで記録された内容の「ステレオ2」トラックに、新しく別の音声を追加します。元の映像と「ステレオ1」の音声は変わりません。
- 16bit音声モードで記録された内容に、アフレコ編集はできません。

■ミックスダビング編集
12bit音声モードで記録された内容の「ステレオ2」トラックに、「ステレオ1」の元の音声と、外部入力からの新しい音声をミックスして録音します。元の映像と「ステレオ1」の音声は変わりません。
- 16bit音声モードで記録された内容に、ミックスダビング編集はできません。

■オーディオインサート編集
記録された音声を別の音声に差しかえます。音声だけが差しかえられて、映像は元のまま変わりません。
12bit音声モードで記録された内容には、「ステレオ1」トラックの音声が差しかえられます。(「ステレオ2」トラックには、オーディオインサートはできません)
- 右の例は、12bit音声モードで記録されている内容をオーディオインサート編集した場合です。

■ワンタッチダビング
DVケーブルを使って接続すると、ボタン操作ひとつで映像のダビングができます。
■ダイレクト編集
映像を記録、または再生しながら、編集したい場面を直接登録していきます。
(記録時の編集は、DV入力時のみです)
■自動録画
映像信号を受けると、自動的に録画を始めます。
■タイムラプス録画
約5秒ごとに6フレームずつ記録し、最大約33時間録画することができます。
(音声は記録されません)

はじめに

取扱説明書は、最後までよくお読みください。

本文中の用語や機能の詳細、関連項目のページは、（☞数字）で示しています。

本書のイラストは、実物と多少異なる場合があります。

著作権について

あなたが本機で録画・録音されたものは、個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

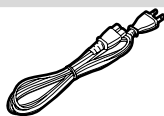
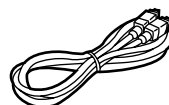
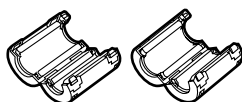
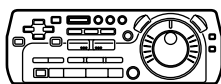
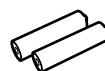
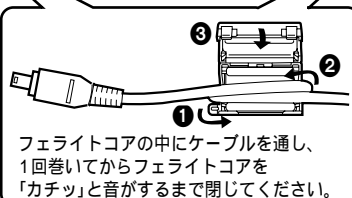
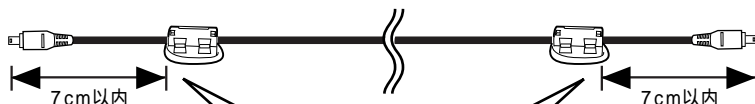
i.LINKはIEEE1394-1995仕様およびその拡張仕様、i.はi.LINKに準拠した製品につけられるロゴです。i.LINK、i.は商標です。

二度と録画できないような大切な録画の場合は、事前にためし録りをし、正しく録画･録音できることを確かめておいてください。

万一、本機の不具合により、大切な映像のデータがこわれてしまった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

付属品

付属品をお確かめください。

妨害電波の発生を抑えるために、付属のフェライトコアをDVケーブルに装着されることをおすすめします。本機側とデジタルビデオ機器側の2個所に付けます。プラグの先から約7cmの位置に付けてください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は、絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

「安全上のご注意」(☞7～11)に記載のDVハードディスクエディターのイラスト(姿図)は、イメージイラストであり、ご購入のDVハードディスクエディターとは形状が多少異なる場合がありますがご了承ください。

⚠ 警告

煙が出ている、異常に熱い・におい・音がするときなどは、使うのをやめ、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

火災・感電につながります。

●販売店にご相談ください。

内部に水や異物などが入ったときやキャビネットが破損したときは、使うのをやめ、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

火災・感電につながります。

●販売店にご相談ください。

⚠ 警告

電源プラグのほこりなどは取る

湿気などでショートや絶縁不良となり、火災・感電につながります。

●プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
●プラグは時々点検してください。

電源プラグは、根元までしっかりと差し込む

接触不良で火災・感電につながります。

●いたんだプラグやゆるんだコンセントは、使わないでください。
●プラグは時々点検してください。

内部に金属物や燃えやすいものなどを入れない

火災・感電・故障につながります。

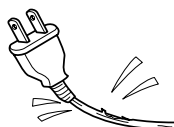
●乳幼児にご注意ください。

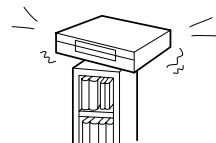
指定(交流100ボルト)以外の電源電圧では使わない また、配線器具の仕様をこえる使いかたをしない

たこ足配線などの場合も、過電流で発熱し、火災・故障につながります。

電源コードやプラグを破損させない

ステープルなどで壁などに固定すると、コードが破損し、火災・感電につながります。

●電源コードやプラグが破損したときは、販売店にご相談ください。

ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定なところに置かない

落下すると、けがや製品の故障につながります。

警告

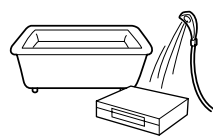
分解や改造をしない

分解禁止

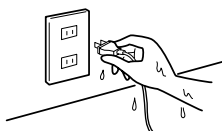
火災・感電・故障につながります。
●修理や内部の点検は、販売店にご相談ください。

水をかけたり、ぬらしたりしない

水ぬれ禁止

内部に水が入ると火災・感電・故障につながります。
●水が入ったときは、販売店にご相談ください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電につながります。
●必ず、乾いた手で抜き差ししてください。

雷が鳴り出したら、電源プラグにふれない

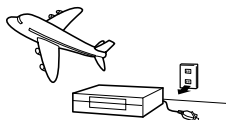
接触禁止

落雷すると、感電につながります。

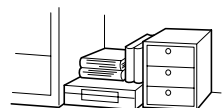
注意

お手入れの際や長期間使わないときは、安全のため、電源プラグを抜く

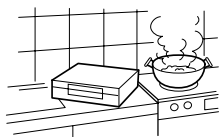
電源プラグを抜く

誤って内部にふれると、感電するおそれがあります。また、通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、漏電などにより、火災のおそれがあります。

風通しの悪いところ、狭いところに置かない

禁止

高温になると発熱し、火災・感電のおそれがあります。
●次のようなところに置かないでください。
・押し入れ、本箱など、風通しの悪いところ。
・じゅうたんやふとんの上。

⚠ 注意

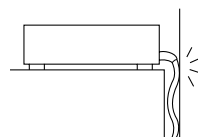
油煙、湯気、湿気、ほこりなどが多いところ、振動が激しいところに置かない

禁止

水やほこりが入ったり、振動などで内部部品が損傷すると、火災・感電のおそれがあります。

●1年に一度ぐらいは、販売店に点検をご相談ください。
(特に湿度が高くなる梅雨期の前に点検をすると効果的です)

●費用についても、そのときお確かめください。

電源コードが無理に曲げられるような設置をしない

禁止

電源コードが破損し、火災・感電・故障のおそれがあります。

●後面は、壁から10cm以上離してください。

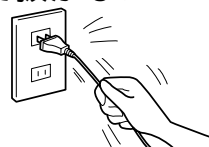
コード類を接続したまま移動させない

禁止

コード破損の原因となり、火災・感電・故障のおそれがあります。

●必ず、接続を外してから移動させてください。

電源コードを持って抜かない

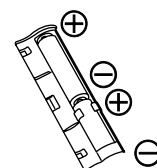
禁止

コード破損の原因となり、火災・感電のおそれがあります。

●必ず、電源プラグを持ってください。

本機の上に重いものを置いたり、乗ったりしない

禁止

倒れたり落下などをして、けがをするおそれがあります。また、重量でキャビネットが変形し、内部部品が破損すると、火災・感電・故障のおそれがあります。

電池は、⊕ ⊖を確かめ、正しく入れる

間違えると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意

電池の⊕ ⊖部に金属物(ネックレスやヘアピンなど)を接触させない

禁止

液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをするおそれがあります。

●ビニール袋などに入れ、金属物と接触させないようにしてください。

新しい電池と古い電池をまぜて使わない

禁止

液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをするおそれがあります。

電池を分解、加工(はんだ付けなど)、加圧、加熱、火中投入などをしない

禁止

液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをするおそれがあります。

充電式電池や種類が違う電池を使わない

禁止

液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをするおそれがあります。

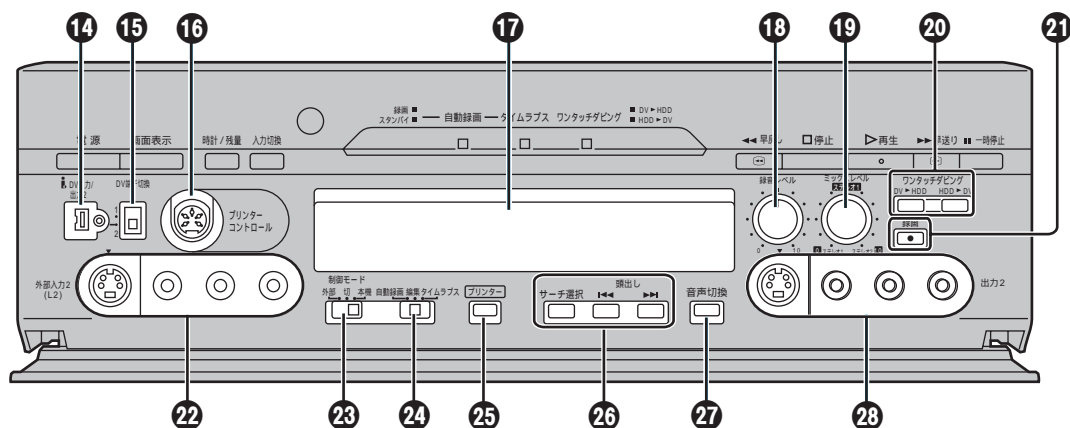
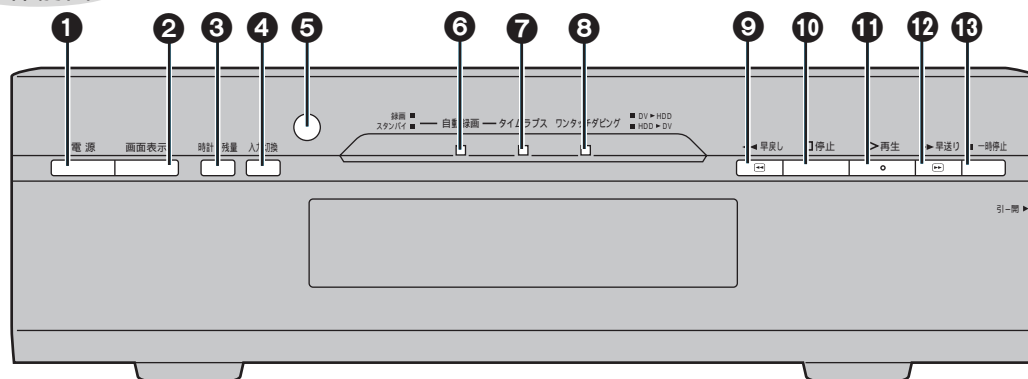
液もれしたときは：

●万一、液もれが発生し、液が手や衣服に付いたときは、水でよく洗い流してください。
●液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。

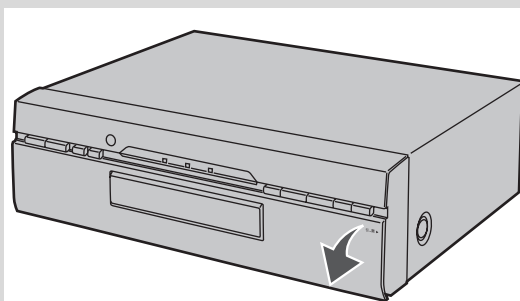
各部の名前と働き(本体)

ここでは、主な機能や操作内容について説明しています。
くわしくは、関係するページをお読みください。

- 本書では、編集コントローラーでの操作を中心に説明していますが、一部を除き、同じ名前のボタンであれば、本体のボタンでも同様の操作ができます。

本体前面

■**正面とびらの開けかた**

とびら右上にある「引-開▶」を手前に引いてください。

とびらを閉じるときは、「録音レベル」つまみと、「ミックスレベル/ステレオ1」つまみが、本体の中に押し込まれていることを確認してください。

❶ **電源ボタン**（☞23）

❷ **画面表示ボタン**（☞24）
テレビ画面へ、本機の文字表示を出したり消したりします。

❸ **時計/残量ボタン**（☞25）
テレビ画面や本体表示部の表示を変えます。

❹ **入力切換ボタン**（☞18･20）
入力信号を切りかえます。

❺ **リモコン受信部**（☞16）

❻ **自動録画ランプ**（☞107）
モード選択時: 緑色点灯
録画中: 赤色点灯

❼ **タイムラプスランプ**（☞109）
モード選択時: 緑色点灯
録画中: 赤色点灯

❽ **ワンタッチダビングランプ**（☞33･103）
他機から本機に映像を取り込んでいるとき:
赤色点灯
本機の映像を他機で録画しているとき:
緑色点灯

❾ **早戻しボタン**（☞37）
映像を早戻しします。

❿ **停止ボタン**（☞37）
再生や録画を止めます。

⓫ **再生ボタン**（☞37･105）
再生します。

⓬ **早送りボタン**（☞37）
映像を早送りします。

⓭ **一時停止ボタン**（☞35･39）
静止画再生にしたり、録画を一時停止させます。

⓮ **i. DV入力/出力2端子**（☞19）
デジタルビデオ機器やパソコンのDV端子(i.LINK端子)と接続します。

⓯ **DV端子切換スイッチ**（☞18）
機器を接続したDV端子を選びます。

⓰ **プリンターコントロール端子**（☞110）
プリンターと接続します。

⓱ **本体表示部**（☞24）

⓲ **録音レベルつまみ**（☞29）
押して、つまみを出してから調節してください。
録音レベルを調節します。
ミックスダビング編集時は、外部から入ってくる音声レベルを調節します。

⓳ **ミックスレベル／ステレオ1つまみ**（☞43）
押して、つまみを出してから調節してください。
再生時:
「ステレオ1+2(ミックス)」音声を選択しているときに、ステレオ1とステレオ2の比率を調節します。
ミックスダビング編集時:
ステレオ1の音声レベルを調節します。

⓴ **ワンタッチダビングボタン**（☞33･103）
ワンタッチダビングをします。

㉑ **録画ボタン**（☞35）
録画をします。

㉒ **外部入力2(L2)端子**（☞21）
外部機器の映像･音声出力端子と接続します。

㉓ **制御モードスイッチ**（☞26）
本機：本機、および本機から外部機器を操作するときのモードです。
切：　本機のみを操作するときのモードです。
外部：本機をパソコンなどから操作するときのモードです。（☞113）
- 当社製のデジカム用パソコン静止画キットをお使いいただく場合は、「切」モードにしてください。（☞112）
- Ｓ映像(映像)･音声端子からの入/出力はできません。

電源を「入」にしたまま「外部」モードから「切」または「本機」モードに切りかえると、電源が「切」「入」され、操作できる状態になるまでに多少時間がかかります。

㉔ **自動録画/編集/タイムラプススイッチ**
自動録画：　自動録画のモードです。（☞107）
編集：　通常の録画･再生と各種の編集をするときのモードです。（☞32）
タイムラプス：タイムラプス録画のモードです。（☞109）

㉕ **プリンターボタン**（☞111）
自動プリントをします。
プリント中は赤色に点灯します。

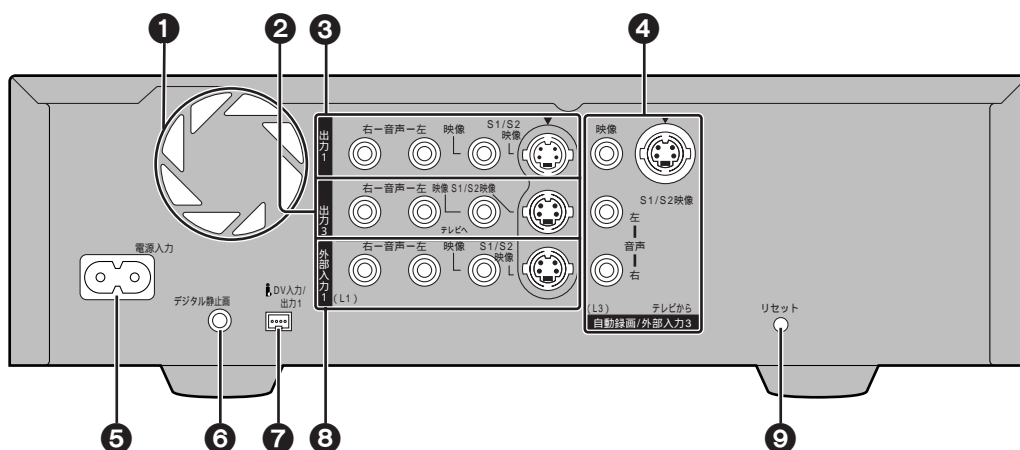
㉖ **サーチ選択／頭出しボタン**（☞41）
場面の頭出しをします。

㉗ **音声切換ボタン**（☞43）
「L(左)」音声と「R(右)」音声を切りかえます。

㉘ **出力2端子**（☞104）
外部機器の映像･音声入力端子と接続します。

お願い／ヒント
- 操作中･編集中にスイッチなどを切りかえると、誤動作する場合があります。

各部の名前と働き(本体)

くわしくは、関係するページをお読みください。

お願い／ヒント

- テレビを外部機器として接続するときは、「外部入力3」端子と「出力3」端子をお使いください。テレビを外部機器として接続した場合、信号のループにより画像や音声の乱れが発生する場合があるため、「外部入力3」端子に入ってきた信号は「出力3」端子には出力されないようになっています。これ以外の端子の組み合わせは、上記のような仕様にはなっていません。
- テレビの映像を録画するときは、テレビからの入力信号が正しく入っているかどうか、事前にためし録りをして再生し、確認しておかれることをおすすめします。

❶ **内部冷却用ファン**

❷ **出力3端子**（☞19･21）
テレビの映像･音声入力端子と接続します。

❸ **出力1端子**（☞104）
外部機器の映像･音声入力端子と接続します。

❹ **自動録画/外部入力3(L3)端子**（☞19･21）
テレビの映像･音声出力端子と接続します。

❺ **電源入力**（☞19･21）

❻ **デジタル静止画端子**（☞112）
パソコン静止画キット(別売)を使って、パソコンと接続します。

❼ **i. DV入力/出力1端子**（☞19）
デジタルビデオ機器やパソコンのDV端子(i.LINK端子)と接続します。

❽ **外部入力1(L1)端子**（☞21）
外部機器の映像･音声出力端子と接続します。

❾ **リセットボタン**（☞117）
本機の動作状態が不安定になったときにお使いください。

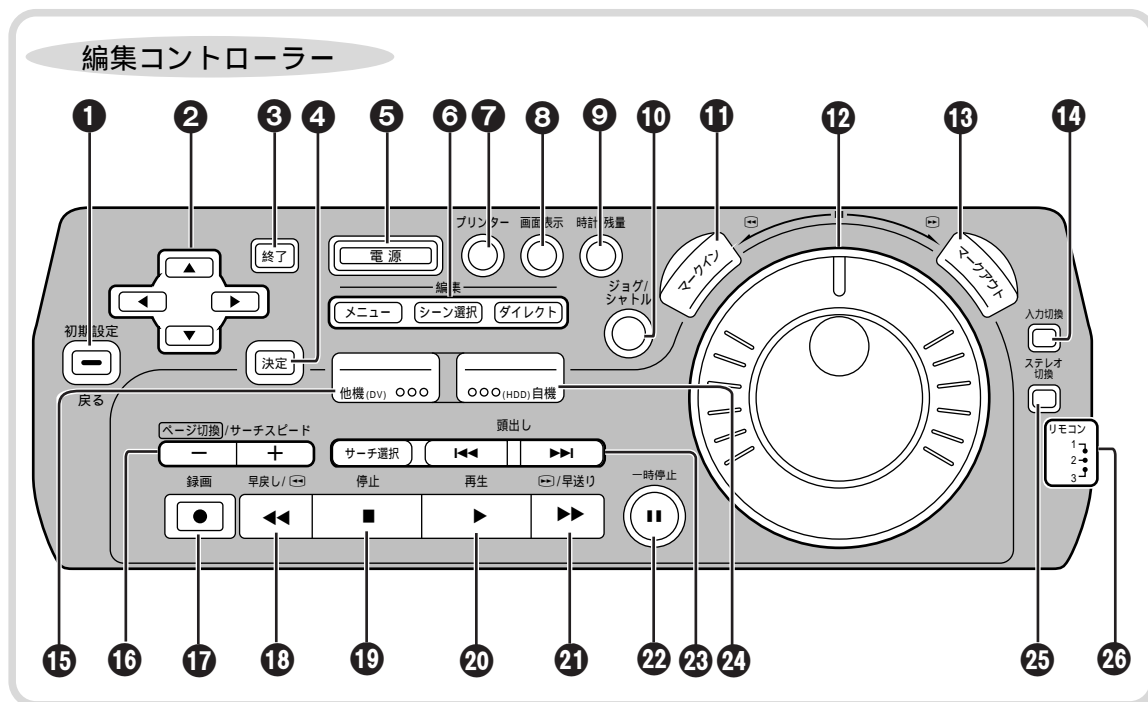
各部の名前と働き(編集コントローラー)

くわしくは、関係するページをお読みください。

編集コントローラー

❶ ❷ ❸ ❹ ❺ ❻ ❼ ❽ ❾ ❿ ⓫ ⓬ ⓭ ⓮

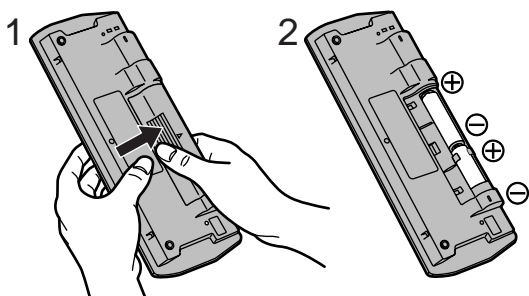
初期設定 戻る 終了 決定 電源 プリンター 画面表示 時計/残量 編集 メニュー シーン選択 ダイレクト ジョグ/シャトル マークイン マークアウト 入力切換 ステレオ切換 他機(DV) ○○○ ○○○(HDD)自機 ページ切換/サーチスピード − ＋ サーチ選択 頭出し 録画 早戻し/ 停止 再生 /早送り 一時停止 リモコン 1 2 3

⓯ ⓰ ⓱ ⓲ ⓳ ⓴ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖

編集コントローラーの電池の入れかた

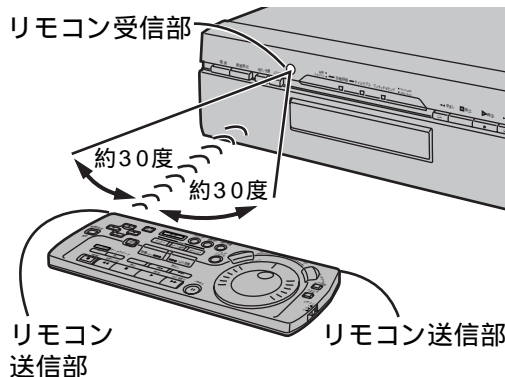
下記の手順で編集コントローラーに電池を入れてください。

1 編集コントローラー裏側の電池ふたを、押さえながら横にずらして外す

2 ⊕・⊖(極性表示)を確かめながら、付属の電池2本を図のように正しく入れる

3 電池ふたを確実に取り付ける

編集コントローラーの操作のしかた

本機のリモコン受信部に向け、確実にボタンを押してください。

- 操作できる範囲は、正面で約7m以内、角度は約60度以内です。
(ただし、周囲の明るさで変わります)

❶ **初期設定／戻るボタン**（☞27）
初期設定: 初期設定メニュー画面を出します。
戻る:　　1つ前の画面に戻ります。

❷ **▲▼◀▶ボタン**（☞27）
メニュー画面上の選択項目を移動させます。

❸ **終了ボタン**（☞27）
メニュー画面を終了させます。

❹ **決定ボタン**（☞47）
▲▼◀▶で選んだ項目を決定します。

❺ **電源ボタン**（☞23）

❻ **編集ボタン**
メニュー:　編集メニュー画面を出します。（☞61）
シーン選択: シーン選択メニュー画面を出します。（☞47）
ダイレクト: ダイレクト編集モードになります。（☞45）

❼ **プリンターボタン**（☞111）
自動プリントをします。

❽ **画面表示ボタン**（☞24）
テレビ画面の文字表示を出したり消したりします。

❾ **時計/残量ボタン**（☞25）
テレビ画面や本体表示部の表示を変えます。

❿ **ジョグ／シャトルボタン**（☞39）
ジョグ／シャトルモードにします。
ジョグ／シャトルモード時は赤く点灯します。

⓫ **マークインボタン**（☞45）
編集開始点を決定します。

⓬ **ジョグ／シャトル**（☞39）
ジョグ/シャトルボタンを押して、ボタンを点灯させたあと操作することができます。
ジョグダイヤル(内側): コマ送り／コマ戻し再生をします。
シャトルリング(外側): 再生の速度を変えます。

⓭ **マークアウトボタン**（☞45）
編集終了点を決定します。

⓮ **入力切換ボタン**（☞18･20）
入力信号を切りかえます。

⓯ **他機(DV)ボタン**（☞18）
外部機器を操作するモードに切りかえます。

⓰ **ページ切換/サーチスピードボタン**（☞48･37）
メニュー表示時: ページを切りかえます。
再生時:　　　再生速度を切りかえます。

⓱ **録画ボタン**（☞35）
録画をします。

⓲ **早戻しボタン**（☞37）
映像を早戻しします。

⓳ **停止ボタン**（☞37）
再生や録画を止めます。

⓴ **再生ボタン**（☞37･105）
再生します。

㉑ **早送りボタン**（☞37）
映像を早送りします。

㉒ **一時停止ボタン**（☞35･39）
静止画再生にしたり、録画を一時停止させます。

㉓ **サーチ選択／頭出しボタン**（☞41）
場面の頭出しをします。

㉔ **(HDD)自機ボタン**（☞18）
本機を操作するモードに切りかえます。

㉕ **ステレオ切換ボタン**（☞43）
ステレオ1音声とステレオ2音声を切りかえます。(12bit音声で記録された映像の再生･DV入力時)

㉖ **リモコン切換スイッチ**（☞27）
編集コントローラーのリモコンモードを切りかえます。

こんなときは

■本体のリモコンモードを切りかえたときは、編集コントローラーのリモコンモードも切りかえておいてください。
本体と編集コントローラーのリモコンモードが違うと、操作できません。（☞27）

接続する

外部機器との接続には、DVケーブルを使う場合とS映像(映像)･音声コードを使う場合があります。ご使用になる機器や機能に合わせて、接続方法をお選びください。

それぞれの機器の電源を｢切｣ にしてから接続してください。(各機器の説明書もお読みください)

DVケーブルを使って接続する場合(DV接続)

DVケーブルを使うと、接続した機器を本機側から制御することができます。編集コントローラーの｢他機(DV)｣ボタンや｢(HDD)自機｣ボタンを使って、制御する機器を切りかえてください。

制御できる機器が本体表示部に表示されます。(☞24)

- 本機から外部機器を制御するときは、｢制御モード｣スイッチの位置は｢本機｣に、また｢自動録画/編集/タイムラプス｣スイッチの位置は｢編集｣にしておいてください。

右ページのように接続してください。

正しく接続できたことを確認するには(テレビに本機の画面を出す)

1 ｢電源｣ボタンを押し、電源を｢入｣にする(☞23)

2 ｢DV端子切換｣スイッチを、使用するDV端子に合わせる

後面の｢DV入力/出力1｣端子のとき:　1
前面の｢DV入力/出力2｣端子のとき:　2

3 ｢入力切換｣ボタンを押して、入力を｢DV｣にする

- 本体表示部で確認できます。(☞24)

4 テレビの入力を、本機と接続した入力に切りかえる

- テレビ画面に本機の文字表示が何も出ていないときは、正しく接続･設定されているかを確認するために、編集コントローラーの｢初期設定｣ボタンを押し、初期設定メニュー画面を表示させてください。表示されない場合は、もう一度、接続･設定をやりなおしてください。
  初期設定メニュー画面をテレビ画面から消すときは、｢終了｣ボタンを押してください。

お願い／ヒント

- 本機は｢ビデオ入力(映像・音声)｣端子がないテレビ(モニター)に接続することはできません。
- モノラルテレビと接続するときは、ステレオ音声をモノラル音声に変換できる、別売の映像・音声コードRP-CVP2G10を使用してください。
- ビデオカメラの再生時に使った映像効果などを取り込むときは、AV接続(☞20)をしてください。そのときは、DVケーブルは抜いておいてください。両方のケーブルを接続していると、画像や音声が乱れる場合があります。
- テレビに｢S映像入力/出力｣端子がある場合は、S映像コードで接続してください。
- S映像コードで接続して画像が乱れる場合、テレビ側に3次元Y/C分離などの設定があるときは、設定を｢オフ｣にしてください。
- 次の音声編集をするときは、AV接続をしてください。
  アフレコ編集
  ミックスダビング編集
  オーディオインサート編集
- DV端子に接続して編集したときは、映像･音声端子で接続の場合に比べて、一部機能が異なります。
- 接続する機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- デジタルビデオカメラの電源は、編集中のバッテリー切れのないよう、ACアダプターのご使用をおすすめします。

手順❺では、本機後面の「DV入力/出力1」端子もお使いいただけます。

■外部機器として当社製のデジタルビデオカメラを本機から制御する場合

ビデオカメラ側を、再生ができるモードにしておいてください。

■外部機器として当社製のデジタルビデオカセットレコーダー(NV-DV10000、NV-DM1など)を本機から制御する場合

外部機器側を以下の設定にしてください。

1 **DV端子が2つ以上ある機種は、使用しているDV端子に切りかえる**

2 **編集モードを「外部」にする**

3 **「編集端子切換」を「DV」にする**

4 **「入力切換」を「DV入力」にする**

それぞれの機器の電源を「切」にしてから接続してください。(各機器の説明書もお読みください)

S映像(映像)･音声コードを使って接続する場合(AV接続)

DV端子のない機器と接続する場合や、音声編集(アフレコ編集･ミックスダビング編集･オーディオインサート編集)をする場合などに、AV接続を行ってください。

右ページのように接続してください。

正しく接続できたことを確認するには(テレビに本機の画面を出す)

1 「電源」ボタンを押し、電源を「入」にする(☞23)

2 「入力切換」ボタンを押し、接続に使用した端子「L1/L2/L3」に入力を合わせる

- 本体表示部で確認できます。(☞24)

3 テレビの入力を、本機と接続した入力に切りかえる

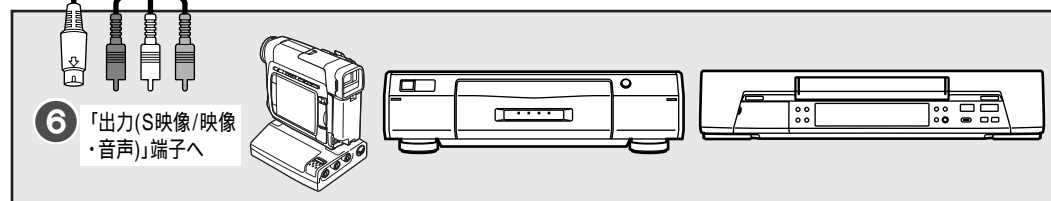
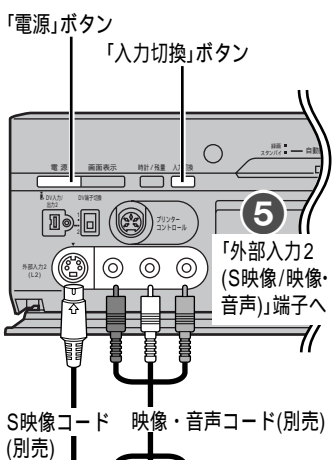
- テレビ画面に本機の文字表示が何も出ていないときは、正しく接続･設定されているかを確認するために、編集コントローラーの「初期設定」ボタンを押し、初期設定メニュー画面を表示させてください。表示されない場合は、もう一度、接続･設定をやりなおしてください。
初期設定メニュー画面をテレビ画面から消すときは、「終了」ボタンを押してください。

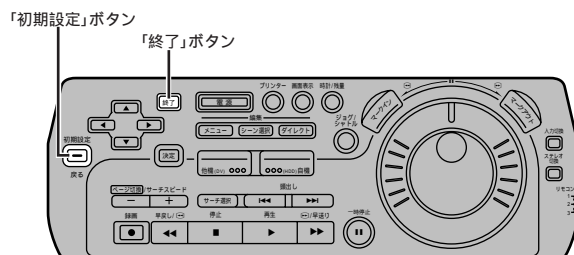
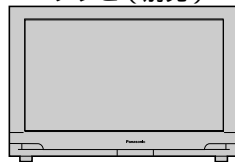
お願い／ヒント

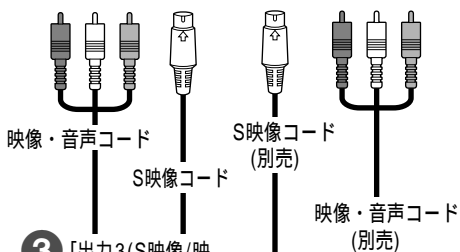
- 誤動作を防ぐために、AV接続ではDVケーブルを本機から外しておいてください。
- 本機は「ビデオ入力(映像・音声)」端子がないテレビ(モニター)に接続することはできません。
- モノラルテレビと接続するときは、ステレオ音声をモノラル音声に変換できる、別売の映像・音声コードRP-CVP2G10を使用してください。
- 接続する機器に「S映像出(入)力」端子が、
  - あるとき: S映像コードでの接続を行ってください。
画像が乱れる場合、テレビ側に3次元Y/C分離などの設定があるときは、設定を「オフ」にしてください。
  - ないとき: 正しい映像を録画するために、本機にS映像コードを接続しないでください。
- 外部機器と本機をS映像コードで接続した場合、S映像からの映像が優先して録画されます。S映像端子のない機器と接続するときは、本機からS映像コードを外してください。
- モノラル音声を録音するときは、前面の「外部入力2」端子の音声「左/モノ」端子に接続してください。
- ビデオカメラの再生時に使った映像効果などを取り込むときは、AV接続をしてください。
そのときは、DVケーブルは抜いておいてください。両方のケーブルを接続していると、画像や音声が乱れる場合があります。
- AV接続をしているときは、本機側から外部機器を制御することはできません。

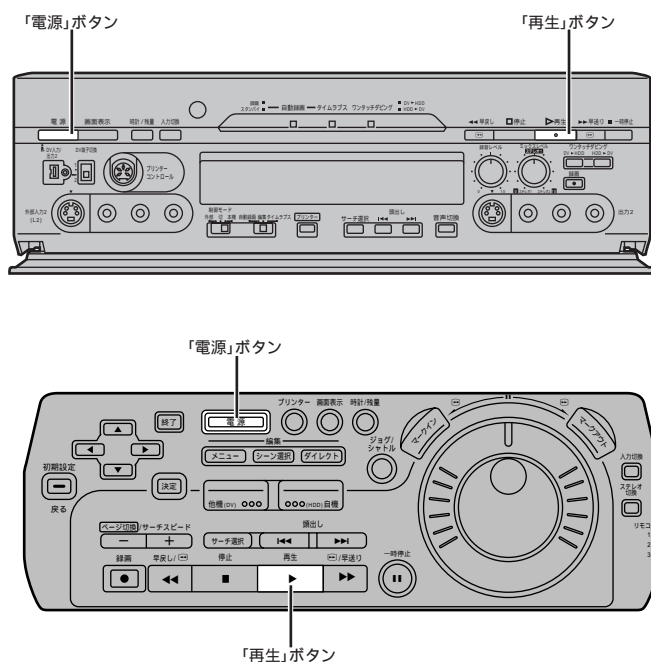
AV接続

テレビとの接続には、「外部入力3」・「出力3」端子をお使いください。

- テレビを外部機器として接続した場合、信号のループにより画像や音声の乱れが発生する場合があるため、「外部入力3」端子に入ってきた信号は「出力3」端子には出力されないようになっています。これ以外の端子の組み合わせは、上記のような仕様にはなっていません。

外部機器 **映像・音声入出力端子のある機器（別売）**

手順❺では、本機後面の「外部入力1(S映像/映像・音声)」端子もお使いいただけます。

準備

接続する

電源について

本機は内部処理のために、電源を「入」にしてから使用できる状態になるまでに多少時間がかかります。

お願い／ヒント

- ハードディスクや、その中に記録されているデータが損なわれるおそれがあるので、本機の動作中は、電源プラグをコンセントから抜かないでください。

電源を「入」にする

「電源」ボタンを押す

- 本体表示部で、「本体選択表示」が点滅します。点滅が終わるまでは、本機の操作はできません。

■本体表示部■

本体選択表示

電源を「切」にする

「電源」ボタンを押す

- 本体表示部で、「本体選択表示」がしばらく点滅します。
  電源プラグをコンセントから抜くときは、点滅が終わるまで待ってください。

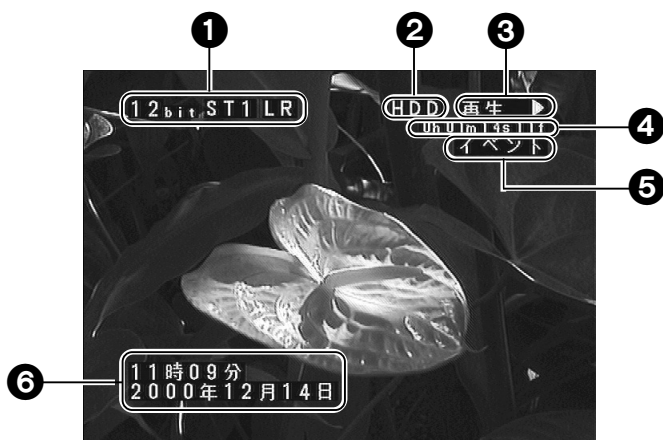
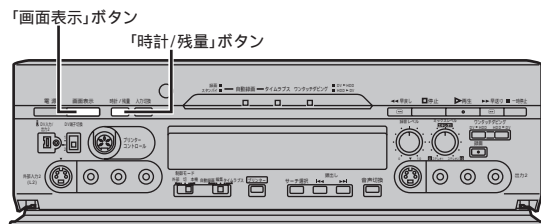
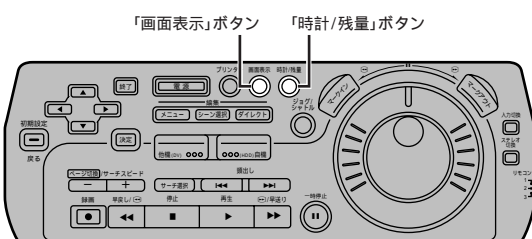
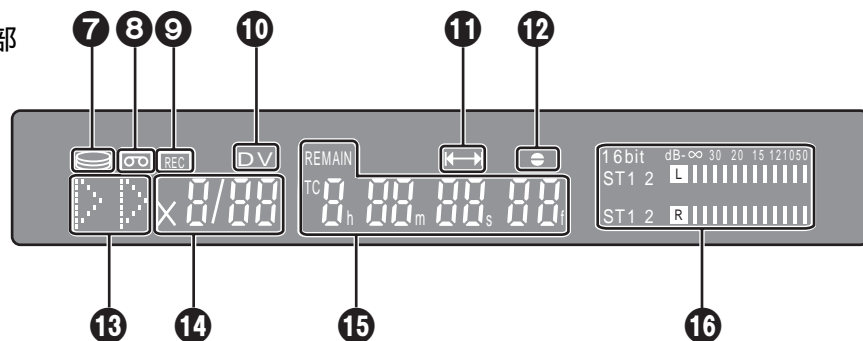
■サンプルの映像について

本機には、あらかじめサンプル映像が入っています。
「再生」ボタンを押して、すぐに再生して見ることができます。
詳しい再生については、36ページをお読みください。

サンプル映像が不要な場合は消去(☞101)してください。

表示について

本機の操作内容や状態を、テレビ画面や本体表示部で確認することができます。

テレビ画面の表示/非表示は、「画面表示」ボタンで行えます。

お願い／ヒント

- L1/L2/L3の入力モードでは、本機の停止状態、および録画中や録画停止状態のときは、テレビ画面に上記の画面表示は何も表示されません。
- 表示❷が「DV」表示で、表示❽の「他機(DV)選択」表示が点灯しているときは、表示⓯のタイムコード表示は他機側のタイムコードを表示します。ただし、巻戻し･早送り時は他機側のタイムコードは「−−」表示となります。

■画面表示■

❶ 音声表示(☞29·43)

❷ 自機/他機選択表示

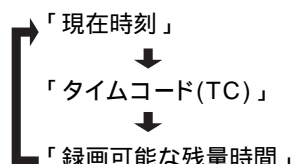
HDD:　自機側での操作時
DV:　他機側での操作時

❸ 動作モード表示

機器の動作状態を表示します。

❹ 現在時刻やタイムコード、録画可能な残量時間の表示

「時計/残量」ボタンを押し、表示を切りかえます。

●ボタンを押すごとに、表示が次のように切りかわります。

❺ サーチ選択表示

その時点で選ばれているサーチの種類を表示します。

❻ 時刻/日付表示

再生信号とDV入力している信号の時刻/日付表示です。
この部分の表示内容は、AV接続をしているときは初期設定の内容によって変わります。(☞27)

■本体表示部■

❼ 本体選択表示

本体の操作が現在、自機(HDD)側であることを示します。

● 電源を「入」「切」した直後や、「制御モード」スイッチを「外部」から「切」または「本機」に切りかえた直後など、操作を受け付けない状態のときに点滅します。

❽ 他機(DV)選択表示

本体の操作が現在、他機(DV)側であることを示します。

❾ 録画表示

❿ DV入力表示

DV入力が選ばれていることを示します。

⓫ シーン登録中表示

ダイレクト編集時、シーンの登録中であることを示します。

⓬ 音声編集表示

アフレコやミックスダビング、オーディオインサート編集の実行中であることを示します。

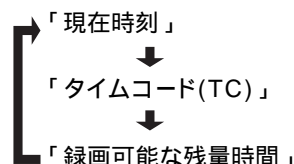
⓭ 動作モード表示

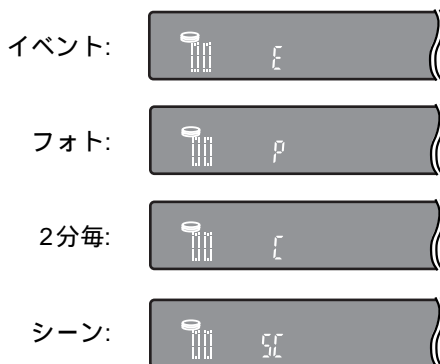
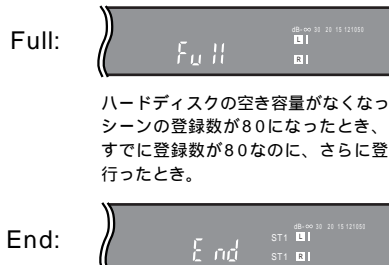
機器の動作状態を表示します。

⓮ 再生スピード/入力表示

⓯ 現在時刻やタイムコード、録画可能な残量時間、サーチ選択項目、サーチ番号、ハードディスクの状態などの表示

「時計/残量」ボタンを押し、表示を切りかえます。

●ボタンを押すごとに、表示が次のように切りかわります。

●サーチ選択項目やサーチ番号は、サーチ操作を行ったときに表示されます。

■本体表示部■

イベント:
フォト:
2分毎:
シーン:
●ハードディスクの状態は、以下のように表示されます。

Full:
ハードディスクの空き容量がなくなったとき。シーンの登録数が80になったとき、あるいはすでに登録数が80なのに、さらに登録操作を行ったとき。

End:
映像記録部またはシナリオの終端にきたとき。

⓰ 音声/音声レベル表示(☞29)

初期設定について

本機をお使いいただくうえで、必要となる設定を説明しています。

● 録画するときの音声モードを選択する ……………………………音声ステレオ(☞29)
● 映像のカラーを選択する ……………………………………………カラー(☞27)
● 日時表示のモードを選択する ………………………………………日時表示(☞27)
● 編集コントローラーのモードを選択する …………………………リモコンモード(☞27)
● 時刻を設定する ………………………………………………………時刻合わせ(☞31)

初期設定メニュー

▷音声ステレオ　12bit　16bit
カラー　切　入
日時表示　切　日付　日時
リモコンモード　1　2　3
時刻合わせ
2000年 12月 14日 10時 56分

▲▼◀▶：選択　終了

「▲▼◀▶」ボタン
「終了」ボタン
「初期設定」ボタン
「リモコン切換」スイッチ
「制御モード」スイッチ

上記の画面イラストは、初期設定メニュー画面の代表例です。

準備

● 「制御モード」スイッチを「外部」以外にする。

お願い／ヒント

● 時刻が合わされていないとき、初期設定メニュー画面の時刻表示は「－－－－年－－月－－日－－時－－分」となります。

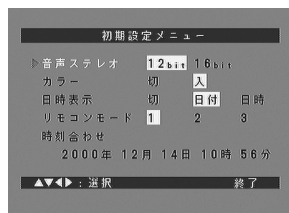
各項目の設定をする

「初期設定」ボタンを押す

● 静止画再生画面、または黒い画面になった後、初期設定メニュー画面が表示されます。

「▲▼」ボタンで設定する項目を選び、「◀▶」ボタンで設定する

設定が終了したら、「終了」ボタンを押す

● 初期設定メニュー画面が消えます。

準備

初期設定について

「初期設定」の内容

カラー

映像に合わせて、カラーを選択する

切: 白黒で録画されている映像を再生するときは、この位置にしてください。(オンスクリーン表示も白黒になりますが、テレビによっては色が少し残る場合があります)

入: 通常はこの位置でご使用ください。

日時表示

日時表示のモードを選択する

切: 日時は表示されません。

日付:年月日を表示します。

日時:年月日時分を表示します。

リモコンモード

当社製の機器を、2台以上同じ場所で操作しようとすると、お互いのリモコン(編集コントローラー)の影響で正しく操作できない場合があります。そのようなときに、モード設定の変更を行ってください。
そのとき、他の機器のリモコンと同じモードにならないように設定してください。

本体側のリモコンモードを設定する

1: 通常はこの位置でご使用ください。
(編集コントローラーの「リモコン切換」スイッチも「リモコン1」にしてください)

2: 2台の当社製機器をご使用になるときは、この位置にしてください。
(編集コントローラーの「リモコン切換」スイッチも「リモコン2」にしてください)

3: 3台の当社製機器をご使用になるときは、この位置にしてください。
(編集コントローラーの「リモコン切換」スイッチも「リモコン3」にしてください)

●次のページへつづく●

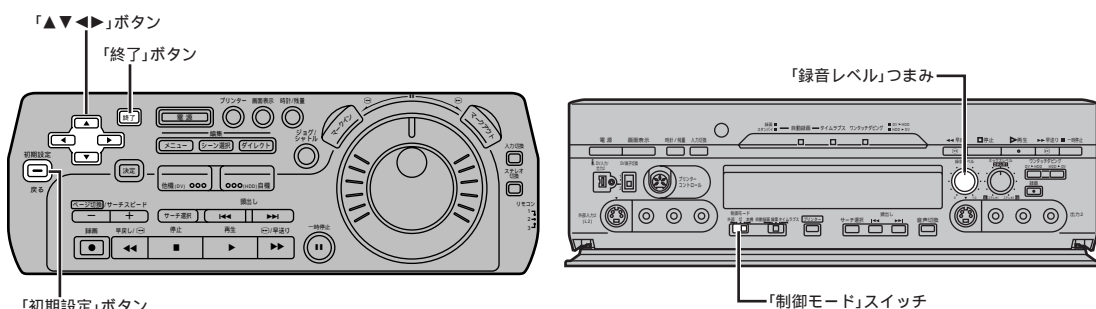
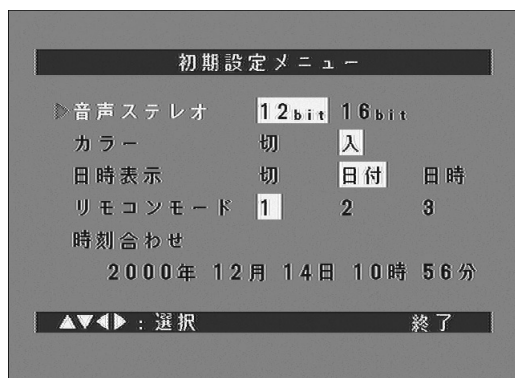
初期設定について つづき

本機をお使いいただくうえで、必要となる設定を説明しています。

初期設定メニュー

▷音声ステレオ　12bit　16bit
カラー　切　入
日時表示　切　日付　日時
リモコンモード　1　2　3
時刻合わせ
2000年 12月 14日 10時 56分

▲▼◀▶：選択　終了

「▲▼◀▶」ボタン
「終了」ボタン
「初期設定」ボタン
「録音レベル」つまみ
「制御モード」スイッチ

上記の画面イラストは、初期設定メニュー画面の代表例です。

- 「制御モード」スイッチを「外部」以外にする。

お願い／ヒント

- 入力切換で「DV」を選んでいるときは、「音声ステレオ」の設定に関係なく、入力される音声信号に合わせて、自動的に「12bit」または「16bit」が選ばれます。
- 16bitモードで記録された映像では、次の編集操作はできません。
  アフレコ編集
  ミックスダビング編集

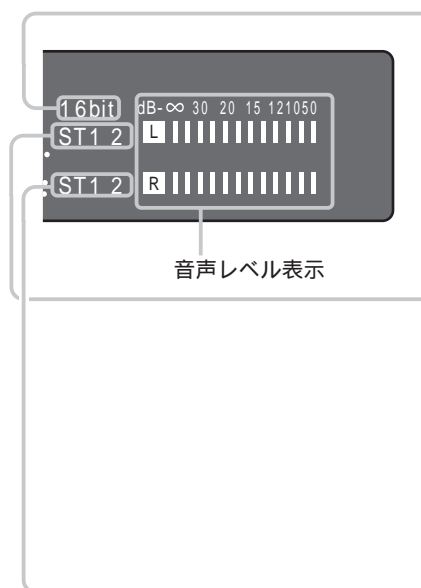
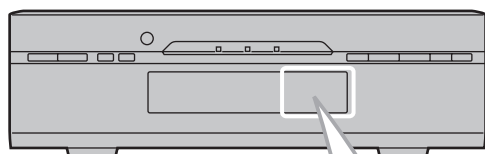
音声ステレオ

記録する映像の音声モードを選択する

12bit: 音声領域を2つに分けて、ステレオ1音声とステレオ2音声の2種類のステレオ音声を記録することができます。
アフレコ編集やミックスダビング編集をするときには、必ず12bitで記録してください。
●S映像(映像)･音声コードを使ったAV接続での録画では、音声はステレオ1トラックに記録されます。ただし、本機でアフレコ編集やミックスダビング編集をしたときは、ステレオ2トラックに記録されます。

16bit: 音声領域のすべてを使って、より高音質のステレオ音声を記録することができます。

本体表示部の音声表示

音声レベル表示

■音声記録データ表示
「16bit」表示
16bit音声で記録された映像の入力･再生時などに点灯。
● 16bit音声でも、通常の再生時以外は点灯しません。
● 12bit音声で記録された映像の入力･再生時は点灯しません。

■音声記録データ表示
「ST1」表示
12bit音声で、ステレオ1音声だけが記録されている映像を入力･再生しているときに点灯。
「ST12」表示
12bit音声で、ステレオ2音声も記録された映像の再生中などに点灯。
● 16bit音声時は表示されません。

■音声モニター表示(12bit音声時のみ表示)
「ST1」表示
ステレオ1音声を選んだときに点灯。
「ST2」表示
ステレオ2音声を選んだときに点灯。
● ステレオ1+2(ミックス)音声を選ぶと、「ST1 2」と表示します。

■録音レベルを変えるときは

「録音レベル」つまみで調整する

● つまみは1回押すと出てきます。
（正面のとびらを閉じるときは、つまみを本体の中に押し込んでください）
● 本体表示部の「音声レベル表示」が「－15」程度になるようにしてください。
● DV入力からの音声レベルは調整できません。

初期設定について つづき

本機をお使いいただくうえで、必要となる設定を説明しています。

初期設定メニュー：時刻合わせ

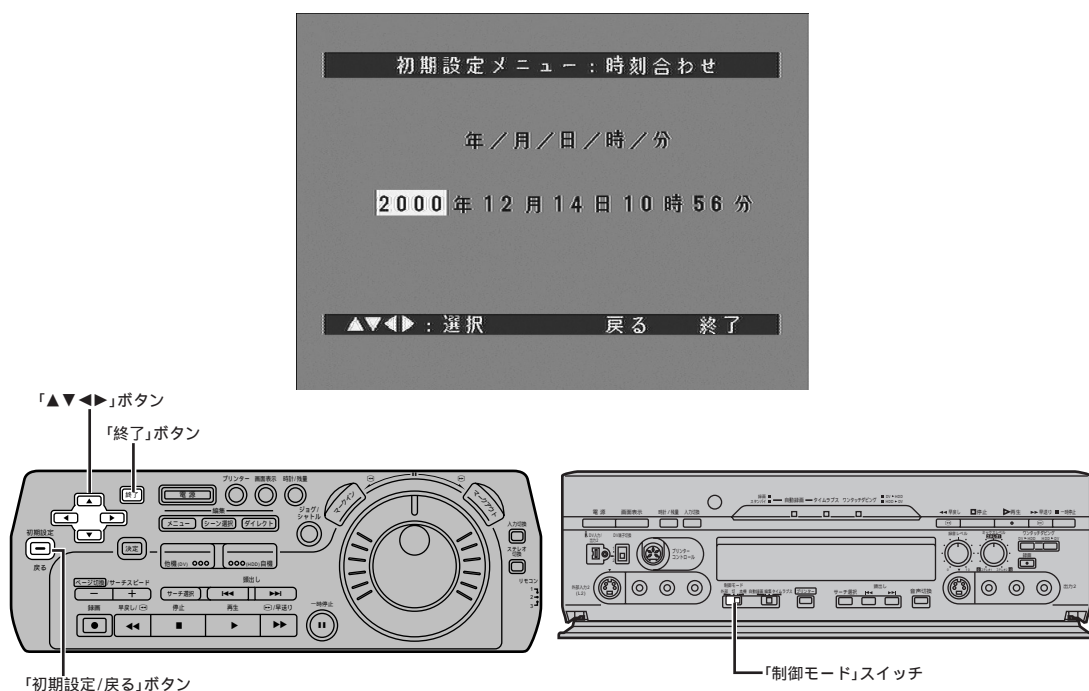
年／月／日／時／分

2000年 12月 14日 10時 56分

▲▼◀▶：選択　　戻る　終了

「▲▼◀▶」ボタン

「終了」ボタン

「初期設定/戻る」ボタン

「制御モード」スイッチ

上記の画面イラストは、時刻合わせ画面の代表例です。

- 「制御モード」スイッチを「外部」以外にする。

お願い／ヒント

- 時計の誤差は、１ヶ月あたり、前後1分間ほどです。
- 時計は24時間表示です。
- 1988年～2087年まで合わせることができます。
- 時刻が合わされていないとき、時刻表示は「－－－－年－－月－－日－－時－－分」となります。

時刻合わせ

時刻の設定をする

本機の時計は工場出荷時には設定されていないので、最初に時刻合わせをする必要があります。
時刻を合わせてから約5年間は、「自動バックアップ機能」(停電にも対応)が働きます。
本機を電源コンセントに接続すると、本体表示部に現在時刻が表示されます。

時刻合わせをするときは、以下の操作をしてください。

「初期設定」ボタンを押す

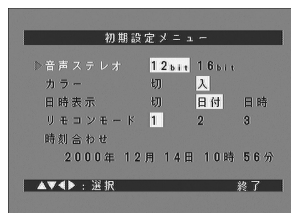
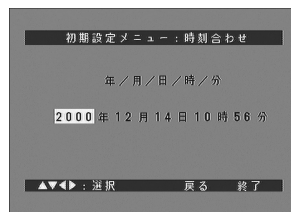
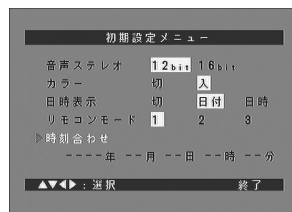
- 初期設定メニュー画面が表示されます。

「▲▼」ボタンを使って「時刻合わせ」を選び、「◀」または「▶」ボタンを押す

- 初期設定メニュー:時刻合わせ画面が表示されます。

「◀▶」ボタンで項目を選び、「▲▼」ボタンで数値を設定する

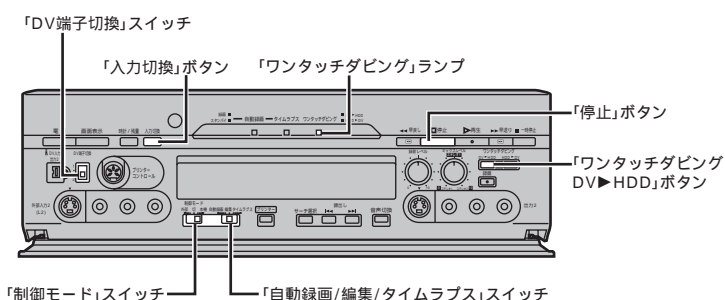
設定が終了したら、「戻る」ボタンを押す

- 初期設定メニュー画面に戻ります。
- この時点から、時計が動きはじめます。

初期設定モードを解除するときは

「終了」ボタンを押す

編集する映像を取り込む(ダビング／録画)

本機では、映像をいったんハードディスクに取り込んでから(録画してから)編集をします。
取り込める映像の時間は、最大約80分間です。取り込み方法には、以下の2種類があります。

ワンタッチダビング: ボタン操作ひとつで、他機から本機へ映像を取り込みます。
マニュアルダビング／録画: 他機と本機それぞれの機器を、手動で操作して映像を取り込みます。

上記の画面イラストは、ワンタッチダビング中の画面の代表例です。

準備

- 「制御モード」スイッチを「本機」にする。
- 「自動録画/編集/タイムラプス」スイッチを「編集」にする。

ワンタッチダビング

ボタン操作ひとつで、他機から本機へ画像を取りこむことができます。この機能は、DVケーブルを使ってデジタルビデオ機器と接続されている場合(DV接続)にのみ動作します。DV入力の信号だけが、ワンタッチダビングで本機に取り込まれます。

ビデオカメラと接続するときは、必ずビデオカメラ側を再生ができるモードにしておいてください。

「入力切換」ボタンで「DV」の入力モードを選び、選んだDV端子に「DV端子切換」スイッチを合わせる

- 本体表示部に表示されます。

本体の「ワンタッチダビング DV►HDD」ボタンを押す

- 本体の「ワンタッチダビング」ランプが赤く点灯し、信号が入力されると録画が始まります。
- ダビングが終了すると、自動的に録画を終了します。

■本体表示部■

ワンタッチダビングをやめるときは

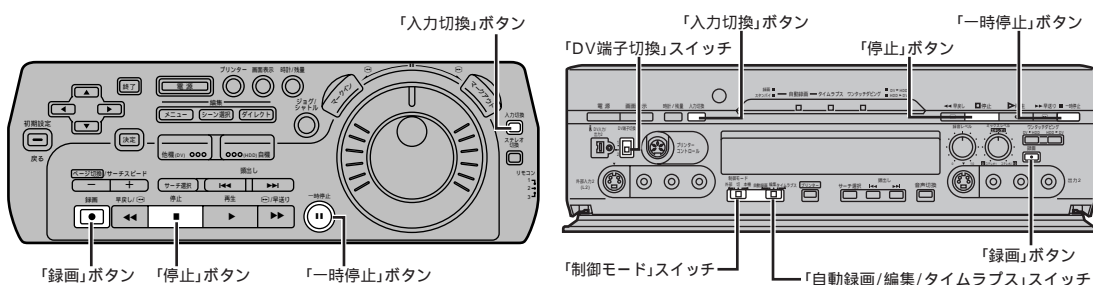
「停止」ボタンを押す

お願い／ヒント

- 録画される映像は、常にハードディスクの未記録部分の始端から録画されます。
- ワンタッチダビングでは、デジタルビデオ機器のその時点のテープ位置付近の映像から録画を始めます。
- ダビング中にハードディスクの容量がいっぱいになると、自動的に録画を終了します。
- タイムコード(☞118)は、新たに本機側で連続して付け直されます。
- ダビング中に、「DV端子切換」スイッチを切りかえないでください。
- ダビング中に、デジタルビデオ機器側の操作をしないでください。
- ダビング元の映像に未記録部分がある場合は、その部分のみ録画を停止し、記録部分が始まると、録画を再開します。
  録画の停止状態が約5分以上続くと、自動的にワンタッチダビングが終了し、停止状態になります。
- 他機も本機と同じ機種(NV-HDD1)であった場合、他機側は再生映像の終端に来ると一時停止し、「停止」ボタンを押さなければそのままの状態で、約5分後に停止状態になります。その場合、映像を取り込んでいる本機では、上記の約5分間の静止画再生の映像も記録されます。
- 使用されるデジタルビデオ機器によっては、正しくワンタッチダビングが動作しないことがあります。その場合は、マニュアルダビング(☞35)を行ってください。
- 使用されるデジタルビデオ機器や再生されるテープによっては、ダビングした映像や音声が正しく再生されない場合があります。

編集する映像を取り込む(ダビング／録画)　つづき

本機では、映像をいったんハードディスクに取り込んでから(録画してから)編集をします。
取り込める映像の時間は、最大約80分間です。取り込み方法には、以下の2種類があります。

ワンタッチダビング:　ボタン操作ひとつで、他機から本機へ映像を取り込みます。
マニュアルダビング／録画:　他機と本機それぞれの機器を、手動で操作して映像を取り込みます。

上記の画面イラストは、マニュアルダビング中の画面の代表例です。

準備

- AV接続をしているときは、DVケーブルは外しておく。
- 「制御モード」スイッチを「切」にする。
- 「自動録画/編集/タイムラプス」スイッチを「編集」にする。

お願い／ヒント

- 録画される映像は、常にハードディスクの未記録部分の始端から録画されます。
- ダビング中にハードディスクの容量がいっぱいになると、自動的に録画を終了します。
- ダビング中に、「DV端子切換」スイッチを切りかえないでください。
- DV入力のダビング中に、他機側で早送り再生や巻戻し再生をすると、多数のイベント(☞41・47)が登録されてしまいます。
- DV入力のダビング中に記録する信号がなくなると、自動的に録画停止状態になります。
このときに入力モードを切りかえる場合は、いったん停止状態にしてから行ってください。
- 日時表示などの画面表示を録画したくないときは、他機側で表示を消しておいてください。

マニュアルダビング／ハードディスクに録画

他機と本機それぞれの機器を、手動で操作して映像を取り込むことができます。

「入力切換」ボタンや「DV端子切換」スイッチを使って、他機を接続している入力モードを、「DV(1･2)／L1／L2／L3」のいずれかで選ぶ

- 本体表示部に表示されます。

■本体表示部■

録画用の入力映像の準備をした後、本機の「録画」ボタンを押す

- ダビング／録画が始まります。

マニュアルダビング／録画を一時停止するときは

「一時停止」ボタンを押す

- マニュアルダビング/録画を再開するには、もう一度、「一時停止」ボタンを押す

マニュアルダビング／録画をやめるときは

本機の「停止」ボタンを押し、他機側の再生もやめる

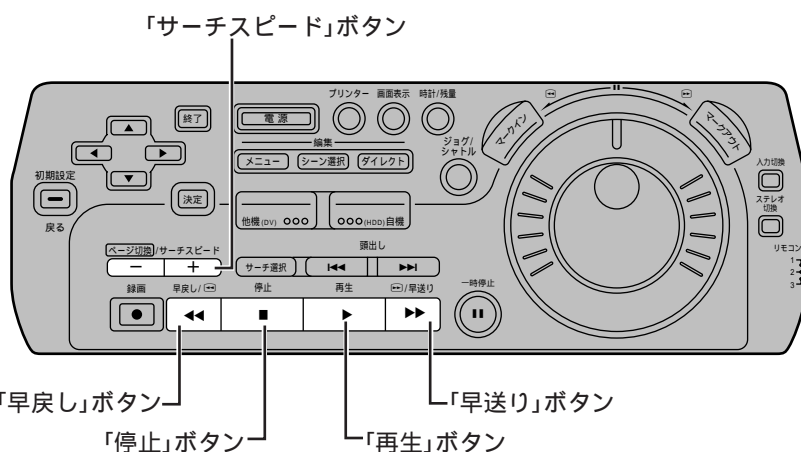
再生する(映像を見る)

ハードディスクに取り込んだ映像を再生して見ることができます。

本機にはサンプル映像があらかじめ入っているので、それを再生することもできます。サンプル映像が不要な場合は消去(☞101)してください。

再生として、以下の操作ができます。

- 映像の始端や終端に早戻し･早送りする ……(☞37)
- 通常の再生をする ……(☞37)
- 早戻し再生や早送り再生をする ……(☞37)
- 再生の速度を切りかえる ……(☞37)
- 静止画再生をする ……(☞39)
- 速度を変えて再生する(ジョグ／シャトル) ……(☞39)
- 場面を頭出しする(サーチ) ……(☞41)
- 再生中の音声を選ぶ ……(☞43)

準備

- ハードディスクに映像を取り込んでおく。(☞33･35)

お願い／ヒント

- 本機で録画をすると、どの部分から録画をはじめても、常にその映像はハードディスクの未記録部分の始端から録画されます。
  そのため、録画された映像は、記録された順に再生されます。
- 「シーン」サーチモード(☞41)のときは、シナリオ(☞46･47)通りに再生されます。そのため、シーンとして登録されていない部分の映像は再生されません。
  また、早戻しや早送りをしたときは、シナリオの始端と終端に送られます。
- 通常の再生以外のときは、音声は出ません。

映像の始端や終端に早戻し・早送りする

■早戻しするときは

停止中に、「早戻し」ボタンを押す

- 瞬時に始端に送ります。

■早送りするときは

停止中に、「早送り」ボタンを押す

- 瞬時に終端に送ります。
- 本体表示に「End」と表示されます。

■本体表示部■

通常の再生をする

「再生」ボタンを押す

- 再生が始まります。

再生をやめるときは

「停止」ボタンを押す

早戻し再生や早送り再生をする

■早戻し再生をするときは

再生中に、「早戻し」ボタンをポンと短く押す

- 早戻し再生が始まります。
- 押し続けると、押している間だけ早戻し再生を行い、指を離すと通常の再生に戻ります。

■早送り再生をするときは

再生中に、「早送り」ボタンをポンと短く押す

- 早送り再生が始まります。
- 押し続けると、押している間だけ早送り再生を行い、指を離すと通常の再生に戻ります。

通常の再生に戻すときは

「再生」ボタンを押す

再生の速度を切りかえる

再生中に**「サーチスピード」ボタンを押し、再生速度を選ぶ**

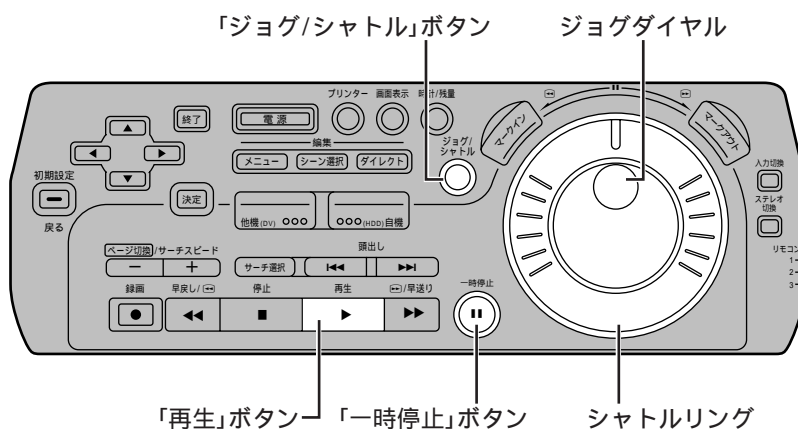
- 速度の種類には、1/32倍速・1/8倍速・1/4倍速・1倍速・2倍速・8倍速・32倍速があり、「+」「−」ボタンを押す回数で、速度や再生方向を変えることができます。
- 1/32倍速・1/8倍速・1/4倍速は、スロー再生／逆スロー再生となります。

通常の再生に戻すときは

「再生」ボタンを押す

再生する(映像を見る) つづき

ハードディスクに取り込んだ映像を再生して見ることができます。

「ジョグ/シャトル」ボタン
ジョグダイヤル
「再生」ボタン
「一時停止」ボタン
シャトルリング

● ハードディスクに映像を取り込んでおく。(☞33・35)

お願い／ヒント

● 通常の再生以外のときは、音声は出ません。

静止画再生をする

「一時停止」ボタンを押す

- 静止画再生モードになります。

静止画再生モードを解除するときは

「再生」ボタンを押す

- 通常の再生になります。
- 「一時停止」ボタンをもう一度押しても、通常再生になります。
- 静止画再生モードが約5分以上続くと、自動的に停止状態になります。

速度を変えて再生する(ジョグ／シャトル)

ジョグダイヤルとシャトルリングを使うと、コマ送り／コマ戻し再生をしたり、再生の速度を変えたりすることができます。

■ジョグ/シャトルモードにする

「ジョグ/シャトル」ボタンを押す

ジョグ/シャトルモードになると、

- 「ジョグ/シャトル」ボタンが点灯し、編集コントローラーがジョグ/シャトルモードになります。
- 静止画再生になります。

→何も操作せずに約30秒以上放置すると、ボタンが消灯します。このときは、「ジョグ/シャトル」ボタンをもう一度押すと、ボタンが再び点灯し、編集コントローラーがジョグ/シャトルモードに戻ります。

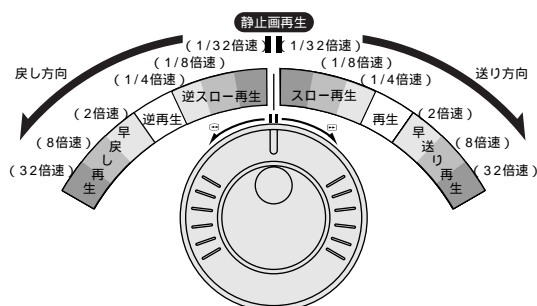
■コマ送り/コマ戻し再生をする

ジョグ/シャトルモードにしたあと、ジョグダイヤルをゆっくりと回す

- 右に回すと送り方向、左に回すと戻し方向に1コマずつ送っていきます。
- 早く回すと通常の再生になります。

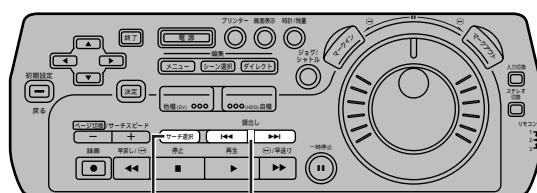
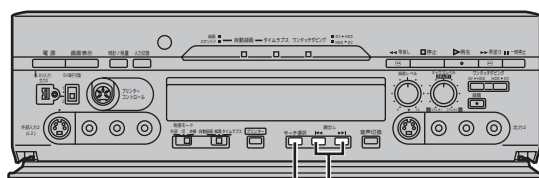
■再生の速度を変える

ジョグ/シャトルモードにしたあと、シャトルリングを回す

- 右へ回すと送り方向、左へ回すと戻し方向へと速度を増していきます。
- 回す角度により、再生速度や再生の方向が変わります。
- 内側のジョグダイヤルを一緒に回してしまうと、再生速度が正しく変わっていかない場合がありますので、お気をつけください。

ジョグ/シャトルモードを解除するときは

「ジョグ/シャトル」ボタンを押す

再生する(映像を見る)　つづき

ハードディスクに取り込んだ映像を再生して見ることができます。

上記の画面イラストは、「イベント」サーチを選択した例です。

準備

● ハードディスクに映像を取り込んでおく。(☞33･35)

お願い／ヒント

● ハードディスクに取り込んだ映像にフォトショット用インデックス信号がないときや、シーンが登録されていないときは、「フォト」や「シーン」のサーチはできません。
●「イベント」や「フォト」の検出は、録画する映像の再生機や再生状態によって変わります。

場面を頭出しする(サーチ)

本機には、「イベント」、「フォト」、「コンテンツ(2分毎)」、「登録済みシーン(シーン)」の4種類の頭出し(サーチ)機能があります。

■イベント
録画された内容の時間が約2秒以上あいている部分や、「インデックス(頭出し)信号」が打たれている部分を探し出します。

■フォト
「フォトショット用インデックス信号」が記録された場面(当社製のデジタルビデオカメラでフォトショット撮影された映像など)を探し出します。

■コンテンツ(2分毎)
ハードディスク内の映像を約2分間隔で場面として探し出します。

■登録済みシーン(シーン)
登録されているシーン(☞59)を探し出します。

頭出し(サーチ)を実行するときは:

「サーチ選択」ボタンを押し、頭出しの種類を選ぶ

- 押すごとに、「イベント」、「フォト」、「2分毎」、「シーン」と種類が切りかわります。

サーチの種類

見たい場面／画像がある方向の、
「頭出し」ボタンを押す

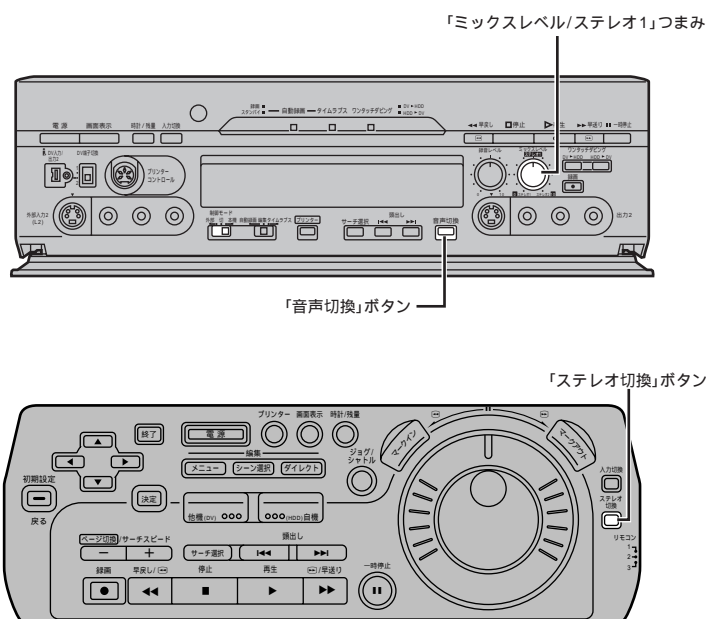
- サーチされたシーンが静止画再生になります。
- 続けて押したり、反対方向のボタンを押したりすると、頭出しの種類にしたがって、サーチされる場面が変わります。

サーチシーンの番号

再生する(映像を見る)　つづき

ハードディスクに取り込んだ映像を再生して見ることができます。

「ミックスレベル/ステレオ1」つまみ

「音声切換」ボタン

「ステレオ切換」ボタン

● ハードディスクに映像を取り込んでおく。(☞33・35)

■「L(左)」音声と「R(右)」音声について

2カ国語放送などの二重放送のときは、「L(左)」音声に「主」音声が、「R(右)」音声に「副」音声がそれぞれ記録されています。
AV接続で映像を録画するときは、再生機側は両方の音声を出力しておいてください。

■DV入力を選んでいるときは(12bit音声時)

「ステレオ切換」ボタンでDV入力信号の音声トラックを選ぶことができます。

● ダビングなどの際は、記録する音声モードの選択(☞29)に関係なく、本機に送られてくる音声データをそのまま記録します。

再生中の音声を選ぶ

1

「ステレオ切換」ボタンで、聞きたい音声トラックを選ぶ

■12bitモードで記録された映像の再生中

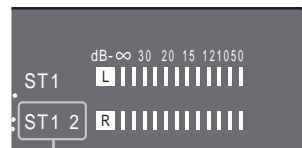
押すごとに、

ST1:　「ステレオ1」トラックの音声
ST2:　「ステレオ2」トラックの音声
ST12:「ステレオ1+2」(ミックス)の音声

が選べます。

16bitモードで記録された映像の音声トラックは切りかえることはできません。

■本体表示部■

dB-∞ 30 20 15 121050
ST1 L
ST1 2 R

この部分の表示が
変化します。

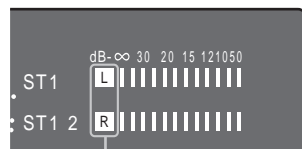
2

「音声切換」ボタンで、聞きたい音声を選ぶ

押すごとに、

L:　「左」音声
R:　「右」音声
L R:　「左+右」音声

が選べます。

dB-∞ 30 20 15 121050
ST1 L
ST1 2 R

この部分の表示が
変化します。

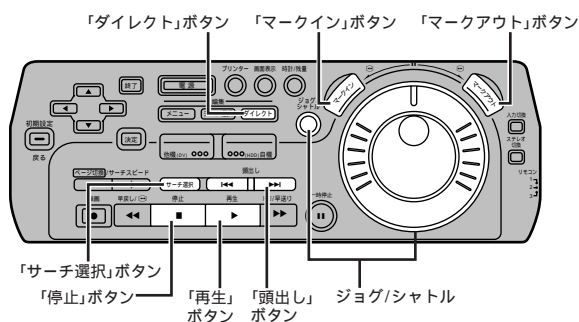
「ステレオ1＋2」音声のバランスを変えるとき

12bitモードでST1とST2に音声が記録された映像でのみ可能です。

再生中に、「ステレオ1＋2」の音声を選んだあと、
「ミックスレベル／ステレオ1」つまみを回してバランスを調整する

- つまみは1回押すと出てきます。
（正面のとびらを閉じるときは、つまみを本体の中に押し込んでください）
- 左に回すと「ステレオ1」音声が、右に回すと「ステレオ2」音声が大きく聞こえます。

ダイレクト編集(再生しながらシーンを登録する)

取り込んだ映像を再生しながら、またはDV入力のマニュアルダビングで映像を録画しながら、編集に使いたい場面を直接登録していくことができます。

上記の画面イラストは、ダイレクト編集中の画面の代表例です。

準備

● ハードディスクに映像を取り込んでおく。(☞33・35)

お願い／ヒント

● 登録したシーンは、シーン選択メニュー画面の「登録済みシーン」(☞59)画面、またはアッセンブル編集(☞62)画面で確認できます。
● 80シーンまで登録できます。
● 編集を正しく行うために、シーンは最低3秒以上の長さで登録してください。
● イン点とアウト点の位置が逆転すると登録できません。
● 静止画再生モードが約5分以上続くと、自動的にダイレクト編集が終了し、停止状態になります。

「ダイレクト」ボタンを押す
- 静止画再生画面になり、ダイレクト編集の表示が出ます。
- テレビ画面や本体表示部に、登録するシーンのシーン番号が表示されます。本体表示部のシーン番号表示は、数秒で消えます。

編集したい場面を探す
- 「再生」ボタン、「サーチ選択」ボタン、「頭出し」ボタン、ジョグ/シャトルなどを使って探すことができます。(☞37・41・39)
  ただし、「シーン」サーチは使用できません。

編集したい場面で「マークイン」ボタンを押し、登録の編集開始点を決める
- 本体表示部にシーン登録中表示が出ます。

編集を終了したい場面で「マークアウト」ボタンを押し、登録の編集終了点を決める
- テレビ画面や本体表示部に、次に登録するシーンのシーン番号が表示されます。本体表示部のシーン番号表示は、数秒で消えます。

続けて編集をするときは

手順 2 ～ 4 を繰り返す

編集をやめるときは

「ダイレクト」ボタンを押す
- 静止画再生モードになります。
- 「停止」ボタンでもダイレクト編集は終了しますが、再生や録画などの動作も終了します。

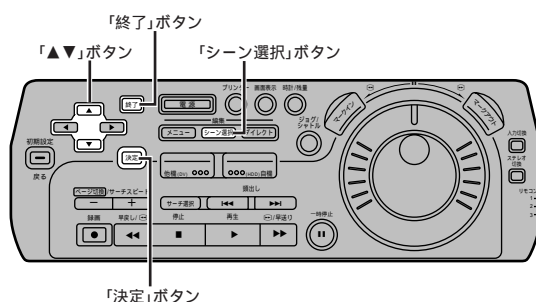
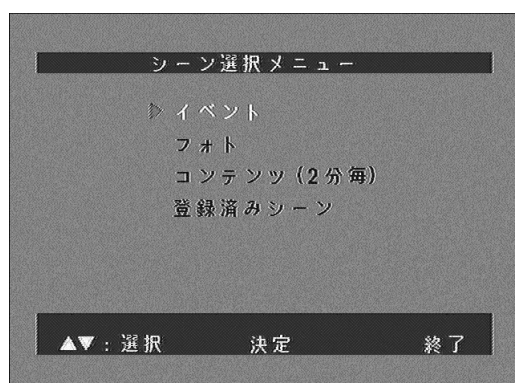
シーン番号

■本体表示部■

シーン番号

シーン登録中表示

シーン選択編集(シナリオを作る)

編集に使いたいシーンを選択･登録し、シナリオを作ります。
シナリオとは、編集する映像のストーリー構成のことです。
登録したシーンを並べて、１つのストーリーにしていきます。

上記の画面イラストは、シーン選択メニュー画面の代表例です。

準備

- 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
- ハードディスクに映像を取り込んでおく。(☞33･35)

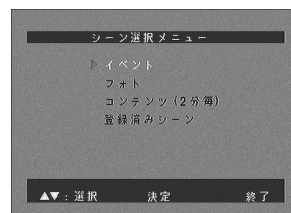
お願い／ヒント

- 「イベント」や「フォト」の検出は、最大999シーンまでできます。
- 「イベント」や「フォト」の検出は、録画する映像の再生機や再生状態によって変わります。
- フォトシーンを登録する場合、そのシーンの最初の場面から約1秒進んだ位置から約3秒間登録されます。
- フォトの静止画部分が短い場合は、正常に登録されない場合があります。

「シーン選択メニュー」画面を出す

「シーン選択」ボタンを押す

● 数秒間の静止画再生の後、シーン選択メニュー画面が表示されます。

シーン選択メニュー
▷ イベント
フォト
コンテンツ(2分毎)
登録済みシーン
▲▼:選択　決定　終了

「▲▼」ボタンを使って、シーンを選択する方法を選ぶ

イベント:
録画された内容の時間が約2秒以上あいている部分や、「インデックス(頭出し)信号」が打たれている部分がシーンとして検出されます。

フォト:
当社製のデジタルビデオカメラなどで録画された映像にフォトインデックス信号が入っているとき、その部分がシーンとして検出されます。
検出されるのはフォト部分の約1秒目です。

コンテンツ(2分毎):
取り込んだ映像が約2分間隔ごとにシーンとして検出されます。

「登録済みシーン」では、上記の方法から登録されたシーンと、ダイレクト編集(☞44)やアッセンブル編集(☞62)で登録されたシーンが表示されます。
これがシナリオです。

「決定」ボタンを押す

● 選択したメニューの画面が表示されます。

シーン選択編集を終了するときは

「終了」ボタンを押す

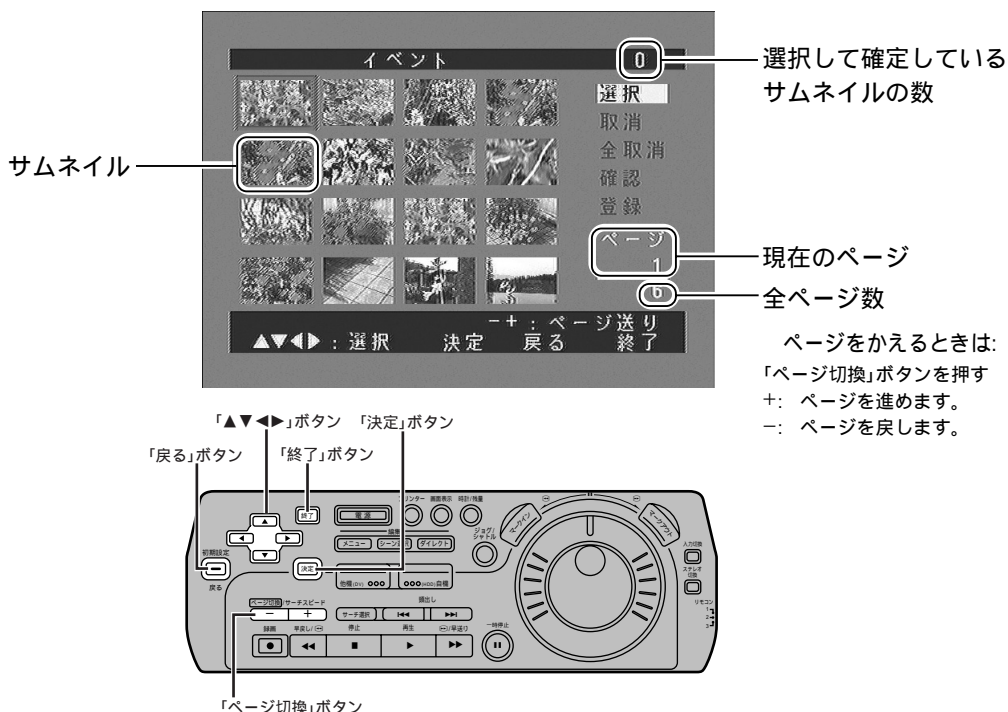
● シーン選択編集の画面が消えます。

シーン選択編集(シナリオを作る)　つづき

編集に使いたいシーンを選択・登録し、シナリオを作ります。

■ページをかえるときは:
「ページ切換」ボタンを押す
+:　ページを進めます。
−:　ページを戻します。

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

準備

- 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
- ハードディスクに映像を取り込んでおく。(☞33・35)
- シーン選択メニュー画面から希望のメニューを選び、画面を表示させておく。(☞47)

お願い／ヒント

- 選択できるのは80シーンまでです。
- シーンとして登録できるのは80シーンまでなので、選択して確定しているシーン数と「登録済みシーン」(☞59)のシーン数との合計が80シーンをこえると、「シーン登録数が一杯です」というエラーメッセージが出ます。この場合、シーンの選択は80シーンまではできますが、登録はできません。
- 同じシーンのサムネイルを複数選択できます。

サムネイルとは

画像を縮小表示したものです。
サムネイルに表示されている画像は、シーンの先頭の部分です。

シーンを選ぶ

編集したいシーンを選び、確定します。

「選択」が選ばれていることを確認する

- 選ばれていない場合は「戻る」ボタンを押し、「▲▼」ボタンで「選択」を選んでから「決定」ボタンを押します。

「▲▼◀▶」ボタンを使って、選択したいシーンをサムネイルから選ぶ

- 選択しているサムネイルは、赤枠表示になります。

「決定」ボタンを押し、選択を確定する

- サムネイルの赤枠表示が黄色になります。

続けて複数の選択をするときは

手順 2 〜 3 を繰り返す

選択モードを解除するときは

「戻る」ボタンを押す

- 操作モードを選択できる画面になります。
  ここで、再度「戻る」ボタンを押すとシーン選択メニュー画面に戻り、サムネイルの選択は取り消されます。

操作モード

シーン選択編集を終了するときは

「終了」ボタンを押す

- シーン選択編集の画面が消え、サムネイルの選択は取り消されます。

シーンを選択して確定した後は

確定を１つだけ取り消したい場合 ……………………………………☞51

確定を全部まとめて取り消したい場合 ………………………………☞53

選択したシーンを再生して確認したい場合 …………………………☞55

確定したシーンを登録したい場合 ……………………………………☞59

シーン選択編集(シナリオを作る)　つづき

編集に使いたいシーンを選択･登録し、シナリオを作ります。

上記の画面イラストは、手順 1 のときの例です。

準備

- 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
- ハードディスクに映像を取り込んでおく。(☞33･35)
- シーン選択メニュー画面から希望のメニューを選び、画面を表示させておく。(☞47)

お願い／ヒント

- 複数選択されているサムネイルは、選択されている回数分の取り消しを行わないと選択は解除されず、黄色の表示枠は消えません。

シーンの選択を1つずつ取り消す

シーンの選択を1つずつ解除します。

「▲▼」ボタンを使って「取消」を選ぶ

- 操作モードが選べない場合は、「戻る」ボタンを押してください。

操作モード

「決定」ボタンを押す

「▲▼◀▶」ボタンを使って、選択を取り消したいシーンをサムネイルから選ぶ

- 選択しているサムネイルは、黄色の表示枠の上に赤枠表示が重なった状態になります。

「決定」ボタンを押す

- 選択が解除され、サムネイルから黄色の表示枠が消えます。

続けて複数の選択を取り消すときは

手順 3 〜 4 を繰り返す

取消モードを解除するときは

「戻る」ボタンを押す

- 操作モードを選択できる画面になります。
  ここで、再度「戻る」ボタンを押すとシーン選択メニュー画面に戻り、サムネイルの選択は取り消されます。

シーン選択編集を終了するときは

「終了」ボタンを押す

- シーン選択編集の画面が消え、サムネイルの選択は取り消されます。

シーン選択編集(シナリオを作る)　つづき

編集に使いたいシーンを選択･登録し、シナリオを作ります。

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

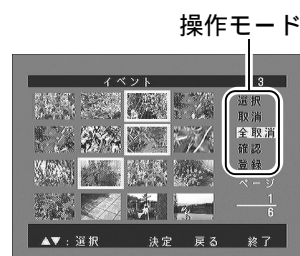
準備

- 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
- ハードディスクに映像を取り込んでおく。(☞33･35)
- シーン選択メニュー画面から希望のメニューを選び、画面を表示させておく。(☞47)

シーンの選択をすべて一度に取り消す

複数のシーンが選択されている場合、一度にすべて解除します。

「▲▼」ボタンを使って「全取消」を選ぶ

- 操作モードが選べない場合は、「戻る」ボタンを押してください。
- 「全取消」をやめたいときは、操作モードから「全取消」以外の項目を選んでください。

「決定」ボタンを押す

- 選択が解除され、すべてのサムネイルから黄色の表示枠が消えます。
- 「選択」モードの画面になり、最後に選択されていたサムネイルが赤枠表示になります。

シーン選択編集を終了するときは

「終了」ボタンを押す

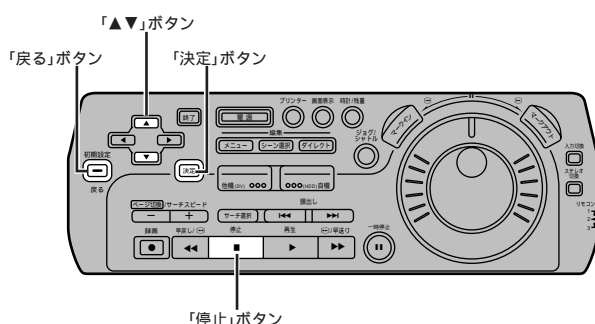
- シーン選択編集の画面が消えます。

シーン選択編集(シナリオを作る)　つづき

編集に使いたいシーンを選択･登録し、シナリオを作ります。

「▲▼」ボタン
「戻る」ボタン
「決定」ボタン
「停止」ボタン

上記の画面イラストは、手順 2 のときの例です。

準備

- 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
- ハードディスクに映像を取り込んでおく。(☞33･35)
- シーン選択メニュー画面から希望のメニューを選び、画面を表示させておく。(☞47)

シーンを再生する（指定されたシーンを再生）

指定(選択･確定)されたシーンすべてを再生します。

「▲▼」ボタンを使って「確認」を選ぶ

- 操作モードが選べない場合は、「戻る」ボタンを押してください。

2 「決定」ボタンを押す

- 選択･確定した順に、シーンが再生されます。
  再生が終わると数秒間の静止画再生の後、手順 1 の画面に戻ります。

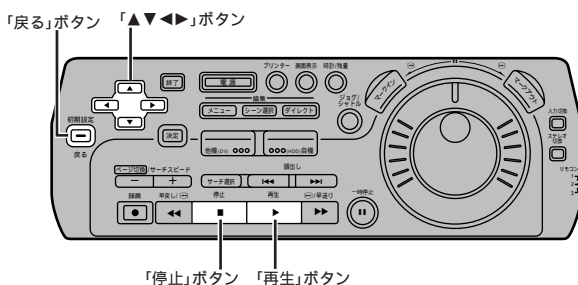
再生をやめるときは

「停止」ボタンを押す

- 数秒間の静止画再生の後、手順 1 の画面に戻ります。

■もう一つの再生方法

シーンを再生する方法として、上記の他にもう一つあります。
その方法では、一つのシーンだけを簡単に再生できます。
詳しくは57ページをお読みください。

シーン選択編集(シナリオを作る)　つづき

編集に使いたいシーンを選択･登録し、シナリオを作ります。

上記の画面イラストは、手順 *3* のときの例です。

準備

- 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
- ハードディスクに映像を取り込んでおく。(☞33･35)
- シーン選択メニュー画面から希望のメニューを選び、画面を表示させておく。(☞47)

シーンを再生する（一つのシーンだけを再生）

一つのシーンだけを再生します。

● 以下の操作では、49ページで説明している「シーンの確定」操作は必要ありません。

「▲▼」ボタンを使って「選択」を選ぶ

● 操作モードが選べない場合は、「戻る」ボタンを押してください。

「▲▼◀▶」ボタンを使って、再生したいシーンをサムネイルから一つ選ぶ

● 選択しているサムネイルは、赤枠表示になります。

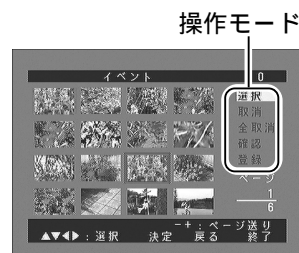
「再生」ボタンを押す

● 再生が始まります。
指定されたシーンの終了点がくると、数秒間の静止画再生の後、手順 2 の画面に戻ります。

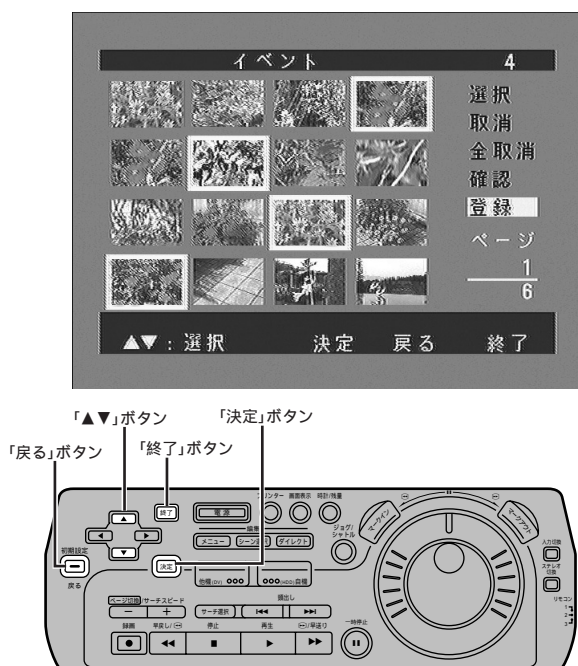
再生をやめるときは

「停止」ボタンを押す

● 数秒間の静止画再生の後、手順 2 の画面に戻ります。

編集

シーン選択編集

シーン選択編集(シナリオを作る)　つづき

編集に使いたいシーンを選択･登録し、シナリオを作ります。

上記の画面イラストは、シーン登録の手順 *1* のときの例です。

- 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
- ハードディスクに映像を取り込んでおく。(☞33･35)
- シーン選択メニュー画面から希望のメニューを選び、画面を表示させておく。(☞47)

お願い／ヒント

- 登録済みシーン画面(シーン画面)の中の「登録」を実行すると、そのときに選択したシーンがコピーされて、サムネイル表示の最後に追加されます。
- 登録できるのは80シーンまでです。
「登録済みシーン」のシーン数と選択して確定しているシーン数との合計が80シーンをこえると、「シーン登録数が一杯です」というエラーメッセージが出ます。この場合、シーンの選択は80シーンまではできますが、登録はできません。
- フォトシーンを登録する場合、そのシーンの最初の場面から約1秒進んだ位置から約3秒間登録されます。
- フォトの静止画部分が短い場合は、正常に登録されない場合があります。
- シーンの登録をしても、ハードディスクに取り込まれている元の映像が変わるわけではありません。

シーンを登録する

編集する素材として、シーンを登録します。
登録されたシーンは、登録済みシーン画面(シーン画面)のサムネイルの中に追加されます。

「▲▼」ボタンを使って「登録」を選ぶ

- 操作モードが選べない場合は、「戻る」ボタンを押してください。
- 「登録」をやめたいときは、操作モードから「登録」以外の項目を選んでください。

操作モード

「決定」ボタンを押す

- 登録が完了し、黄色の枠表示がすべて消えます。
- 「選択」モードの画面になり、最後に選択されていたサムネイルが赤枠表示になります。

登録したシーンを確認する

登録されたシーンが、登録済みシーン画面(シーン画面)でサムネイルとして確認できます。これがシナリオになります。
- ページの切りかえ操作が必要な場合があります。(☞48)

シーン選択メニュー画面の中から、「▲▼」ボタンで「登録済みシーン」を選ぶ

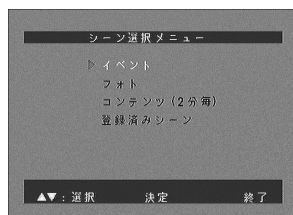
「決定」ボタンを押す

- シーン画面になり、登録したシーンが確認できます。
- シーン選択編集で登録したものだけでなく、ダイレクト編集(☞44)やアッセンブル編集(☞62)で登録されたシーンも表示されます。
- 登録したシーンを削除したい場合は、71ページをお読みください。

登録確認モードを解除するときは

「戻る」ボタンを押す
- シーン選択メニュー画面に戻ります。

シーン選択編集を終了するときは

「終了」ボタンを押す
- シーン選択編集の画面が消えます。

「編集メニュー」画面からの編集

シーンを使っていろいろな編集をします。

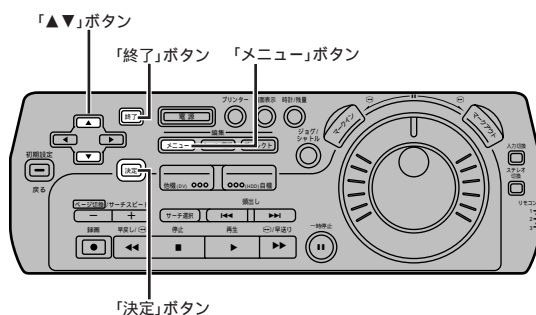
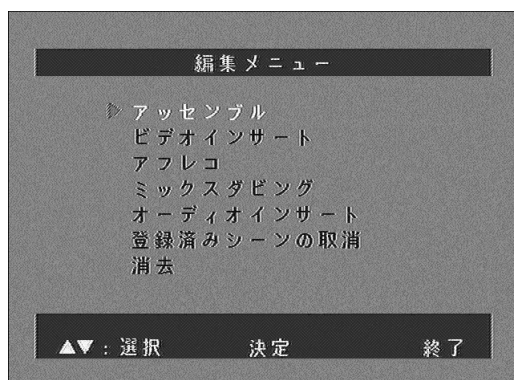
編集メニュー

▷アッセンブル
ビデオインサート
アフレコ
ミックスダビング
オーディオインサート
登録済みシーンの取消
消去

▲▼：選択　決定　終了

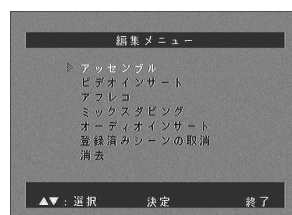
「▲▼」ボタン
「終了」ボタン　「メニュー」ボタン
「決定」ボタン

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

準備

● 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。

「編集メニュー」画面を出す

「メニュー」ボタンを押す

- 数秒間の静止画再生の後、編集メニュー画面が表示されます。

2 「▲▼」ボタンを使って、編集方法を選ぶ

アッセンブル:
シナリオを加工･作成します。

ビデオインサート:
映像だけを入れかえます。

アフレコ:
音声を追加します。

ミックスダビング:
元の音声に新しい音声をミックスして追加します。

オーディオインサート:
音声だけを入れかえます。

登録済みシーンの取消:
シーンの登録をすべて取り消します。

消去:
編集素材の映像を、ハードディスクの中から消去します。
消去には、シーンとして未登録の素材のみを消去する方法と、すべての素材を消去する方法の二種類があります。

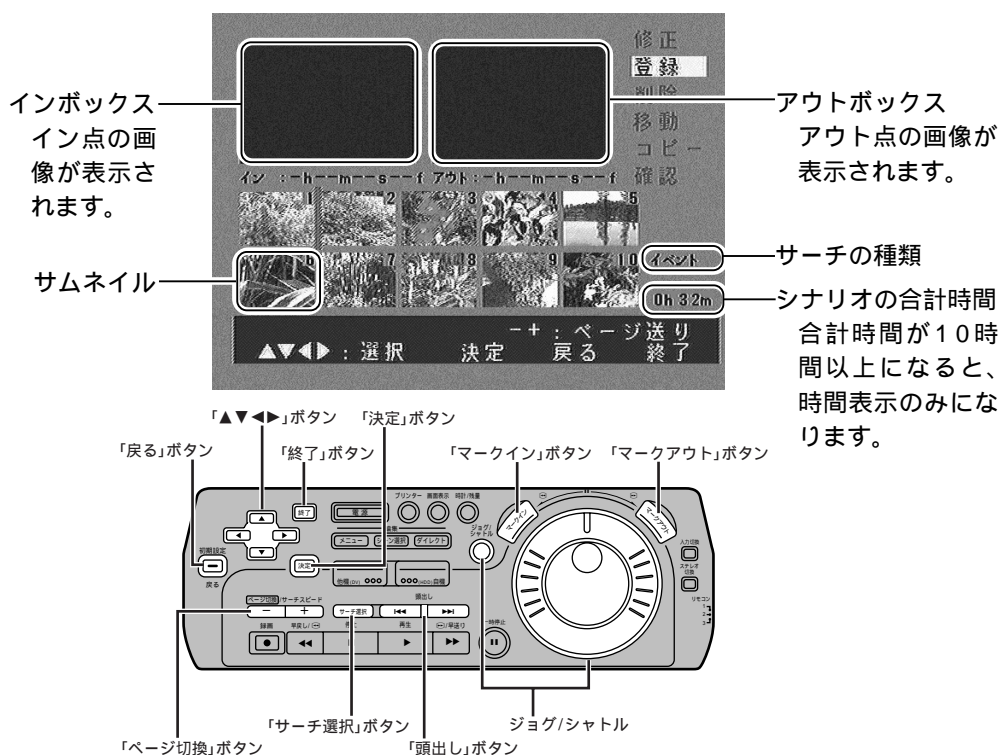
「決定」ボタンを押す

- 選択したメニューの画面が表示されます。

編集メニューモードを解除するときは

「終了」ボタンを押す

- 編集メニューの画面が消えます。

「編集メニュー」画面からの編集

アッセンブル編集(シナリオを加工・作成する)　つづき

作られたシナリオを加工したり、新たにシーンを登録したりします。

インボックス
● イン点の画像が表示されます。

アウトボックス
● アウト点の画像が表示されます。

サムネイル

サーチの種類

シナリオの合計時間
● 合計時間が10時間以上になると、時間表示のみになります。

「▲▼◀▶」ボタン　「決定」ボタン　「戻る」ボタン　「終了」ボタン　「マークイン」ボタン　「マークアウト」ボタン

「サーチ選択」ボタン　ジョグ/シャトル　「ページ切換」ボタン　「頭出し」ボタン

上記の画面イラストは、手順 1 のときの例です。

準備

● 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
● 編集メニュー画面から「アッセンブル」を選び、画面を表示させておく。(☞61)

お願い／ヒント

● 80シーンまで登録できます。
● 編集を正しく行うために、シーンは1つにつき最低3秒以上の長さで登録してください。
● イン点とアウト点の位置が逆転すると登録できません。
● サムネイルが10シーンをこえると、画面のページが増えます。

ページをかえるときは:

「ページ切換」ボタンを押す

+:　ページを進めます。
　● 最終のページでは、この操作はできません。

−:　ページを戻します。
　● 最初のページでは、この操作はできません。

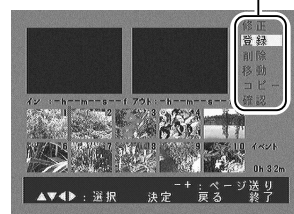
サムネイルとは

画像を縮小表示したものです。
サムネイルに表示されている画像は、シーンの先頭の部分です。

シーンを登録する

シーンを登録したり、新たに追加登録します。

「▲▼」ボタンで「登録」を選択し、「決定」ボタンを押す

- 編集モードが選べない場合は、「戻る」ボタンを押してください。

「▲▼◀▶」ボタンを使って、新たにシーンを登録したい場所を指定する

- 指定した場所には、赤いたてのラインが表示されます。
- この時点で、登録されたシーンが一つもない場合は、場所の指定はできません。

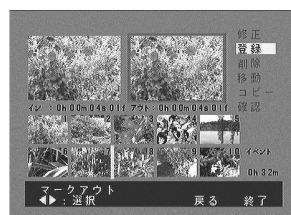
「決定」ボタンを押し、場所を確定する

- ラインの色が黄色にかわります。
- インボックスが赤枠表示になります。

追加するシーンのイン点を探す

- 「サーチ選択」ボタンや「頭出し」ボタン、ジョグ／シャトルなどを使って探してください。(☞41･39)

「マークイン」ボタンを押し、イン点を確定する

- 赤枠表示がアウトボックスに移動します。

●次のページへつづく●

アッセンブル編集(シナリオを加工・作成する)　つづき

作られたシナリオを加工したり、新たにシーンを登録したりします。

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

お願い／ヒント

● シーンの登録をしても、ハードディスクに取り込まれている元の映像が変わるわけではありません。

追加するシーンのアウト点を探す

- 「サーチ選択」ボタンや「頭出し」ボタン、ジョグ／シャトルなどを使って探してください。

「マークアウト」ボタンを押し、アウト点を確定する

- 赤枠表示がインボックスに戻ります。

「決定」ボタンを押す

- シーンが新たに登録され、サムネイルの表示が更新されます。

続けてシーンの登録をするときは

手順 2 ～ 8 を繰り返す

登録モードを解除するときは

「戻る」ボタンを押す

- アッセンブル編集の各モードを選択できる画面に戻ります。
  「戻る」ボタンを一度押しても編集モードを選択できない場合は、もう一度押してください。

アッセンブル編集を終了するときは

「終了」ボタンを押す

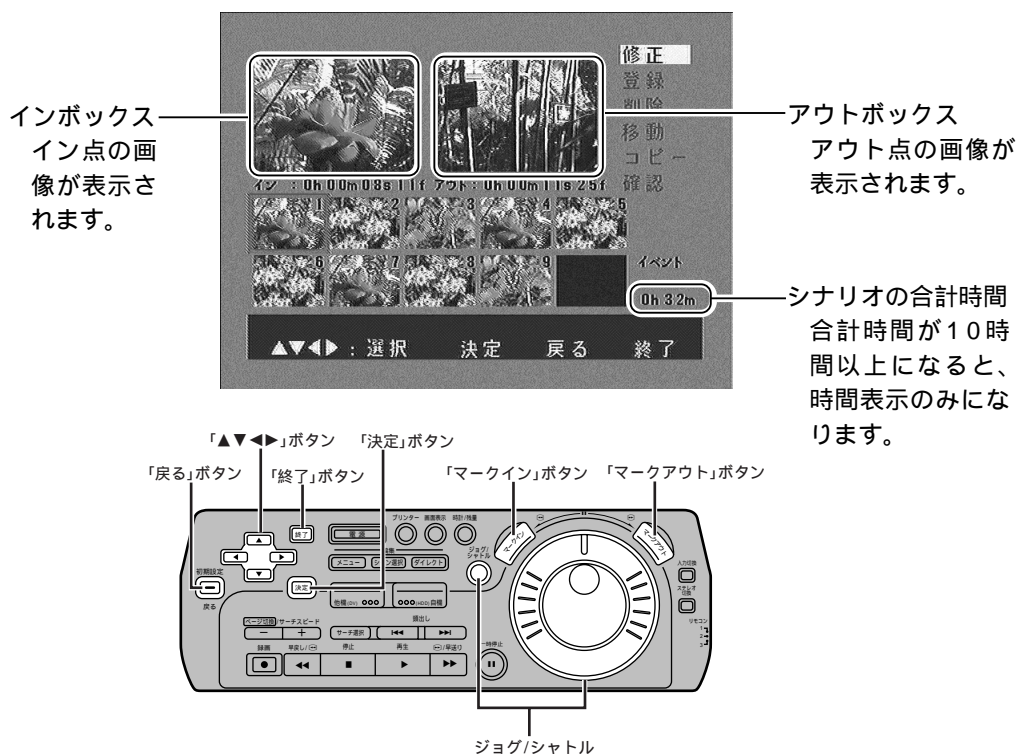
- アッセンブル編集の画面が消えます。

シーンの登録が終わったら

シーンの修正をしたい場合……☞67
シーンを削除したい場合……☞71
シーンを移動したい場合……☞73
シーンをコピーしたい場合……☞75
シーンを再生したい場合……☞77

「編集メニュー」画面からの編集

アッセンブル編集(シナリオを加工・作成する)

作られたシナリオを加工します。

インボックス
- イン点の画像が表示されます。

アウトボックス
- アウト点の画像が表示されます。

シナリオの合計時間
- 合計時間が10時間以上になると、時間表示のみになります。

「▲▼◀▶」ボタン　「決定」ボタン
「戻る」ボタン　「終了」ボタン
「マークイン」ボタン　「マークアウト」ボタン
ジョグ/シャトル

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

準備

- 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
- 編集メニュー画面から「アッセンブル」を選び、画面を表示させておく。(☞61)

お願い／ヒント
- イン点やアウト点を修正するとき、「サーチ選択」ボタンと「頭出し」ボタンを使って修正することもできます。
- イン点とアウト点の位置が逆転すると編集できません。
- シーンのイン/アウト点を修正しても、ハードディスクに取り込まれている元の映像が変わるわけではありません。

シーンのイン/アウト点を修正する

シーンの編集開始(イン)点や終了(アウト)点を変更します。

「修正」が選ばれていることを確認して、「決定」ボタンを押す

- 編集モードが選べない場合は、「戻る」ボタンを押してください。

編集モード

2

「▲▼◀▶」ボタンを使って、修正したいシーンをサムネイルから選ぶ

- 選択しているサムネイルは、赤枠表示になります。

「決定」ボタンを押し、選択を確定する

- サムネイルの赤枠表示が黄色になります。
- インボックスが赤枠表示になります。

編集を開始したい部分(イン点)を修正する

1 ジョグ／シャトルを使って、希望のイン点を探す(☞39)

2「マークイン」ボタンを押し、新しいイン点を確定する

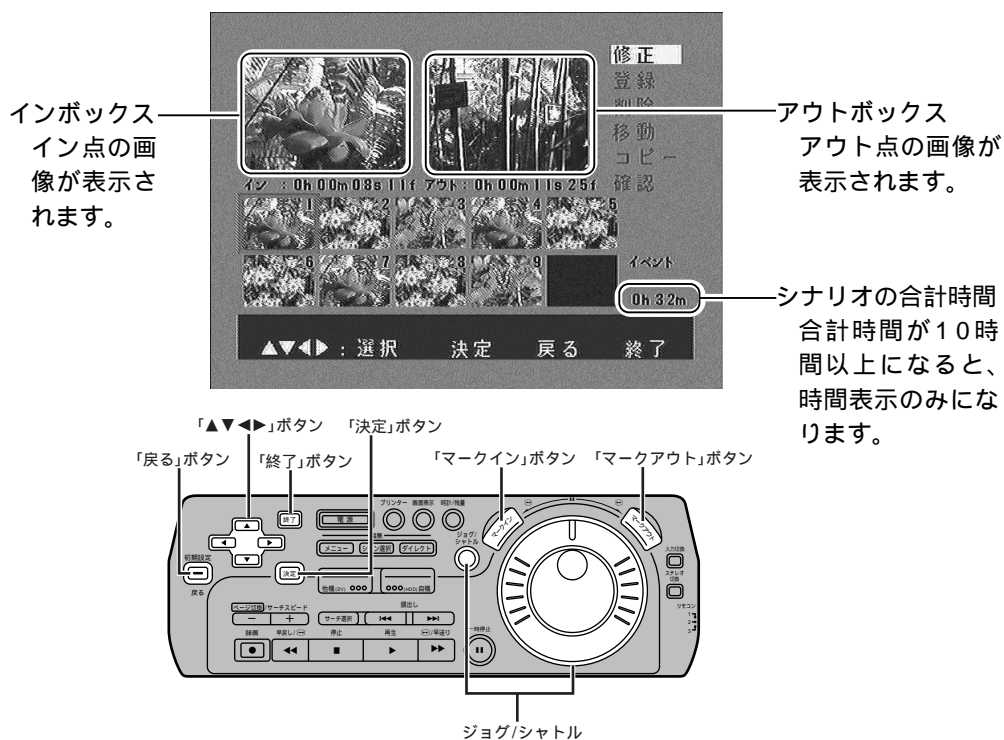
- 赤枠表示がアウトボックスに移動します。

- イン点は修正せずにアウト点のみを修正したい場合は、「▶」ボタンで赤枠表示をアウトボックスへ移動させてください。

●次のページへつづく●

「編集メニュー」画面からの編集

アッセンブル編集(シナリオを加工・作成する)　つづき

作られたシナリオを加工します。

上記の画面イラストは、手順 1 のときの例です。

編集を終了したい部分(アウト点)を修正する

1 ジョグ／シャトルを使って、希望のアウト点を探す

2「マークアウト」ボタンを押し、新しいアウト点を確定する

● 赤枠表示がインボックスに戻ります。

「決定」ボタンを押す

● シーンの修正が反映され、内容が更新されたサムネイルが赤枠表示になります。

続けてシーンの修正をするときは

手順 2 ～ 6 を繰り返す

修正モードを解除するときは

「戻る」ボタンを押す

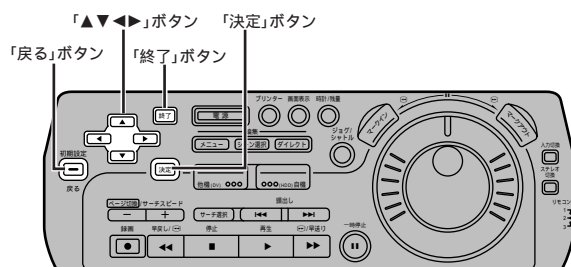
● アッセンブル編集の各モードを選択できる画面に戻ります。
「戻る」ボタンを一度押しても編集モードを選択できない場合は、もう一度押してください。

アッセンブル編集を終了するときは

「終了」ボタンを押す

● アッセンブル編集の画面が消えます。

アッセンブル編集(シナリオを加工・作成する)　つづき

作られたシナリオを加工します。

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

- 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
- 編集メニュー画面から「アッセンブル」を選び、画面を表示させておく。(☞61)

お願い／ヒント

- この削除操作では、シーンの登録を取り消すだけです。ハードディスクに取り込んだ元の映像が消去されるわけではありません。

シーンを削除する

シーンの登録を取り消します。

「▲▼」ボタンで「削除」を選択し、「決定」ボタンを押す

- 編集モードが選べない場合は、「戻る」ボタンを押してください。

「▲▼◀▶」ボタンを使って、削除したいシーンをサムネイルから選ぶ

- 選択しているサムネイルは、赤枠表示になります。

「決定」ボタンを押す

- 確認のための画面が表示されます。

「▶」ボタンで「はい」を選び、「決定」ボタンを押す

- シーンのサムネイルが削除され、表示が更新されます。
- 「いいえ」を選ぶと削除は実行されず、手順 2 の画面に戻ります。

続けてシーンの削除をするときは

手順 2 〜 4 を繰り返す

削除モードを解除するときは

「戻る」ボタンを押す

- アッセンブル編集の各モードを選択できる画面に戻ります。
  「戻る」ボタンを一度押しても編集モードを選択できない場合は、もう一度押してください。

アッセンブル編集を終了するときは

「終了」ボタンを押す

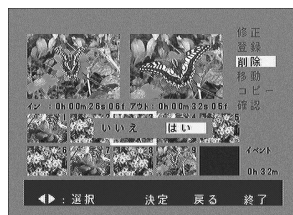
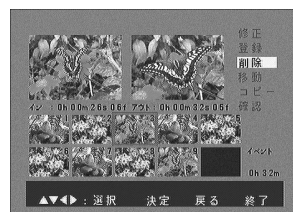
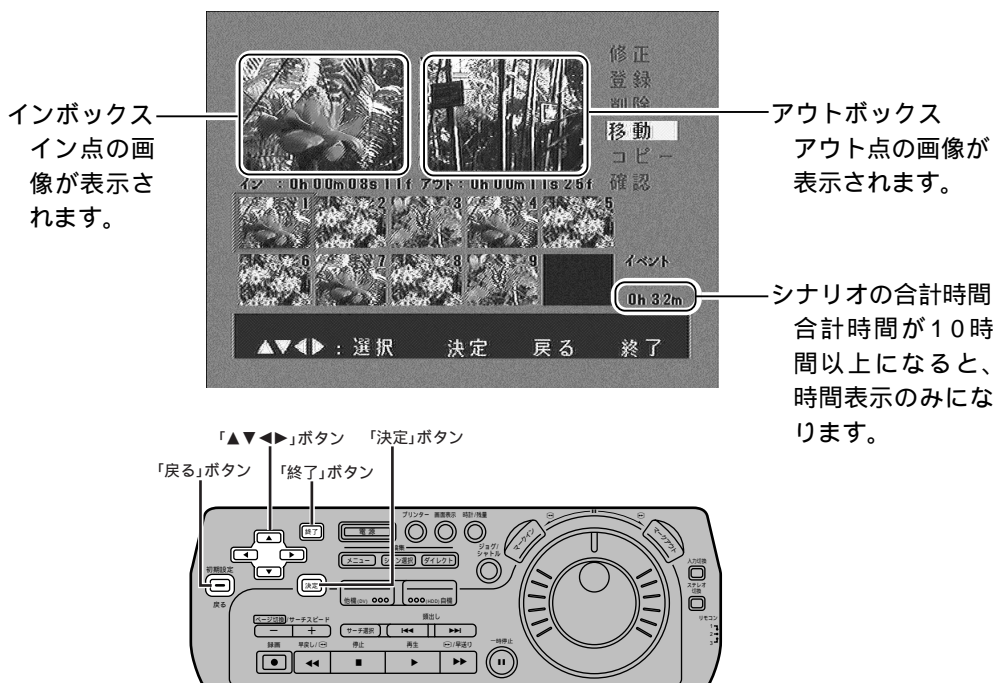
- アッセンブル編集の画面が消えます。

「編集メニュー」画面からの編集

アッセンブル編集(シナリオを加工・作成する)　つづき

作られたシナリオを加工します。

上記の画面イラストは、手順 1 のときの例です。

準備

- 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
- 編集メニュー画面から「アッセンブル」を選び、画面を表示させておく。(☞61)

お願い／ヒント

- シーンの並べかえをしても、ハードディスクに取り込まれている元の映像が変わるわけではありません。

シーンを移動する

シーンの順序を並べかえます。

「▲▼」ボタンで「移動」を選択し、「決定」ボタンを押す

- 編集モードが選べない場合は、「戻る」ボタンを押してください。

「▲▼◀▶」ボタンを使って、移動したいシーンをサムネイルから選ぶ

- 選択しているサムネイルは、赤枠表示になります。

「決定」ボタンを押し、選択を確定する

- サムネイルの赤枠表示が黄色になります。
- 移動先を選ぶために、赤いたてのラインが表示されます。
- インボックスとアウトボックスの画像が消え、黒画面になります。

「▲▼◀▶」ボタンを使って、シーンの移動先を指定する

- 指定した場所には、赤いたてのラインが表示されます。

「決定」ボタンを押す

- シーンが指定位置に移動し、サムネイルの表示が更新されます。

続けてシーンの移動をするときは

手順 2 ～ 5 を繰り返す

移動モードを解除するときは

「戻る」ボタンを押す

- アッセンブル編集の各モードを選択できる画面に戻ります。
  「戻る」ボタンを一度押しても編集モードを選択できない場合は、もう一度押してください。

アッセンブル編集を終了するときは

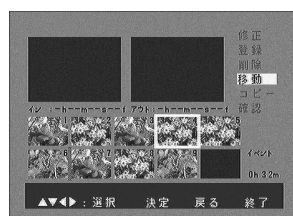
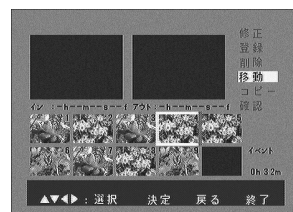
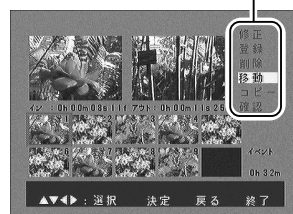
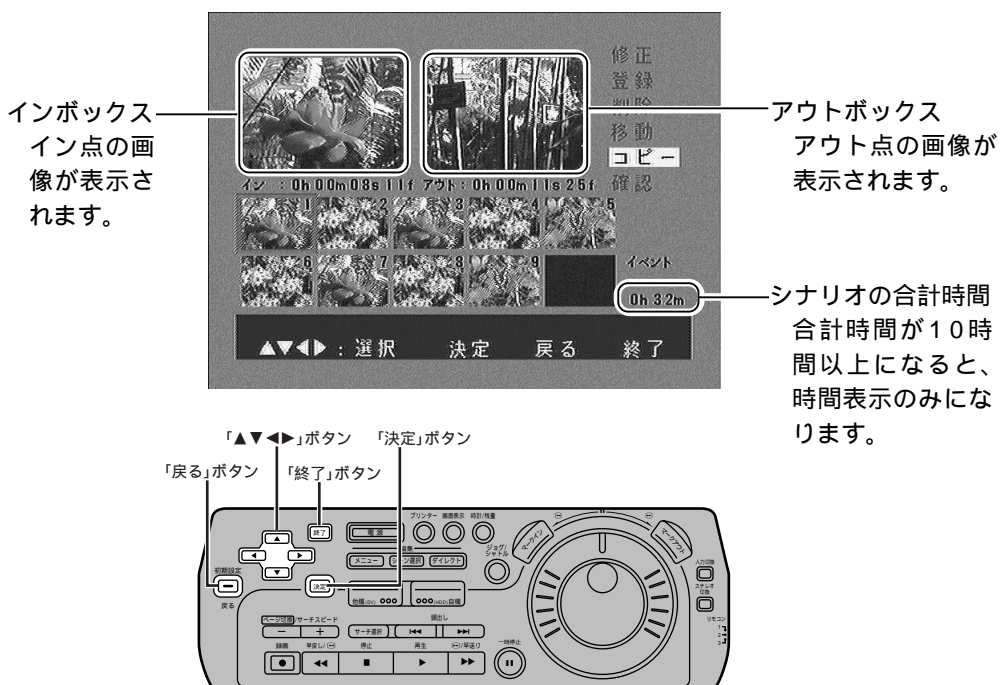
「終了」ボタンを押す

- アッセンブル編集の画面が消えます。

アッセンブル編集(シナリオを加工・作成する)　つづき

作られたシナリオを加工します。

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

準備

- 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
- 編集メニュー画面から「アッセンブル」を選び、画面を表示させておく。(☞61)

お願い／ヒント

- シーンをコピーしても、ハードディスクに取り込まれている元の映像が増えるわけではありません。

シーンをコピーする

シーンの複製を作ります。

「▲▼」ボタンで「コピー」を選択し、「決定」ボタンを押す

● 編集モードが選べない場合は、「戻る」ボタンを押してください。

「▲▼◀▶」ボタンを使って、コピーしたいシーンをサムネイルから選ぶ

● 選択しているサムネイルは、赤枠表示になります。

「決定」ボタンを押し、選択を確定する

● サムネイルの赤枠表示が黄色になります。
● コピー先を選ぶために、赤いたてのラインが表示されます。
● インボックスとアウトボックスの画像が消え、黒画面になります。

「▲▼◀▶」ボタンを使って、シーンのコピー先を指定する

● 指定した場所には、赤いたてのラインが表示されます。

「決定」ボタンを押す

● シーンが指定位置にコピーされ、サムネイルの表示が更新されます。

続けてシーンのコピーをするときは

手順 *2* ～ *5* を繰り返す

コピーモードを解除するときは

「戻る」ボタンを押す

● アッセンブル編集の各モードを選択できる画面に戻ります。
「戻る」ボタンを一度押しても編集モードを選択できない場合は、もう一度押してください。

アッセンブル編集を終了するときは

「終了」ボタンを押す

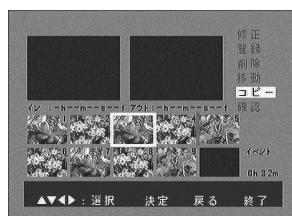
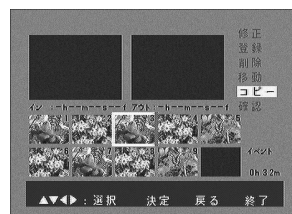
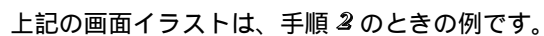
● アッセンブル編集の画面が消えます。

アッセンブル編集(シナリオを加工・作成する)　つづき

作られたシナリオを再生します。

「▲▼」ボタン
「決定」ボタン
「戻る」ボタン
「終了」ボタン
「停止」ボタン

上記の画面イラストは、手順 2 のときの例です。

準備

- 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
- 編集メニュー画面から「アッセンブル」を選び、画面を表示させておく。(☞61)

シーンを再生する

シナリオを再生します。

「▲▼」ボタンで「確認」を選択する

- 編集モードが選べない場合は、「戻る」ボタンを押してください。

編集モード

「決定」ボタンを押す

- シナリオを再生します。

再生をやめるときは

「停止」ボタンを押す

- 数秒間の静止画再生の後、手順 1 の画面に戻ります。

アッセンブル編集を終了するときは

「終了」ボタンを押す

- アッセンブル編集の画面が消えます。

編集

アッセンブル編集

アッセンブル編集が終わったら

不要な場面をとって、一つの映像にまとめたい場合(映像の1本化) ……………☞99

編集した内容をテープに録画したい場合 ……………………………☞102・104

ビデオインサート編集をしたい場合 ……………………………………☞78

音声編集をしたい場合

音声編集をする前に ……………………………………………………☞82

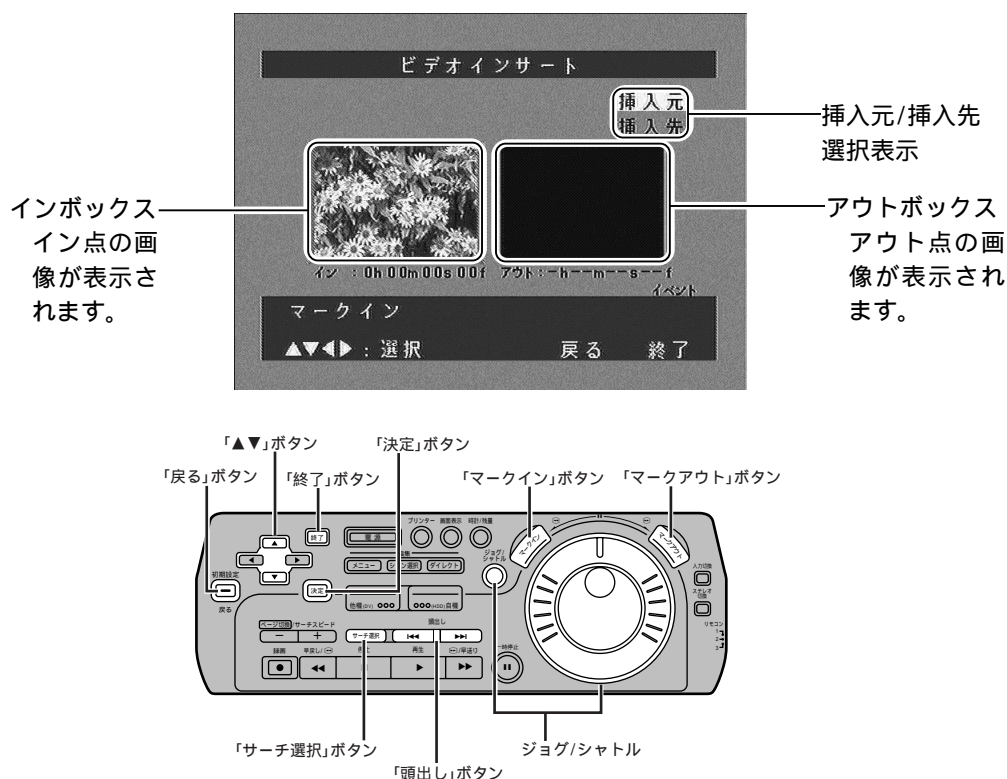
- アフレコ編集 ……………………………………………………☞84
- ミックスダビング編集 ……………………………………………☞88
- オーディオインサート編集 ………………………………………☞92

「編集メニュー」画面からの編集

ビデオインサート編集(映像を差しかえる)

録画された映像の一部を、別の内容に差しかえることができます。
この場合、差しかえられるのは映像だけで、音声は元のまま変わりません。

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

準備

- 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
- 編集メニュー画面から「ビデオインサート」を選び、画面を表示させておく。(☞61)

お願い／ヒント

- 挿入先のイン点とアウト点の範囲内に、挿入元のイン点やアウト点を指定することはできません。
- イン点とアウト点の位置が逆転すると編集できません。
- ビデオインサート編集の実行中は、他の操作はできません。誤動作を防ぐために、編集中は本機を操作しないでください。
- ハードディスク内のデータが破損する恐れがありますので、編集の実行中は電源プラグをコンセントから抜かないでください。
- ビデオインサート編集をする場合、何らかのトラブル(停電など)によって、編集された映像がこわれてしまう可能性があります。いったん、外部機器などにダビングしておかれることをおすすめします。

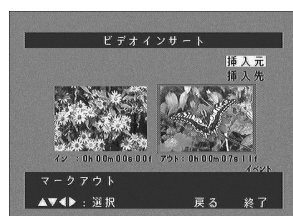
「挿入元」が選ばれていることを確認する

- 選ばれていない場合は、「▲▼」ボタンで「挿入元」を選びます。
- インボックスが赤枠表示になっています。

挿入する映像のイン点を決める

- 「サーチ選択」ボタンや「頭出し」ボタン、ジョグ／シャトルなどを使って探してください。(☞41·39)

「マークイン」ボタンを押し、イン点を確定する

- 赤枠表示がアウトボックスに移動します。

挿入する映像のアウト点を決める

- 「サーチ選択」ボタンや「頭出し」ボタン、ジョグ／シャトルなどを使って探してください。

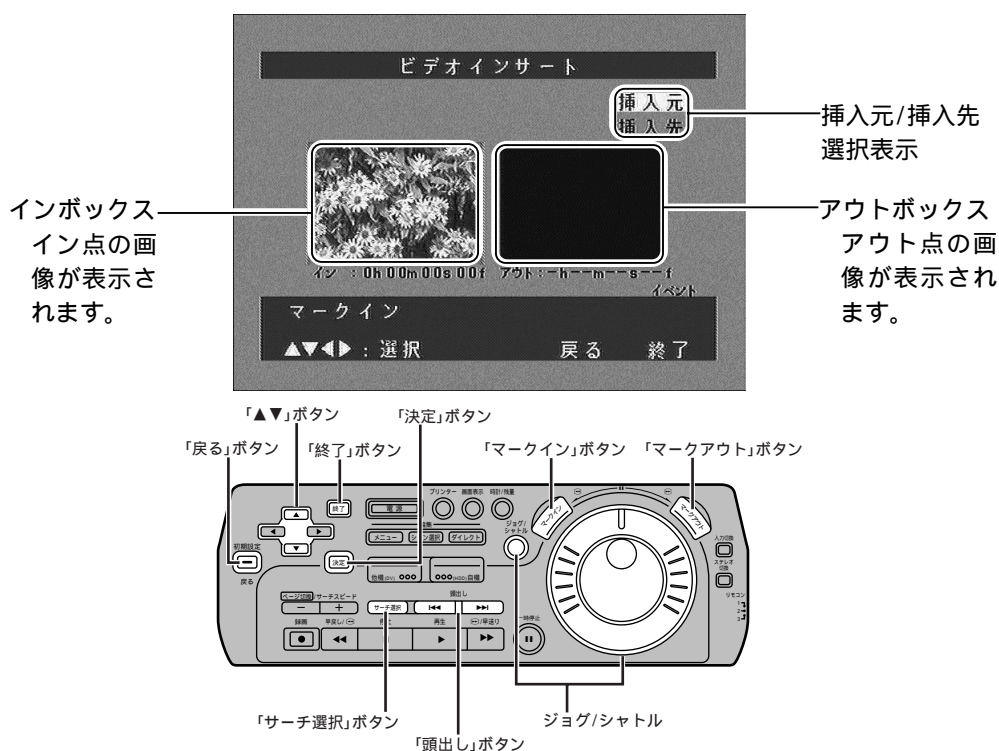
「マークアウト」ボタンを押し、アウト点を確定する

- アウトボックスの画像が消え、「挿入先」が選択されます。
- 赤枠表示がインボックスに戻ります。

●次のページへつづく●

「編集メニュー」画面からの編集

ビデオインサート編集(映像を差しかえる)　つづき

録画された映像の一部を、別の内容に差しかえることができます。

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

お願い／ヒント

- ビデオインサート編集をした後は、イベントの内容が変わっています。
  コンテンツ(2分毎)、フォト、登録済みシーンの情報も変わっている場合があります。
- 挿入先に登録済みシーンが重なったときは、「挿入先にシーンが登録されています。実行しますか?」というメッセージがテレビ画面に表示されます。実行したくないときは「いいえ」を、実行するときは「はい」を「◀▶」ボタンで選択し、「決定」ボタンを押してください。
  「はい」を選択して「決定」ボタンを押すと、そのシーンの内容はかわります。
  また、そのシーンをシナリオで複数回使っている場合は、使っているシーンすべてが差しかわります。

編集点の登録について

- ビデオインサート編集では、挿入元イン点とアウト点、挿入先イン点の3点、または、挿入元イン点、挿入先イン点とアウト点の3点の設定のみでも編集が行えます。
- 挿入元と挿入先両方のイン点、アウト点を設定した場合に、双方の設定時間が一致しないときは、設定時間の短い方のアウト点で編集は止まります。

映像を挿入するイン点を決める

- 「サーチ選択」ボタンや「頭出し」ボタン、ジョグ／シャトルなどを使って探してください。

「マークイン」ボタンを押し、イン点を確定する

- 赤枠表示がアウトボックスに移動します。

「決定」ボタンを押す

- 編集が始まります。
- 実行にかかる時間は、挿入元または挿入先のイン･アウト点間の時間と同じくらいかかります。場合によっては、それ以上の時間がかかることもあります。

■本体表示部■

続けて編集をするときは

挿入元と挿入先のイン･アウト点をそれぞれ設定する

- 挿入元イン点とアウト点、挿入先イン点の3点、または、挿入元イン点、挿入先イン点とアウト点の3点の設定のみでも編集は行えます。

「ビデオインサート」の画面を解除するときは

「戻る」ボタンを押す

- 編集メニュー画面に戻ります。

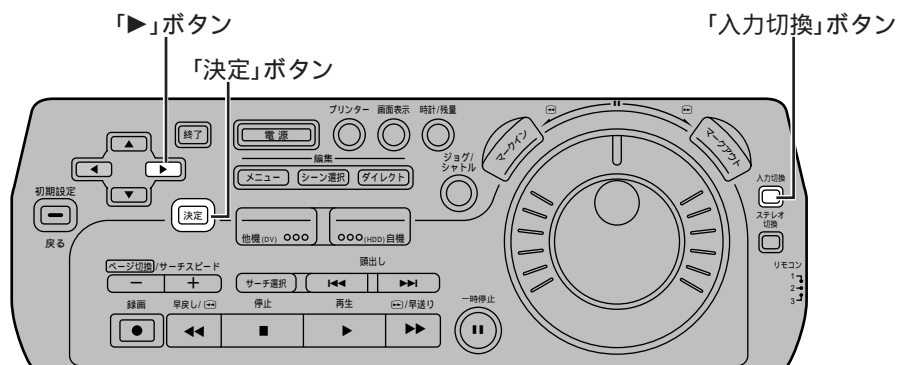
「終了」ボタンを押す

- ビデオインサート編集の画面が消えます。

音声の編集をする前に

本機で音声編集(アフレコ編集･ミックスダビング編集･オーディオインサート編集)をするには、以下の条件が満たされていることが必要です。

- S映像(映像)･音声コードでAV接続されていること
- 正しく入力が切りかえられていること
- 未登録の素材(映像)がハードディスクから消去されていること

準備

- ハードディスクに映像を取り込んでおく(☞33･35)
- 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。

未登録の素材とは

シーンとして登録されていない映像のことです。それらを消去して、ハードディスク内の映像を整理することを「映像の1本化」といいます。
登録されているシーンは、登録済みシーン画面(シーン画面)(☞59)で確認できます。

未登録の素材の消去(映像の1本化)について

- 場合によっては、消去に1時間以上かかることがあります。
- 消去を実行すると、イベントは1つになり、フォトやシーンの情報は消えます。コンテンツ(2分毎)は、内容が変更されます。
- 消去を実行してしまうと、途中で止めることはできません。
- 消去の実行中は他の操作はできません。誤動作を防ぐために、編集中は本機を操作しないでください。
- ハードディスク内のデータが破損する恐れがありますので、消去の実行中は電源プラグをコンセントから抜かないでください。
- シナリオの合計時間(☞62)が80分をこえるときは、未登録素材の消去を実行できません。また、80分以内であっても、ハードディスクの状態によっては実行できない場合があります。その場合は、他機にいったん本機のシナリオを録画しておき、本機内の映像をすべて消去(☞101)した上で、再度、他機に録画しておいたシナリオの映像を取り込んでください。
- 未登録素材を消去する場合、何らかのトラブル(停電など)によって、編集された映像がこわれてしまう可能性があります。いったん、外部機器などにダビングしておかれることをおすすめします。

音声編集をするための接続

再生機側とは、S映像(映像)･音声コードを使ったAV接続をしてください。(☞20)
DVケーブルを使った接続(DV接続)では、音声編集はできません。

入力の切りかえ

再生機側と接続している端子に合わせて、入力(L1〜L3)を切りかえてください。
「入力切換」ボタンで切りかえます。

未登録の素材の消去(映像を1本化する)

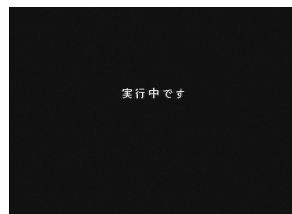
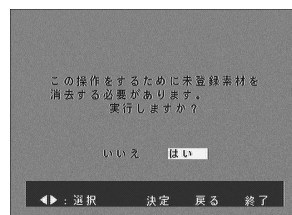
本機で音声編集(アフレコ編集･ミックスダビング編集･オーディオインサート編集)をするときは、未登録の素材をハードディスクから消去しておく必要があります。この操作をすることで、ハードディスク内でバラバラになっているシーンを整理し、音声編集がスムーズに実行できるようにデータが並べかえられます。

編集メニュー画面で音声編集を選んだときに、右のようなメッセージ画面が表示された場合は、下記の操作にしたがってください。

メッセージ画面が表示されたら、
「▶」ボタンで「はい」を選ぶ
- 「はい」を選ぶと、登録していないシーンがハードディスクから削除されます。一度削除された映像は元には戻りません。

「決定」ボタンを押す
- 未登録素材の消去が実行されます。

編集

音声の編集をする前に

「編集メニュー」画面からの編集

アフレコ編集(音声を追加する)

「ステレオ2」トラックに、別の音声を追加することができます。

アフレコ

リハーサル
実行

リハーサル/実行
選択表示

インボックス
● イン点の画像が表示されます。

アウトボックス
● アウト点の画像が表示されます。

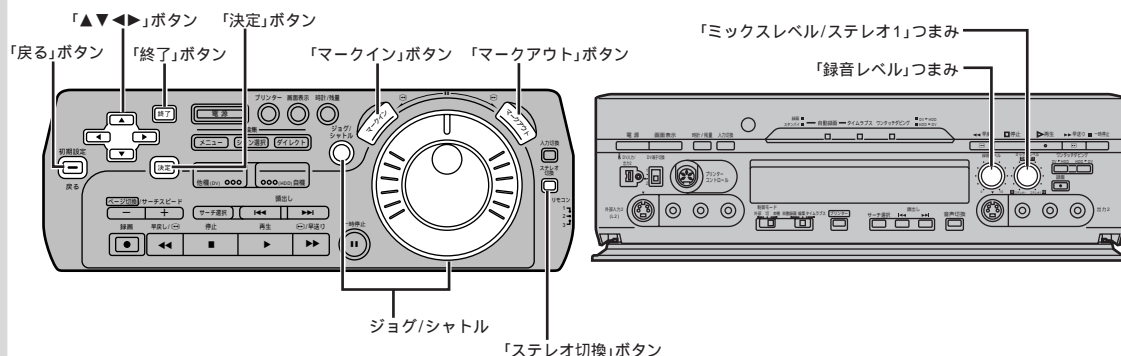
イン : 0h 00m 00s 00f　アウト : --h--m--s--f
イベント

マークイン

▲▼◀▶ : 選択　戻る　終了

「▲▼◀▶」ボタン　「決定」ボタン
「戻る」ボタン　「終了」ボタン　「マークイン」ボタン　「マークアウト」ボタン
「ミックスレベル/ステレオ1」つまみ
「録音レベル」つまみ
ジョグ/シャトル
「ステレオ切換」ボタン

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

準備

● 編集メニュー画面から「アフレコ」を選び、画面を表示させておく。(☞61)
「未登録素材の消去」に関するメッセージが表示される場合は、83ページをお読みください。

お願い／ヒント

● アフレコ編集をするときは、未登録の素材を消去しておく必要があります。
● 編集する映像の音声が16bitの場合、アフレコ編集はできません。
● イン点・アウト点間の編集時間は、最低2秒以上にしてください。
● リハーサルのときに、「録音レベル」つまみで再生機側(外部入力)からの音声のレベルを調節しておいてください。
● アフレコ編集では機器を手動で制御するため、「リハーサル」と「実行」とで、編集の結果が異なる場合があります。

アフレコ編集を開始するイン点を決める

● ジョグ／シャトル(☞39)などを使って探してください。

「マークイン」ボタンを押し、イン点を確定する

● 赤枠表示がアウトボックスに移動します。

編集を終了するアウト点を決める

● ジョグ／シャトルなどを使って探してください。

「マークアウト」ボタンを押し、アウト点を確定する

● 赤枠表示がインボックスに戻ります。

「▲▼」ボタンで「リハーサル」か「実行」を選ぶ

リハーサル:
これから開始する編集をリハーサルします。(実際には記録されません)

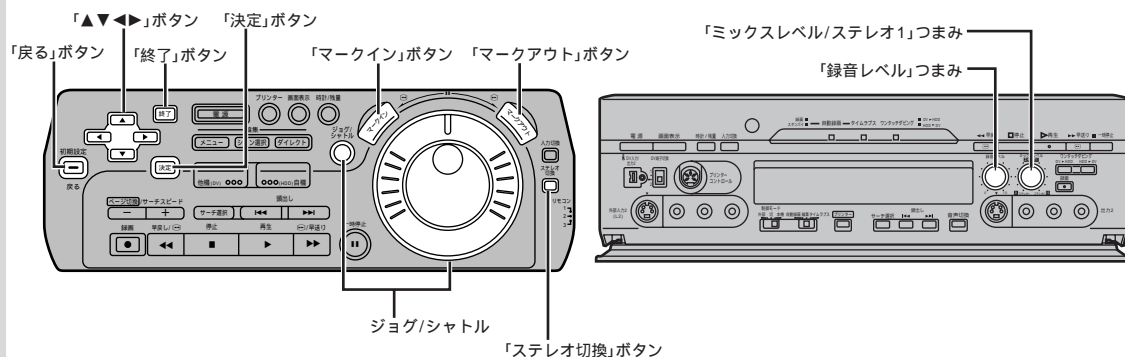
実行:
編集を開始します。(実際に記録されます)

編集

アフレコ編集

●次のページへつづく●

アフレコ編集(音声を追加する) つづき

「ステレオ2」トラックに、別の音声を追加することができます。

上記の画面イラストは、手順 1 のときの例です。

本機の「決定」ボタンを押し、再生機側の再生も始める

● 編集が始まります。ただし、手順5で「リハーサル」を選択している場合は、実際の記録はされません。

■ アフレコ編集した音声を聞くには

編集した音声を聞くには、音声トラックを切りかえる必要があります。

1 「再生」ボタンを押す

● 再生が始まります。

2 「ステレオ切換」ボタンを使って、「ステレオ2(ST 2)」トラックを選ぶ

● 本体表示部で確認することができます。

●「ステレオ1+2(ミックス)」を選んでいるときは、本体の「ミックスレベル／ステレオ1」つまみでステレオ1とステレオ2の音声のバランスを調節することができます。

■本体表示部■

この部分の表示が変化します。

イン・アウト点の設定点表示に戻すときは：

「◀▶」ボタンでイン・アウトボックスの赤枠表示を移動させ、選択を切りかえた後、インボックスに赤枠表示を移動し直してください。

● 設定点に戻ります。

続けて編集をするときは

手順1～6を繰り返す

● 2回目以降の編集では、イン点を設定してもアウトボックスは自動的には選ばれませんので、「▶」ボタンでアウトボックスを選択してください。
アウト点を設定した後は、必ずインボックスを「◀」ボタンで選択してください。

編集の実行を途中でやめたいときは

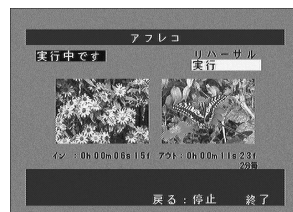
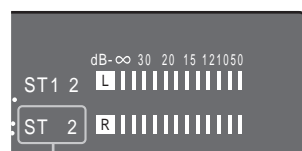
「戻る」ボタンを押す

● 編集を中止し、アフレコ編集の画面に戻ります。

「アフレコ」の画面を解除するときは

「戻る」ボタンを押す

● 編集メニュー画面に戻ります。

「終了」ボタンを押す

● アフレコ編集の画面が消えます。

「編集メニュー」画面からの編集

ミックスダビング編集(元の音声と新しい音声をミックスする)

すでに記録されている「ステレオ1」トラックの音声と外部入力(L1～L3)からの音声をミックスさせて、「ステレオ2」の音声トラックに記録することができます。
この場合、元の映像と「ステレオ1」トラックの音声は変わりません。

ミックスダビング
リハーサル
実行
イン　：0h00m00s00f　アウト：－h－－m－－s－－f
2分毎
マークイン
▲▼◀▶：選択　戻る　終了

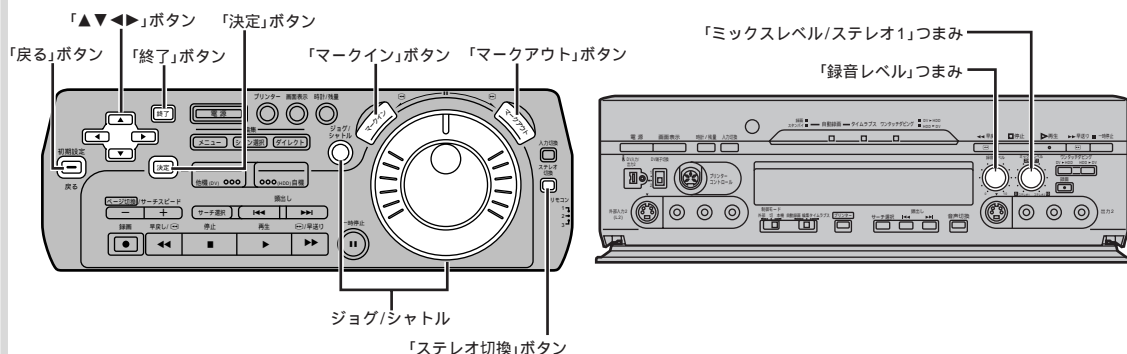
リハーサル/実行選択表示

インボックス
● イン点の画像が表示されます。

アウトボックス
● アウト点の画像が表示されます。

「▲▼◀▶」ボタン
「決定」ボタン
「戻る」ボタン
「終了」ボタン
「マークイン」ボタン
「マークアウト」ボタン
ジョグ/シャトル
「ステレオ切換」ボタン
「ミックスレベル/ステレオ1」つまみ
「録音レベル」つまみ

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

準備

● 編集メニュー画面から「ミックスダビング」を選び、画面を表示させておく。(☞61)
「未登録素材の消去」に関するメッセージが表示される場合は、83ページをお読みください。

お願い／ヒント

● ミックスダビング編集をするときは、未登録の素材を消去しておく必要があります。
● 編集する映像の音声が16bitの場合、ミックスダビング編集はできません。
● イン点･アウト点間の編集時間は、最低2秒以上にしてください。
● リハーサルのときに、「ミックスレベル／ステレオ1」つまみで元の音声(ステレオ1)を、「録音レベル」つまみで再生機側(外部入力)からの音声を調節しておいてください。
● ミックスダビング編集では機器を手動で制御するため、「リハーサル」と「実行」とで、編集の結果が異なる場合があります。

ミックスダビング編集を開始するイン点を決める

● ジョグ／シャトル(☞39)などを使って探してください。

「マークイン」ボタンを押し、イン点を確定する

● 赤枠表示がアウトボックスに移動します。

編集を終了するアウト点を決める

● ジョグ／シャトルなどを使って探してください。

「マークアウト」ボタンを押し、アウト点を確定する

● 赤枠表示がインボックスに戻ります。

「▲▼」ボタンで「リハーサル」か「実行」を選ぶ

リハーサル:

これから開始する編集をリハーサルします。(実際には記録されません)

実行:

編集を開始します。(実際に記録されます)

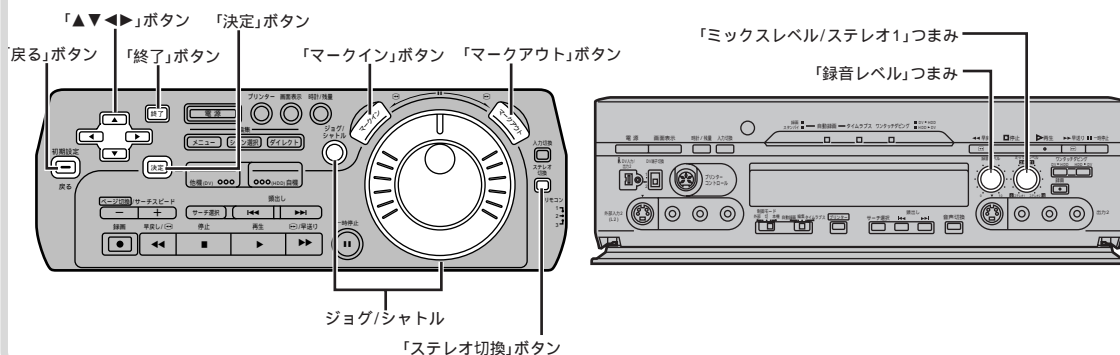
編集

ミックスダビング編集

●次のページへつづく●

「編集メニュー」画面からの編集

ミックスダビング編集(元の音声と新しい音声をミックスする) つづき

すでに記録されている「ステレオ1」トラックの音声と外部入力(L1〜L3)からの音声をミックスさせて、「ステレオ2」の音声トラックに記録することができます。

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

お願い／ヒント

● 「ステレオ 1+2」トラックを選ぶと、元の音声と再生機側(外部入力)からの音声がミックスされて聞こえます。
ステレオ2にミックスされた元の音声とステレオ1に入っている元の音声は、少しずれます。

本機の「決定」ボタンを押し、再生機側の再生も始める

- 編集が始まります。ただし、手順5で「リハーサル」を選択している場合は、実際の記録はされません。

■ ミックスダビング編集した音声を聞くには

編集した音声を聞くには、音声トラックを切りかえる必要があります。

1 「再生」ボタンを押す

- 再生が始まります。

2 「ステレオ切換」ボタンを使って、「ステレオ2(ST 2)」トラックを選ぶ

■本体表示部■

この部分の表示が変化します。

イン･アウト点の設定点表示に戻すときは：

「◀▶」ボタンでイン･アウトボックスの赤枠表示を移動させ、選択を切りかえた後、インボックスに赤枠表示を移動し直してください。

- 設定点に戻ります。

続けて編集をするときは

手順 1 ～ 6 を繰り返す

- 2回目以降の編集では、イン点を設定してもアウトボックスは自動的には選ばれませんので、「▶」ボタンでアウトボックスを選択してください。
  アウト点を設定した後は、必ずインボックスを「◀」ボタンで選択してください。

編集の実行を途中でやめたいときは

「戻る」ボタンを押す

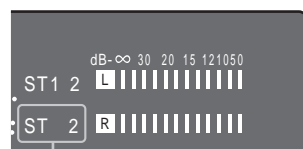
- 編集を中止し、ミックスダビング編集の画面に戻ります。

「ミックスダビング」の画面を解除するときは

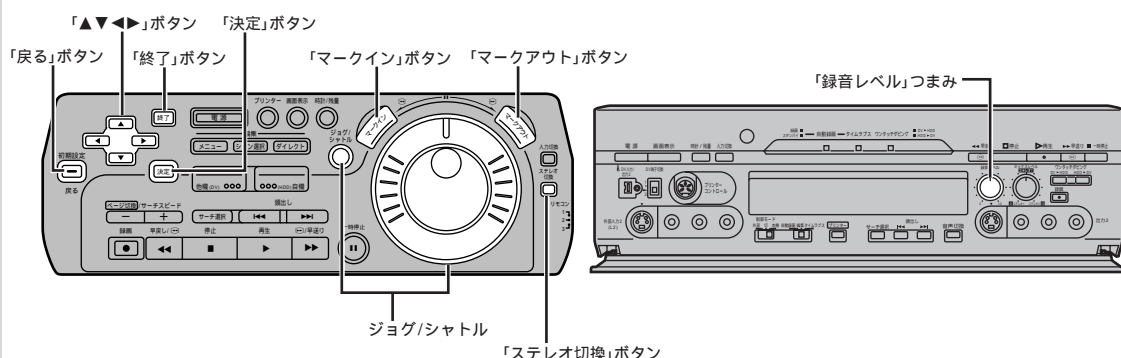
「戻る」ボタンを押す

- 編集メニュー画面に戻ります。

「終了」ボタンを押す

- ミックスダビング編集の画面が消えます。

「編集メニュー」画面からの編集

オーディオインサート編集(音声を差しかえる)

記録された音声の一部を、別の音声に差しかえることができます。
この場合、差しかえられるのは音声だけで、映像は元のまま変わりません。

上記の画面イラストは、手順 1 のときの例です。

● 編集メニュー画面から「オーディオインサート」を選び、画面を表示させておく。(☞61)
「未登録素材の消去」に関するメッセージが表示される場合は、83ページをお読みください。

お願い/ヒント

- オーディオインサート編集をするときは、未登録の素材を消去しておく必要があります。
- 編集する映像の音声が12bitの場合、ステレオ1(ST 1)だけが新しい音声に差しかわり、ステレオ2(ST 2)には元の音声が残っています。16bitの場合、すべての音声が差しかわり、元の音声は残りません。
- リハーサルのときに、「録音レベル」つまみで再生機側(外部入力)からの音声のレベルを調節しておいてください。
- オーディオインサート編集では機器を手動で制御するため、「リハーサル」と「実行」とで、編集の結果が異なる場合があります。
- イン点・アウト点間の編集時間は、最低2秒以上にしてください。

オーディオインサート編集を開始するイン点を決める

● ジョグ／シャトル(☞39)などを使って探してください。

「マークイン」ボタンを押し、イン点を確定する

● 赤枠表示がアウトボックスに移動します。

編集を終了するアウト点を決める

● ジョグ／シャトルなどを使って探してください。

「マークアウト」ボタンを押し、アウト点を確定する

● 赤枠表示がインボックスに戻ります。

「▲▼」ボタンで「リハーサル」か「実行」を選ぶ

リハーサル:

これから開始する編集をリハーサルします。(実際には記録されません)

実行:

編集を開始します。(実際に記録されます)

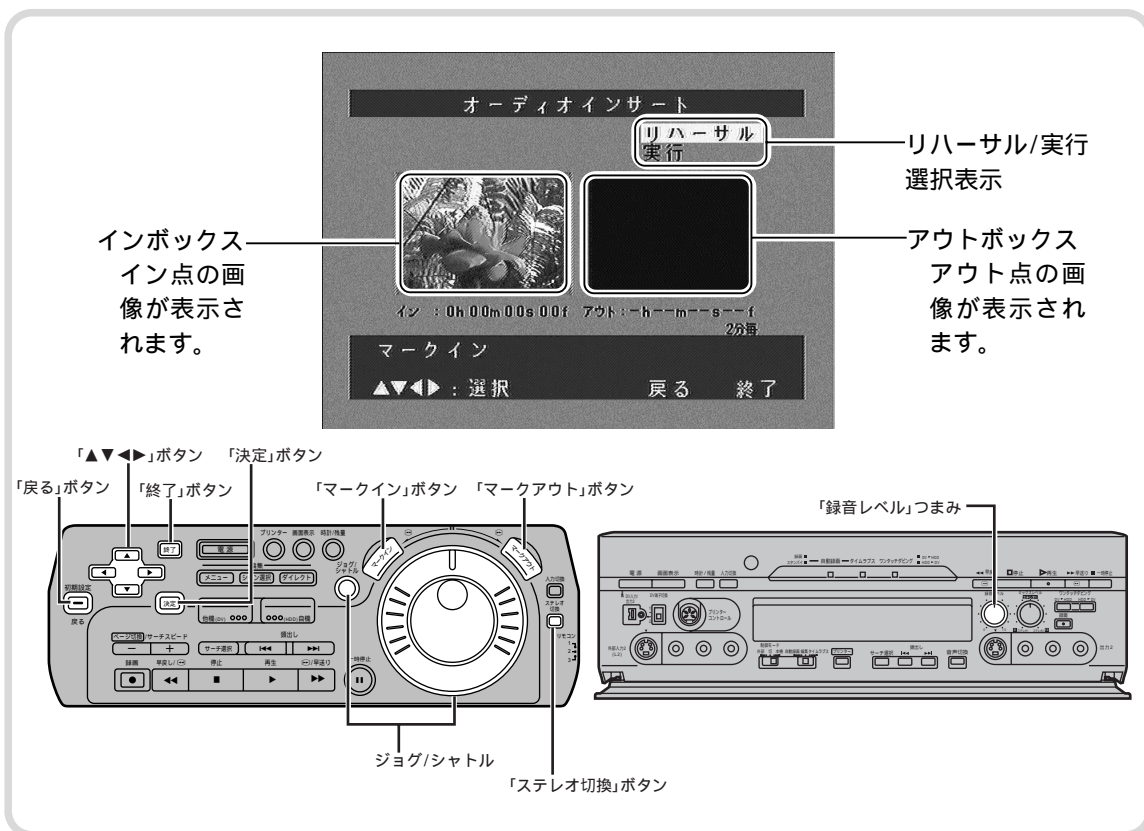
編集

オーディオインサート編集

●次のページへつづく●

「編集メニュー」画面からの編集

オーディオインサート編集(音声を差しかえる) つづき

記録された音声の一部を、別の音声に差しかえることができます。

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

お願い／ヒント

- オーディオインサート編集では、12bit音声の場合は12bitで、16bit音声の場合は16bitで編集されることをおすすめします。12bitと16bit音声が混在して記録されている部分を繰り返してオーディオインサート編集すると、正常に編集できない場合があります。
- 12bitと16bit音声の部分にまたがってオーディオインサート編集を行った場合、音声は最初の部分の音声記録モードで記録されます。
- 編集された部分を早戻し再生や早送り再生などの特殊な再生をしたとき、本体表示部に音声情報が正しく表示されないことがあります。

本機の「決定」ボタンを押し、再生機側の再生も始める

- 編集が始まります。ただし、手順5で「リハーサル」を選択している場合は、実際の記録はされません。

■ オーディオインサート編集した音声を聞くには

編集した音声が12bitで記録されていた場合、音声トラックを切りかえる必要があります。

1 「再生」ボタンを押す

- 再生が始まります。

2 「ステレオ切換」ボタンを使って、「ステレオ1(ST 1)」トラックを選ぶ

- 「ステレオ2(ST 2)」トラックには、元の音声が残されています。
- 編集した音声が16bitで記録されていた場合、音声トラックの切りかえは必要ありません。

■本体表示部■

この部分の表示が変化します。

イン・アウト点の設定点表示に戻すときは：

「◀▶」ボタンでイン・アウトボックスの赤枠表示を移動させ、選択を切りかえた後、インボックスに赤枠表示を移動し直してください。

- 設定点に戻ります。

続けて編集をするときは

手順 1 ～ 6 を繰り返す

- 2回目以降の編集では、イン点を設定してもアウトボックスは自動的には選ばれませんので、「▶」ボタンでアウトボックスを選択してください。
  アウト点を設定した後は、必ずインボックスを「◀」ボタンで選択してください。

編集の実行を途中でやめたいときは

「戻る」ボタンを押す

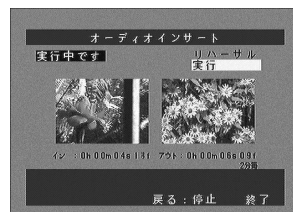
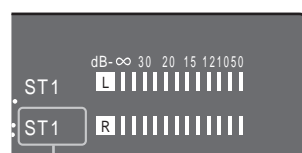
- 編集を中止し、オーディオインサート編集の画面に戻ります。

「オーディオインサート」の画面を解除するときは

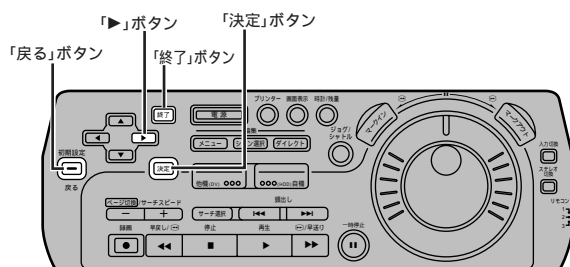
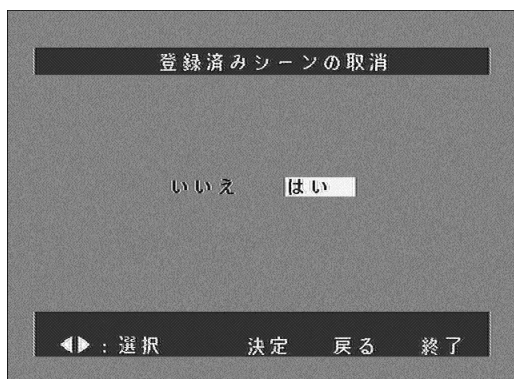
「戻る」ボタンを押す

- 編集メニュー画面に戻ります。

「終了」ボタンを押す

- オーディオインサート編集の画面が消えます。

「編集メニュー」画面からの編集

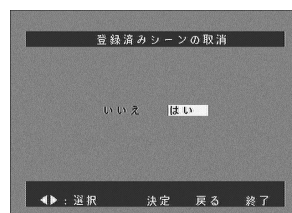
登録されたシーンの取り消し

シーンの登録をすべて取り消します。

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

● 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
● 編集メニュー画面から「登録済みシーンの取消」を選び、画面を表示させておく。(☞61)

お願い／ヒント

● 登録済みシーンの取り消しを実行しても、ハードディスクに取り込まれている元の映像が消えるわけではありません。

「▶」ボタンで「はい」を選ぶ

「決定」ボタンを押す

- 登録されているシーンがすべて消去され、編集メニュー画面に戻ります。
- 「いいえ」を選んでいたときは、登録済みシーンの取り消しは実行されずに編集メニュー画面に戻ります。

「登録済みシーンの取消」の画面を解除するときは

「戻る」ボタンを押す

- 編集メニュー画面に戻ります。

「終了」ボタンを押す

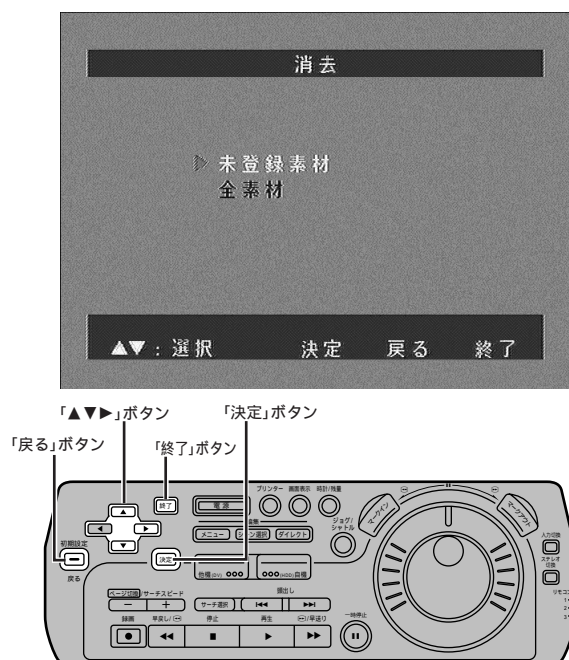
- 「登録済みシーンの取消」画面が消えます。

「編集メニュー」画面からの編集

録画内容を消去する

登録されていないシーンをすべて消去して1本の映像にすることや、ハードディスク内のすべての録画内容を消去することができます。

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

準備

● 編集メニュー画面から「消去」を選び、画面を表示させておく。(☞61)

お願い／ヒント

● 場合によっては、未登録素材の消去に1時間以上かかることがあります。
● 未登録素材の消去を実行すると、イベントは1つになり、フォトやシーンの情報は消えます。コンテンツ(2分毎)は、内容が変更されます。
● 消去を実行してしまうと、途中で止めることはできません。
● 消去の実行中は他の操作はできません。誤動作を防ぐために、編集中は本機を操作しないでください。
● ハードディスク内のデータが破損する恐れがありますので、消去の実行中は電源プラグをコンセントから抜かないでください。
● シナリオの合計時間(☞62)が80分をこえるときは、未登録素材の消去を実行できません。また、80分以内であっても、ハードディスクの状態によっては実行できない場合があります。その場合は、他機にいったん本機のシナリオを録画しておき、本機内の映像をすべて消去(☞101)した上で、再度、他機に録画しておいたシナリオの映像を取り込んでください。
● 未登録素材を消去する場合、何らかのトラブル(停電など)によって、編集された映像がこわれてしまう可能性があります。いったん、外部機器などにダビングしておかれることをおすすめします。

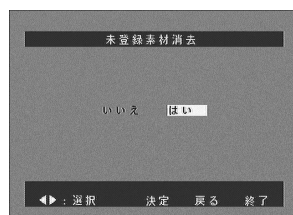
未登録の素材を消去する(映像の1本化)

登録されていないシーン(未登録素材)をすべて消去して、1本の映像にします。

「▲▼」ボタンで「未登録素材」を選び、「決定」ボタンを押す

● 確認のための画面が表示されます。

「▶」ボタンで「はい」を選び、「決定」ボタンを押す

● 登録されていない素材がすべて消去され、停止状態になります。
● 消去を始めると、本体表示部と画面に実行中の表示が出ます。
●「いいえ」を選んだときは、消去は実行されずに手順 1 の画面に戻ります。

■本体表示部■

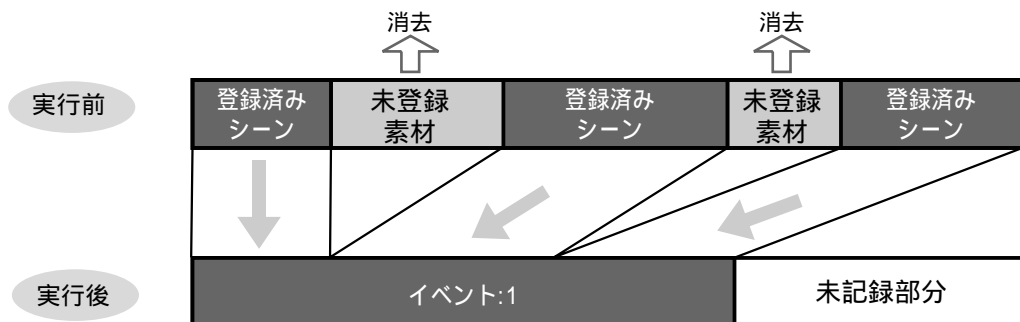
「消去」の画面を解除するときは

「戻る」ボタンを押す

● 手順 1 のときにボタンを押すと編集メニュー画面に戻りますが、手順 2 の確認画面のときにボタンを押すと、手順 1 の画面に戻ります。

「終了」ボタンを押す

● 消去の画面が消えます。

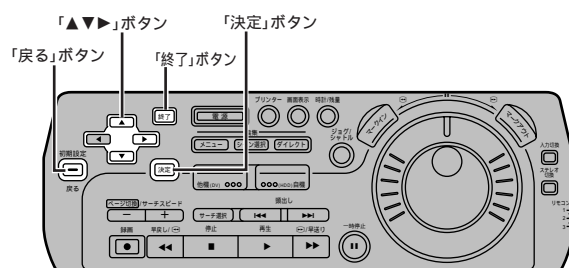
■ 未登録素材をすべて消去して、1本の映像にする仕組み

上記のイラストは、「映像の1本化」をわかりやすく説明したものです。
ハードディスクの実際のイメージとは異なります。

編集

録画内容を消去する

「編集メニュー」画面からの編集

録画内容を消去する つづき

登録されていないシーンをすべて消去して一本の映像にすることや、ハードディスク内のすべての録画内容を消去することができます。

上記の画面イラストは、手順 *1* のときの例です。

● 編集メニュー画面から「消去」を選び、画面を表示させておく。(☞61)

お願い／ヒント

● 一度「消去」を実行すると、元には戻りません。

すべての録画内容を消去する

ハードディスク内のすべての録画内容を消去します。

「▲▼」ボタンで「全素材」を選び、「決定」ボタンを押す

- 確認のための画面が表示されます。

「▶」ボタンで「はい」を選び、「決定」ボタンを押す

- すべての録画内容が消去され、停止状態になります。
- 消去後の本体表示部のタイムコードは、右図のようになります。
- 「いいえ」を選んだときは、消去は実行されずに手順 1 の画面に戻ります。

■本体表示部■

タイムコードの表示

「消去」の画面を解除するときは

「戻る」ボタンを押す

- 手順 1 のときにボタンを押すと編集メニュー画面に戻りますが、手順 2 の確認画面のときにボタンを押すと、手順 1 の画面に戻ります。

「終了」ボタンを押す

- 消去の画面が消えます。

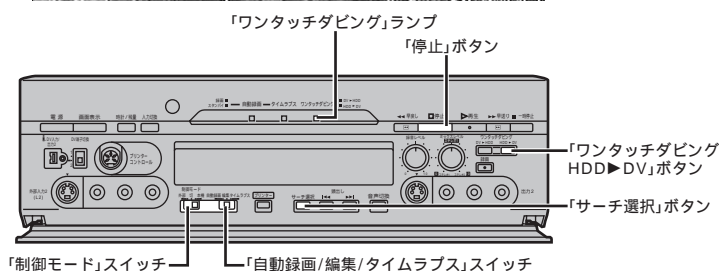
編集した映像をテープに録画する

本機で編集した映像を、デジタルビデオ機器やビデオなどで録画することができます。

録画方法として、ワンタッチダビング(☞103)とマニュアルダビング(☞105)の2つがあり、録画の種類として、以下のものがあります。

- ハードディスク内にある映像すべての録画
- シナリオ通りの録画

上記の画面イラストは、手順 2 のときの例です。

準備

- 「制御モード」スイッチを「本機」にする。
- 「自動録画/編集/タイムラプス」スイッチを「編集」にする。

お願い／ヒント

- ワンタッチダビングでは、編集した映像の途中からの録画はできません。必ず、ハードディスク、またはシナリオのシーンの最初の映像からの録画となります。
- デジタルビデオ機器側では、ダビングが始まると、その時点のテープ位置付近からの録画となります。
- ダビング中に、「DV端子切換」スイッチを切りかえないでください。
- ダビング中に、デジタルビデオ機器側の操作をしないでください。
- ワンタッチダビングが正常に終了すると、録画した映像の最初と最後に約1秒間の黒映像がつきます。ダビングを途中で中断した場合は、後方の黒映像はつきません。
- 使用されるデジタルビデオ機器によっては、正しくワンタッチダビングが動作しないことがあります。その場合は、マニュアルダビング(☞105)を行ってください。

ワンタッチダビング

DVケーブルを使ってデジタルビデオ機器と接続している場合は、ボタン操作ひとつで、テープに録画することができます。
ビデオカメラと接続するときは、必ずビデオカメラ側を再生ができるモードにしておいてください。

シーンをシナリオ通りに録画するときは、
「サーチ選択」ボタンを使って、「シーン」サーチ(☞41)にしておいてください。サーチの種類は、右図のように画面に表示されます。
- 登録シーンが3秒未満のときは、その部分が正常に再生できない場合があります。

ハードディスク内の映像すべてを録画するときは、
サーチの種類を「イベント」サーチにしておいてください。

「シーン」サーチ時の例

「シーン」サーチ表示

デジタルビデオ機器に、録画してもよいカセットを入れる

- 誤消去防止つまみを「REC」側にしてあるカセットをお使いください。

録画機側の入力を、本機と接続しているDV端子にする

「ワンタッチダビング　HDD►DV」ボタンを押す

- 録画が始まり、本体の「ワンタッチダビング」ランプが緑色に点灯します。

ワンタッチダビングをやめるときは

「停止」ボタンを押す

■録画機として当社製のデジタルビデオカセットレコーダー(NV-DV10000、NV-DM1など)をお使いの場合

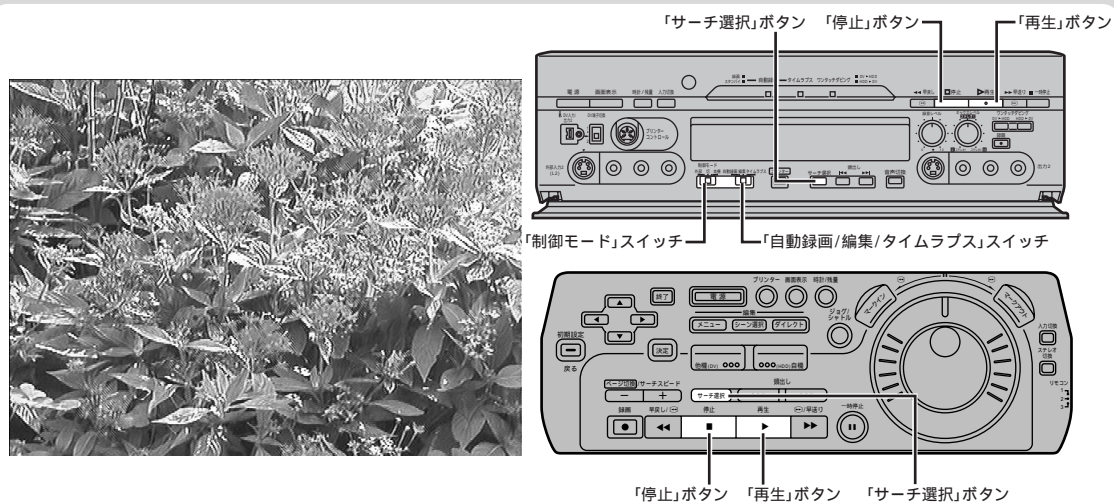
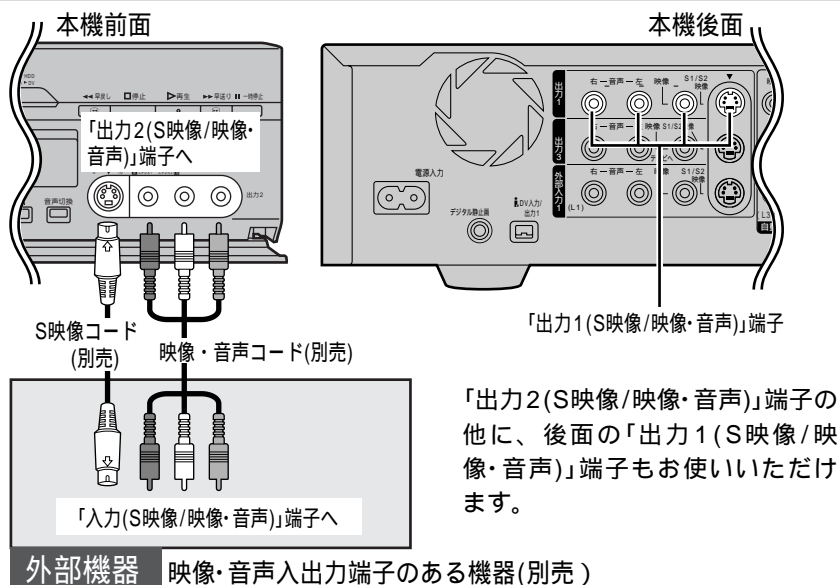
録画機側を以下の設定にしてください。

1. **DV端子が2つ以上ある機種は、使用しているDV端子に切りかえる**
2. **編集モードを「外部」にする**
3. **「編集端子切換」を「DV」にする**
4. **「入力切換」を「DV入力」にする**

編集した映像をテープに録画する （つづき）

本機で編集した映像を、デジタルビデオ機器やビデオなどで録画することができます。

AV接続(☞20)をしている場合は以下の接続も行ってください。
DV接続(☞18)をしている場合は以下の接続は不要です。

●「出力2(S映像/映像・音声)」端子の他に、後面の「出力1(S映像/映像・音声)」端子もお使いいただけます。

上記の画面イラストは、手順 *3* のときの例です。

準備

- AV接続をしているときは、DVケーブルは外しておく。
- 「制御モード」スイッチを「切」にする。
- 「自動録画/編集/タイムラプス」スイッチを「編集」にする。

マニュアルダビング/テープに録画

本機と録画機それぞれの機器を、手動で操作してテープに録画することができます。

シーンをシナリオ通りに録画するときは、
「サーチ選択」ボタンを使って、「シーン」サーチ(☞41)にしておいてください。サーチの種類は、右図のように画面に表示されます。
- 登録シーンが3秒未満のときは、その部分が正常に再生できない場合があります。

ハードディスク内の映像すべてを録画するときは、
通常の再生ができる状態にしておいてください。
または、「サーチ選択」ボタンを使って、「イベント」サーチにしておいてください。

「シーン」サーチ時の例

「シーン」サーチ表示

ビデオなどの録画機側に、録画してもよいカセットを入れる
- 誤消去防止のつめの折れていないカセットを入れる。

録画機側の入力を、本機と接続している入力端子にする

本機の「再生」ボタンを押し、録画機側の録画も始める
- 録画が始まります。

マニュアルダビングをやめるときは

本機の「停止」ボタンを押し、録画機側の録画もやめる

お願い／ヒント

- 録画機側の操作は、録画機側の説明書をお読みください。
- DV接続でのマニュアルダビング中に、本機側で「他機(DV)」ボタンを押して他機モードに切りかえないでください。
正常に記録できなくなります。
- AV接続をしているとき、日時表示などの画面表示を録画したくない場合には、表示を消しておいてください。(☞24･27)

自動録画(映像信号を受けて自動的に録画を開始する)

接続した外部機器から入力信号を受けると、自動的に録画を開始することができます。

「▶」ボタン
「決定」ボタン
「入力切換」ボタン
「入力切換」ボタン
「DV端子切換」スイッチ
「自動録画」ランプ
「録画」ボタン
「制御モード」スイッチ
「自動録画/編集/タイムラプス」スイッチ

上記の画面イラストは、手順 *3* のときの例です。

準備

- S映像(映像)･音声コードで外部機器とAV接続(☞20)しておく。DVケーブルは抜いておく。
- 「制御モード」スイッチを「切」にする。

お願い／ヒント

- 自動録画は、ハードディスク内の映像をすべて消去してからでないと実行できません。
- 自動録画を中断して再度録画を始めるときは、手順 *1*〜*3* を繰り返してください。
- 自動録画中は、「音声切換」ボタンと「時計／残量」ボタンの操作しか受けつけません。
- 自動録画中は、「制御モード」スイッチと「DV端子切換」スイッチを切りかえないでください。
- 入力信号が約5秒間途絶えると録画停止状態になり、信号を再度約3秒間検知すると、再び録画が始まります。
- テレビを外部機器とするときは、「外部入力3(S映像/映像･音声)」端子の「L3」をお選びください。ただし、「L3」の映像を画面で確認することはできません。
- DV入力信号の自動録画はできません。

「自動録画／編集／タイムラプス」スイッチを「自動録画」にする

● 「自動録画」ランプが緑色に点灯します。

「入力切換」ボタンを押し、外部機器を接続している入力モードを、「L1／L2／L3」のいずれかで選ぶ

● 本体表示部に表示されます。

■本体表示部■

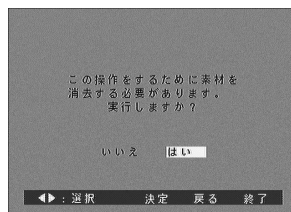
必要な信号が入力される状態になっていることを確認して、「録画」ボタンを押す

● 録画待機状態になり、「自動録画」ランプが赤になります。
● 映像信号を約3秒間検知すると、自動的に録画が始まります。
● ハードディスクの終端にくると、自動録画モードのまま停止状態になります。

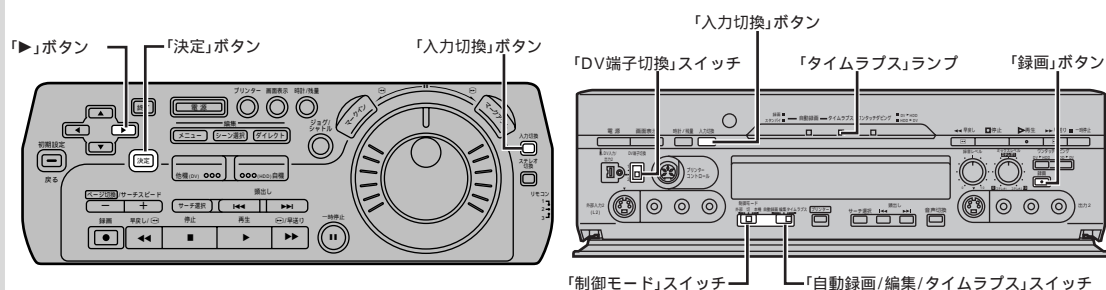
■メッセージが出たときは

ハードディスク内に映像が入っている場合は、右のようなメッセージが表示されます。もしこの画面が表示された場合は、「▶」ボタンで「はい」を選び、「決定」ボタンを押してください。
ハードディスク内のすべての映像が消去されます。

途中で録画をやめる、または自動録画モードを解除するときは

「自動録画／編集／タイムラプス」スイッチを「編集」にする

タイムラプス(長時間録画をする/間欠録画)

入力映像を約5秒ごとに6フレームずつ記録することができます。最大約33時間録画することができます。

「▶」ボタン
「決定」ボタン
「入力切換」ボタン
「入力切換」ボタン
「DV端子切換」スイッチ
「タイムラプス」ランプ
「録画」ボタン
「制御モード」スイッチ
「自動録画/編集/タイムラプス」スイッチ

上記の画面イラストは、手順 3 のときの例です。

- S映像(映像)･音声コードで外部機器とAV接続(☞20)しておく。DVケーブルは抜いておく。
- 「制御モード」スイッチを「切」にする。

お願い／ヒント

- タイムラプス録画では、音声は聞くことはできますが、記録することはできません。
- タイムラプス録画は、ハードディスク内の映像をすべて消去してからでないと実行できません。
- タイムラプスの録画中は、「音声切換」ボタンと「時計／残量」ボタンの操作しか受けつけません。
- タイムラプス録画中は、「制御モード」スイッチと「DV端子切換」スイッチを切りかえないでください。
- DV入力信号のタイムラプス録画はできません。

「自動録画／編集／タイムラプス」スイッチを「タイムラプス」にする

● 「タイムラプス」ランプが緑色に点灯します。

「入力切換」ボタンを押し、外部機器を接続している入力モードを、「L1／L2／L3」のいずれかで選ぶ

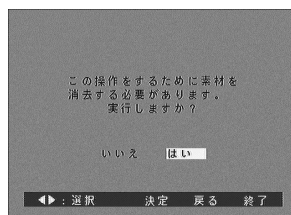
● 本体表示部に表示されます。

■本体表示部■

「録画」ボタンを押す

● 録画が始まり、「タイムラプス」ランプが赤になります。
● 入力映像を、約5秒ごとに6フレームずつ録画していきます。
● ハードディスクの終端にくると、タイムラプスモードのまま停止状態になります。

■メッセージが出たときは

ハードディスク内に映像が入っている場合は、右のようなメッセージが表示されます。もしこの画面が表示された場合は、「▶」ボタンで「はい」を選び、「決定」ボタンを押してください。
ハードディスク内のすべての映像が消去されます。

途中で録画をやめる、またはタイムラプスモードを解除するときは

「自動録画／編集／タイムラプス」スイッチを「編集」にする

タイムラプス

便利な機能

ビデオプリンターにつないで使う

当社のシステム(編集)端子付きビデオプリンターと、システムコード(別売)を使って接続すると、本機からのボタン操作一つで簡単にプリントすることができます。

以下のようにビデオプリンターと接続してください。

「ビデオ入力（映像）」端子へ

ビデオプリンター（別売）

「映像出力」端子へ

ビデオプリンターに付属の映像コード

テレビ（別売）

「システム(編集)」端子へ

「S映像入力」端子へ

別売のシステムコード VW-CA5

付属のS映像コード

「プリンターコントロール」端子へ

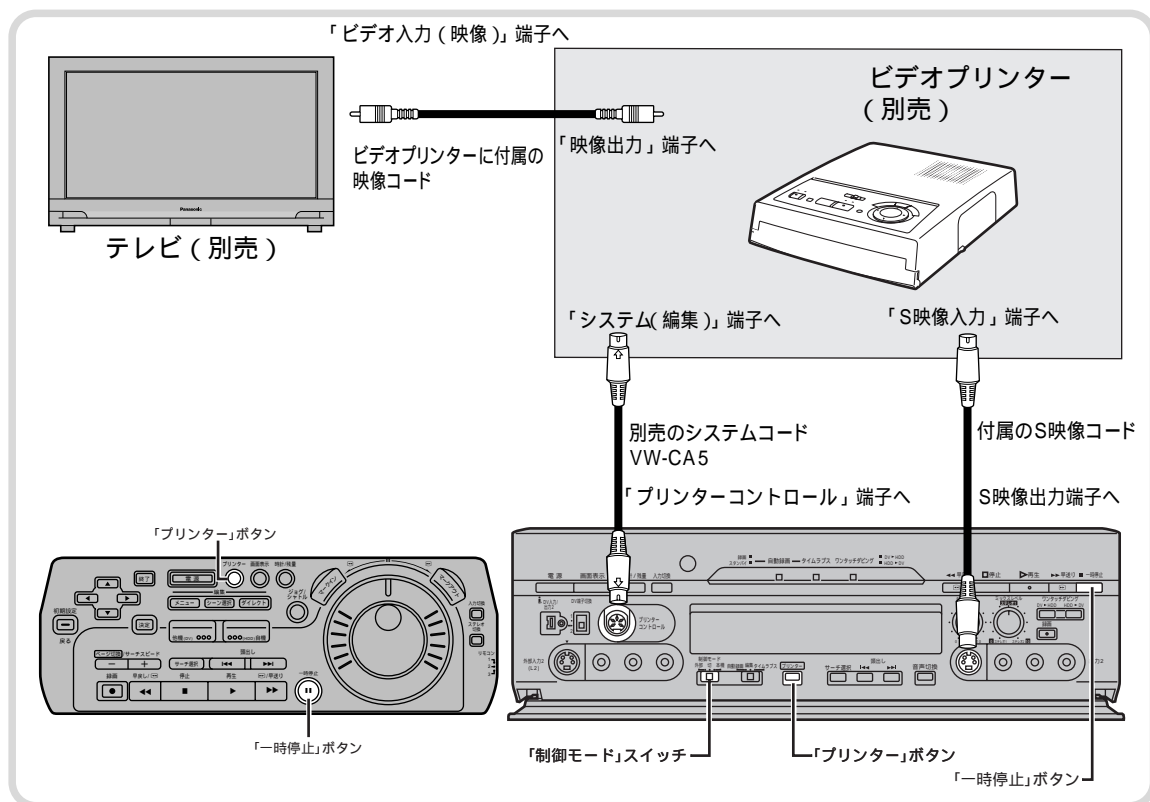
S映像出力端子へ

「プリンター」ボタン

「一時停止」ボタン

「制御モード」スイッチ

「プリンター」ボタン

「一時停止」ボタン

準備

● 「制御モード」スイッチを「切」にする。

お願い／ヒント

● ビデオプリンターの説明書もお読みください。
● 日付表示などの画面表示もプリントされます。入れたくないときは、画面表示を消してください。(☞27)
● プリントは途中でやめることはできません。
● 画面を分割したり、ズーム機能を使ったりしてプリントすることはできません。
● 静止画再生モード以外では、プリントできません。
● ビデオプリンターから本機を制御することはできません。
● 「プリンター」ボタンを押してボタンが赤く点滅を始めた場合は、プリンターとの接続や設定を再度確認してください。また、プリント中に点滅を始めた場合は、プリント用紙などを確認してください。
● 「プリンターコントロール」端子へは、当社製のプリンター以外の機器は接続しないでください。

プリントしたい映像を探す(☞37･39･41)

プリントしたい映像のところで「一時停止」ボタンを押す

● 静止画再生モードになります。

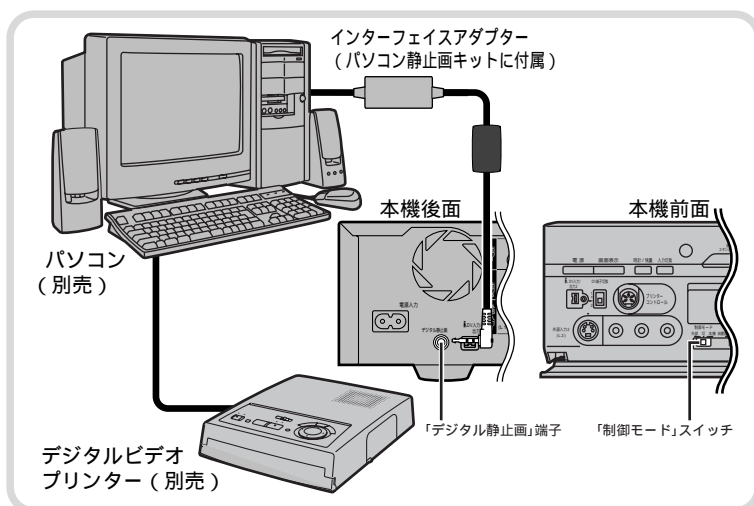
「プリンター」ボタンを押す

● プリンターが自動的にプリントを始めます。
● 本体の「プリンター」ボタンが赤く点灯します。

静止画をパソコンに取り込む

別売のデジカム用パソコン静止画キットVW-DTA2W（Windows® 95用）/VW-DTA2M（Macintosh用）を使うと、本機の映像を静止画としてパソコンに取り込むことができます。

パソコン静止画キットには、デジカム連動のソフトDV STUDIOが付いています。

以下のようにパソコンと接続してください。

- 誤動作を防ぐために、本機からDVケーブルを外しておく。
- 「制御モード」スイッチを「切」にする。
- サーチの種類を「シーン」以外にする。

当社のデジタルビデオプリンターと接続すると、取り込んだ画像を美しくプリントすることができます。

パソコン静止画キットについて

Windows® 95 でご使用の場合

- 80486以上のCPU搭載機種
- Microsoft® Windows® 95 日本語版が動作する DOS/V および PC-9800 シリーズパソコン
- メモリー：　16MB以上（24MB 以上を推奨）
- ハードディスク：　50MB以上の空き容量（150MB 以上を推奨）
- CD-ROM ドライブ（4倍速以上を推奨）
- 640×480以上　256色以上（1024×768以上 True Color（24bit 以上）を推奨）
- RS232Cポート
  D-sub 9 ピン　（DOS/V の場合）
  25 ピン　（PC-9800 シリーズ）
- マウス

Macintoshでご使用の場合

- Power PC以上のCPU搭載機種
  (OS漢字Talk7.5.3以降が動作するシステム)
- メモリー：　32MB以上（64MB 以上を推奨）
- ハードディスク：　50MB以上の空き容量（150MB 以上を推奨）
- CD-ROM ドライブ（4倍速以上を推奨）
- グラフィック表示：約1670万色を推奨（256色以上でも動作可能）
- シリアルポート　（ミニDIN8ピン）
- マウス

（Quick Time 2.1以上がインストールされていないと動作しません）

シリアルポート(ミニDIN8ピン)のないMacintoshではご使用できません。

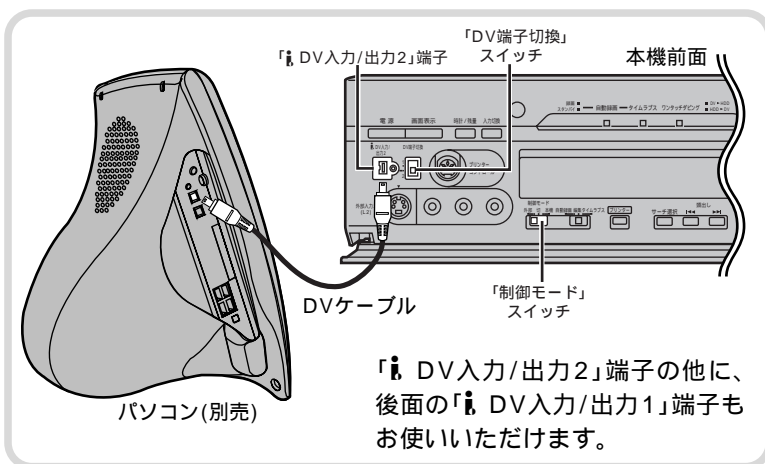
（MSPゴシックフォント、MSゴシックフォントがシステムにインストールされていないと、文字が正しく表示できません。インストールされていない場合は、Windowsのマニュアルを参照してフォントをインストールしてください）

※Windows® 98動作確認済み

パソコンを使って編集する

別売のDV動画編集ソフトMotionDV STUDIOを使うと、いろいろな映像効果をかけたり、タイトルを作成したりできます。

接続や操作方法などの詳しい説明は、MotionDV STUDIO側の取扱説明書をお読みください。

● 「DV入力/出力2」端子の他に、後面の「DV入力/出力1」端子もお使いいただけます。

● 「制御モード」スイッチを「外部」にする。
● 「DV端子切換」スイッチを接続に使用するDV端子に合わせる。

■お使いいただけるパソコン

本機と、別売のDV動画編集ソフトMotionDV STUDIOを使って編集をお楽しみいただけるパソコンは以下のものです。

当社製 WiLL PC

● CF-E1

当社製 ノートパソコン Let's note

● CF-A1(CF-A1R･CF-A1V)
● CF-L1(CF-L1A･CF-L1S)
● CF-M1(CF-M1R･CF-M1V･CF-M1VA)

DV動画編集ソフトMotionDV STUDIOには2種類ありますので、ご使用になるパソコンによってお選びください。DVケーブルはどちらにも付属品として2本入っています。

WiLL PCを使用される場合:
DV動画編集ソフト/VW-DTM1Wをご購入ください。

ノートパソコンLet's noteを使用される場合:
DV動画編集キット(DVインターフェースカード付き)/VW-DTM1CWをご購入ください。

お願い／ヒント

● 本機とパソコンは、必ず電源「入」の状態で接続してください。電源「切」の状態で接続しても、本機が認識されません。
● S映像(映像)･音声コードでの入出力はできません。
● MotionDV STUDIOを起動しているときに、DVケーブルの抜きさしはしないでください。
● パソコン側とDVケーブルで接続されている状態で、本機の電源を「切」「入」したり、「DV端子切換」スイッチや「制御モード」スイッチの切りかえ操作をしないでください。
● 本体表示部で本体選択表示が点滅したままの状態になったときや、電源が「入」にならなくなった場合は、DVケーブルを抜いて本機を再起動してください。また、パソコン側も再起動してください。

使用上のお願い

本機は、温度や湿度などの周囲の環境の影響を受けやすい、精密な部品を内蔵しています。きれいな映像・音声をお楽しみいただくために、下記の点をお守りください。

本機の取り扱いについて

■強い磁気を持っているものや、強い電磁波を出すもの（携帯電話など）を近付けないでください

映像・音声に悪影響を与えたり、記録が損なわれたりするおそれがあります。

■ハードディスクや、その中に記録されているデータが損なわれる場合がありますので、以下のことにお気をつけください

- 振動や衝撃をあたえない
- 本機後面の内部冷却用ファンの通風口をふさぐような狭いところに置かない
- 湿度の高いところに置かない
- 水平以外にして置かない
- 電源が「入」の状態で、電源プラグをコンセントから抜かない
  →電源プラグをコンセントから抜くときは、電源が完全に「切」の状態になってからにしてください。
- 本機の動作中に電源プラグをコンセントから抜かない

■停電などが起こったときは

編集中の内容や、ハードディスクに記録されているデータが損なわれている場合があります。

■長期間（約1カ月以上）使用しないときは

電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 本機が電源コンセントに接続されていると、本機の電源を「切」にしても約8ワットの電力を消費しています。
- 本機の機能を保つため、6カ月に1度くらいは電源を「入」にしてください。
- 「自動バックアップ機能」(☞31)用の電池が消耗しますので、本体のボタンが押されないようにしてください。

■キャビネットがよごれているときは

電源プラグをコンセントから抜き、かわいたやわらかい布でキャビネットをふいてください。

■よごれがひどいときは

台所用洗剤を水でうすめ、その液にひたした布をよくしぼってからよごれをふき取ってください。

そのあと、かわいた布で仕上げてください。

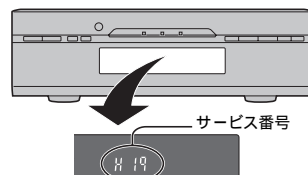
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
- キャビネットが変質したり、塗装がはげたりしますので、ベンジンやシンナーなどの溶剤は使わないでください。

- 大切な映像は、テープなどにも録画して保存しておいてください。ハードディスクは、振動や温度・湿度などの周囲の環境の影響を受けやすく、中に記録されているデータが損なわれることがあります。
- 接続される機器によっては、正常に録画・再生操作ができない場合があります。

自己診断表示機能(サービス番号)

本機は、異常の状態をお知らせする自己診断表示機能を持っています。

本機の設置中や使用中に異常を検出すると、ビデオ表示部に下表のサービス番号を表示します。

- サービス番号は、例えば「H19」のように、英文字と2ケタの数字で表示されます。

サービス番号	本機の状態	対応のしかた
H□□	異常と思われます。（H、F以降の数字は、本機の状態によって変わります）	115～118ページの「こんなときは(Q&A)」の項目に従って点検してください。 それでもサービス番号が消えないときは、お買い上げの販売店、または最寄りの修理ご相談窓口へ修理を依頼してください。なお、修理のご依頼の際には、「サービス番号、H19」などとお知らせください。
F□□		

エラーメッセージについて

本機を誤って操作したときなどには、テレビ画面に「エラーメッセージ」が表示されます。
「エラーメッセージ」には、以下のようなものがあります。

■記録されていません
→ハードディスクに何も映像が記録されていない状態で、再生操作やサーチ操作をしようとしたとき。または、「メニュー」ボタンや「シーン選択」ボタン、「ワンタッチダビング HDD▶DV」ボタンを押したとき。

■残量がありません
→新たに記録できるハードディスクの空き容量がない状態で、録画操作を行ったとき。
→録画中にハードディスクの記録容量がいっぱいになったとき

■コピーガードがかかっています
→通常の録画中にコピー禁止信号をうけたとき。

■設定を確認してください
→ダイレクト編集・アッセンブル編集(シーンの登録・修正)・ビデオインサート編集で、シーン位置の逆転、重なりなどが起こったとき。
→アフレコ・ミックスダビング・オーディオインサート編集時のイン点・アウト点間の編集時間が2秒未満のとき。

■接続/設定を確認ください
→「制御モード」スイッチの位置が正しく設定されていないときや、DVケーブルの接続や設定が正しくないとき。
→接続している外部機器側に何か問題が起こったとき。

■シーン登録数が一杯です
→「登録済みシーン」のシーン数と選択して確定しているシーン数との合計が80シーンをこえるとき。
→ダイレクト編集時、登録したシーン数が80になっているときに、さらにシーンの登録操作を行ったとき。
→アッセンブル編集(シーンの登録・コピー)時にシーン数が80になったとき。

■この操作は実行できません
→ハードディスクの記録容量以上にシナリオが作成されているときに、映像の1本化を実行しようとしたとき。

■16ビット記録部のため記録できません
→16bitで記録された音声を、アフレコまたはミックスダビング編集しようとしたとき。

■挿入先がシーンに登録されています。実行しますか?
→ビデオインサート編集で、映像の挿入先がシーンの一部、または全体に重なっているとき。

■プリンターエラーです
→印刷を実行したとき、プリンターと正しく接続されていなかったり、プリンターにトラブルが起こっているとき。

こんなときは(Q&A)

よく起こるトラブルについて説明しています。

■ 編集コントローラーの操作ができない!

Q **本体のボタンでは操作できるのに、編集コントローラーでの操作ができない**

A
- 電池が消耗している。
  →新しい電池と交換してください。
- 本機のリモコン受信部に向けて操作していない。
- 本機本体との間に障害物などがある。
- 本機本体とリモコンモードが合っていない。
  →リモコンモードを合わせ直してください。(☞27)

■ シーン選択編集ができない!

Q **シーンの登録ができない**

A
- イン点とアウト点の位置が逆転している。
- 「登録済みシーン」のシーン数と選択・確定しているシーンとの合計が80シーンをこえている。

●次のページへつづく●

■「編集メニュー」画面の編集ができない!

Q アッセンブル編集でシーンの登録やコピーができない

A
- イン点とアウト点の位置が逆転している。
- 「登録済みシーン」のシーン数が80になっている。

Q アッセンブル編集でシーンの修正ができない

A
- イン点とアウト点の位置が逆転している。

Q アッセンブル編集で、シーンを最後尾に移動できない

A
- すでに80シーンが登録されているときは、一度の操作で一番最後に移動させることはできません。この場合、いったん80シーン目の前にサムネイルを移動し、その後、80シーン目のサムネイルを最後に持っていきたいシーンのサムネイルの前に移動させます。

Q ビデオインサート編集の実行に時間がかかる

A
- 実行にかかる時間は、挿入元または挿入先のイン･アウト点間の時間と同じくらいかかります。場合によっては、それ以上の時間がかかることもあります。

Q アフレコ編集や、ミックスダビング編集、オーディオインサート編集ができない

A
- 未登録の素材がハードディスクに残っている。
  →未登録の素材を消去(映像を1本化)してください(☞99)
- 外部機器とDV接続されている。
  →S映像(映像)･音声コードでAV接続してください。(☞20)
- 入力モードが正しくない。

Q アフレコ編集や、ミックスダビング編集ができない

A
- 編集する音声が16bitモードで記録されている。
  →12bitモードの音声を、AV接続をして記録してください。

■「編集メニュー」画面の編集ができない!(つづき)

Q 未登録の素材を消去(映像を1本化)したら、フォトや登録済みシーンがなくなった

A
- この操作をすると、イベントは1つになり、フォトや登録済みシーンの情報は消えます。コンテンツ(2分毎)は、内容が変更されます。

Q 未登録の素材の消去(映像の1本化)ができない

A
- ハードディスクの記録容量以上にシナリオが作成されている
  →アッセンブル編集でシナリオの内容を修正し、シナリオの合計時間をハードディスクの記録容量以下(約80分以下)にしてください。(☞62～76)

Q 未登録の素材の消去(映像の1本化)の実行に時間がかかる

A
- 場合によっては約60分以上かかることもあります。

■ 動作がおかしい!

Q 操作の反応やメニュー画面が出るのに時間がかかる

A
- 内部処理に多少時間がかかるためです。故障ではありません。

Q 日時表示などの画面表示が出ない

A
- 初期設定で、「日時表示」が「切」になっている
  →初期設定の「日時表示」を「切」以外にしてください。(☞27)
- 「L1/L2/L3」入力モードになっている。
  →「DV」入力モードに切りかえてください。

Q テレビ画面に映像が出ない

A
- 「外部入力3」端子と「出力3」端子でテレビと接続している
  テレビを外部機器として接続した場合、信号のループにより画像や音声の乱れが発生する場合があるため、「外部入力3」端子に入ってきた信号は「出力3」端子には出力されないようになっています。

■ 動作がおかしい!(つづき)

Q 記録している映像が再生できない

A ● サーチモードが「シーン」になっている
→「サーチ選択」ボタンで「シーン」以外のサーチモードにしてください。(☞41)

Q 電源「入」の状態になるまでに時間がかかる

A ● 内部処理のために、電源「入」「切」の状態になるまでに多少時間がかかります。
● パソコンなどと接続している
→システムを一度再起動してください。
それで直らない場合は、接続しているケーブル類をすべて外してください。
それでも直らないときは、お買い上げの販売店、または「お客様ご相談センター」(☞122)にお問い合わせください。
● 何も接続せずに本機だけの状態で電源を入れ、約2分たっても電源「入」にならないときは、お買い上げの販売店、または「お客様ご相談センター」(☞122)にお問い合わせください。

Q 映像が乱れる

A ● テレビによっては映像が乱れる場合があります。
→ご使用のテレビに「S映像出(入)力」端子がついている場合は、S映像コードでの接続を行ってください。それでも画像が乱れる場合は、テレビ側に3次元Y/C分離などの設定があるときは、設定を「オフ」にしてください。

Q 画面表示の項目が選択できない

A ● 操作できない部分は選択できないようになっています。

Q 2種類の音声がまざって聞こえる

A ● 「ステレオ1+2(ミックス)」音声が選ばれている
→「ステレオ切換」ボタンで聞きたい音声トラックを選んでください。
● 「左+右」音声が選ばれている
→「音声切換」ボタンで聞きたい音声を選んでください。

Q 音声が聞こえない

A ● 何も記録されていない「ステレオ2」トラックが選ばれている

■ 動作がおかしい!(つづき)

Q 音声がステレオ音声ではない

A ● ステレオ音声が選ばれていない
→「音声切換」ボタンで「L+R(左+右)」音声を選んでください。

Q 他機とDV接続をした後、DVからの入力信号が入ってこない、または他機を制御できない

A ● 「DV端子切換」スイッチの位置が合っていない。
→接続に使用しているDV端子を選んでください。
● 「制御モード」スイッチの位置が合っていない。
→「制御モード」スイッチの位置を、「本機」にしてください。
● 場合によってはモードが切りかわらないことがあります。
→一度、他機側を停止状態にしてから、再度再生を行ってください。

■ 操作ができなくなった!

Q どんなボタン操作も受けつけない

A ● タイムラプス録画、または自動録画を実行している。
→上記の録画中は、「自動録画/編集/タイムラプス」スイッチを「編集」にして録画を停止しないと、他の操作はできません。
● ビデオインサート編集、未登録素材の消去(映像の1本化)、フォーマットの実行中は他の操作はできません。

● タイムラプス録画、自動録画、ビデオインサート編集、未登録素材の消去(映像の1本化)、フォーマットの実行中以外の場合は:
→本体後面の「リセット」ボタンを押して、本機を再起動してください。
ただし、時刻表示や初期設定は工場出荷時の状態に戻ります。各種の設定をやり直す必要があります。工場出荷時に入っていて、一度消去したサンプル映像は元に戻りません。
それでも直らなければ、電源コードを抜いて3分間待ち、もう一度電源を入れ直してください。

●次のページへつづく●

■ 操作ができなくなった!(つづき)

Q 再生の動作がおかしい、または映像の1本化ができない、ビデオインサート編集ができないなどの不具合が出る

A
- ハードディスクに記録されている素材をすべて消去してください。(☞101)
- 素材を消去しても直らない場合は、ハードディスクのフォーマットを行ってみてください。
  ただしフォーマットを行うと、素材や登録済みのシーンなど、ハードディスク内のすべての情報は消去されます。工場出荷時に入っていたサンプル映像も消去されます。
  時刻設定や初期設定の情報は消去されないので変わりません。

フォーマットを行うには：

1 本体の「停止」ボタンと「画面表示」ボタンを同時に3秒以上押す
- フォーマット画面が表示されます。
- 編集コントローラーでは、この操作はできません。

2 編集コントローラーの「▶」ボタンで「はい」を選び、「決定」ボタンを押す。
- フォーマットが実行されます。
- フォーマットには約60分以上かかります。

フォーマットをしても改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様ご相談センター」(☞122)にお問い合わせください。

用語解説

イン点／アウト点
編集を行うときに設定する、編集の開始／終了点のことです。

自動録画
接続した外部機器から映像信号を受けると、自動的に録画を開始します。

シナリオ
編集する映像のストーリー構成のことです。登録したシーンを並べて、1つのストーリーにしていきます。

素材
編集に使うために本機に取り込んだ映像のことです。

タイムコード
映像に対しての絶対位置を知るために、時（h)、分（m)、秒（s)、フレーム（f）という単位の時間情報です。（1秒はおよそ30フレーム)。
1フレームの値は約1／30秒のため、長時間記録していると、タイムコードと実時間の間にずれが生じてきます。デジタルビデオSD規格では、ドロップフレーム方式（ドロップフレームの項参照）を採用して、実時間との時間のずれを補正しています。

タイムラプス
外部機器からの映像を、約5秒ごとに6フレームずつ記録します。間欠録画です。
音声は記録されません。

デジタルビデオ
デジタルビデオは、映像・音声をデジタル信号に変換して記録します。デジタル信号で記録すると、画質や音声の劣化の少ない記録・再生が可能になります。
このほか、以下のような特長があります。
- 高解像度、高S/N比
- 色のにじみが少なく、安定した画面
- ダビング時の画質劣化が少ない
- デジタルPCM音声
- タイムコード（記録時間情報）編集

ドロップフレーム
NTSC方式のタイムコードのフレーム（f）値は、1フレームが約1／30秒にあたるため、長時間記録していると、実時間との時間のずれが生じてきます。
ドロップフレームは、0、10、20、30、40、50分を除く毎分の00秒の時に、00フレームと01フレームをとばして、この誤差を自動的に補正する働きです。

入力切換
本機と接続する外部機器の入力チャンネルの切換のことです。本機の入力切換ボタンで、外部入力（L1～L3）、DV入力を選ぶことができ、切りかえられた映像がモニターに映ります。アフレコ編集やミックスダビング編集、オーディオインサート編集、自動録画、タイムラプス録画のときは、DV入力での記録、または編集ができません。外部入力に切り換えてください。

ハードディスク
記憶媒体の1つです。磁気を帯びた金属またはガラスの円盤が入っており、その円盤の上に情報を書き込みます。

フォトインデックス
当社製のデジタルビデオカメラでフォトショット撮影をしたときなどに記録されます。

フォーマット
本書では、主にハードディスクの初期化のことを指します。初期化をすると、ハードディスク上のすべての情報が消えます。

フレーム
ビデオの映像は、映画のフィルムと同じように連続した静止画の集まりで動きが作られています。フレームはその静止画1枚のことです。NTSC方式のタイムコードの1フレームは、約1／30秒にあたります。

DV端子(i.LINK)
デジタルビデオ機器の映像・音声データの入力/出力を行うための端子です。
映像・音声データはDVケーブルを通じてデジタル信号のまま送られるため、ダビングを行っても、画質や音質の劣化はほとんどありません。また、機器の状態により信号の流れる方向を自動的に判断するので、従来の映像・音声コードのように入力/出力に応じて端子の接続をつなぎ変える必要がありません。
このほか、本機のDV端子では編集の制御信号も送ることができます。DV端子の付いた当社製のデジタルビデオ機器を再生機として使うと、DVケーブル1本の接続だけで、ワンタッチダビングが行えます。
DV端子で接続して編集したときは、映像・音声端子の場合と比べて一部機能が異なります。
- 再生機側からの音声を、録画機側でレベル調整して録音することはできません。
- 2カ国語放送などの二重音声（主/副）が録音されたテープを再生した場合、音声切換（主/副）の設定に関係なく、主音声と副音声の両方が出力されます。
- 再生機側の元の記録日付情報、フォト(ショット)インデックス信号などは、そのまま録画機側にコピーされます。
（タイムコードはコピーされません）
- 記録される音声モード（12/16bit）は、再生機側の音声モードと同じになります。（音声モードを変えて記録したい場合は、DV端子ではなく映像・音声端子に接続してください）

DV端子は、i.LINK端子とも呼ばれています。

PCM音声について
本機の音声サンプリング周波数は、
16bit 48kHz 2トラック記録
12bit 32kHz 4トラック記録
の2種類から選択して記録することができます。
16bitモードでは、高音質で記録することができます。
12bitモードでは、音声トラックを2つに分けて（ステレオ1＋2）、アフレコ編集やミックスダビング編集などができます。

索引

ア行

アッセンブル ……………62
アフレコ ………………84
イベント ……………41･47
映像の1本化 ……………99
オーディオインサート ……92
音声 ……………………29

カ行

コンテンツ(2分毎) ……41･47

サ行

再生
　再生 ……………………37
　再生速度 ………………37
　早戻し・早送り …………37
　サーチ・頭出し …………41
シーン選択編集 …………46
時刻合わせ ………………31
自動録画 ………………106
シナリオ …………46･118
接続
　DVケーブルで(DV接続) ‥18
　S映像(映像)･
　　音声コードで(AV接続) ‥20

タ行

タイムコード ……………118
タイムラプス ……………108
ダイレクト編集 …………44
ダビング
　ワンタッチダビング ‥33･103
　マニュアルダビング/
　　録画 ‥35･105

ナ行

2分毎 ……………………41

ハ行

ハードディスク …………119
ビデオインサート …………78
フォト ………………41･47
フォーマット ……118･119
プリントする ……………110
編集メニュー ……………60

マ行

ミックスダビング …………88

ラ行

リハーサル ………85･89･93
リモコンモード ……………27

アルファベット順

DV端子 ………………119
i.LINK ………………119

仕様

電源	AC 100V±10%, 50/60Hz±0.5%
消費電力	22W（電源「切」のとき　約8W）

録画方式	DV方式（民生用デジタルVCR SD規格）		
記録メディア	ハードディスク（ハードディスク容量 約20GB）		
録画時間	最大約80分間		
早送り・早戻し時間	瞬時		
デジタル静止画	デジタル静止画出力、制御信号入出力（転送レート：最大115kbps）		
テレビジョン方式	NTSC方式：525本、60フィールド		
映像記録方式	デジタルコンポーネント記録		
音声記録方式	PCM 48kHz,16bit（2ch）/ 32kHz,12bit（4ch）		
映像			
入出力	1.0Vp-p,	75Ω（ピンジャック）	
S映像入出力	Y:1.0Vp-p,	75Ω	
（セパレートYC信号端子）	C:0.286Vp-p,	75Ω	
音声			
ライン入力	309mV,	入力インピーダンス	47kΩ（ピンジャック）
ライン出力	309mV,	出力インピーダンス	1kΩ（ピンジャック）
		負荷インピーダンス	10kΩ
外形寸法	幅280×高さ92.5×奥行221.5mm		
本体質量	約3.2kg		
許容周囲温度	5℃～35℃		
許容相対湿度	10%～75%		
時計部	クォーツ制御24時間デジタル表示		

保証とアフターサービス(よくお読みください)

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は…

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
- その他のお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■保証書(別添付)

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■修理を依頼されるとき

115～118ページの内容に従ってご確認のあと、直らないときは、本体表示部に「サービス番号」(☞114)が表示されている場合はその番号を確認し、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

- **保証期間中は**
  保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。
- **保証期間を過ぎているときは**
  修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。
  DVハードディスクエディターの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
  (ただし、ハードディスクドライブの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です)
  注)補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- **修理料金の仕組み**
  修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。
出張料 は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ナショナル／パナソニック
お客様ご相談センター

使いかた・お買い物のご相談は

フリーダイヤル（料金無料） パナは 365日 **0120-878-365**

365日／受付9時～20時

Help desk for foreign residents in Japan
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)
Tokyo (03) 3256 - 5444 **Osaka** (06) 6645 - 8787

ナショナル／パナソニック

修理ご相談窓口

修理のご相談は

ナビダイヤル（全国共通番号） ☎ 0570-087-087

●お客様がおかけになった場所から最寄りの地区の修理ご相談窓口につながります。
呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
●携帯電話・PHSからは最寄りの地区の修理ご相談窓口に直接おかけください。
（ナビダイヤルはご利用頂けません）

北海道地区

地域	所在地	電話
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	(011)894-1251
旭川	旭川市2条通21丁目左1号	(0166)31-6151
帯広	帯広市西19条南1丁目7-11	(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	(0138)48-6631

東北地区

地域	所在地	電話
青森	青森市大字八ッ役字矢作1-37	(0177)39-9712
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2	(018)826-1600
岩手	盛岡市羽場13地割30-3	(019)639-5120
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	(022)387-1117
山形	山形市流通センター3丁目12-2	(023)641-8100
福島	福島県安達郡本宮町字南ノ内65	(0243)34-1301

首都圏地区

地域	所在地	電話
栃木	宇都宮市御幸町194-20	(028)689-2555
群馬	高崎市萩原町沖中205-18	(027)352-1109
水戸	水戸市柳河町309-2	(029)225-0249
つくば	つくば市花畑2丁目8-1	(0298)64-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	(048)729-2102
千葉	千葉市中央区星久喜町172	(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	(03)5450-7431
山梨	甲府市下飯田2丁目1-27	(0552)22-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	(045)840-3155
新潟	新潟市東明1丁目8-14	(025)286-7725

中部地区

地域	所在地	電話
石川	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80	(076)294-2683
富山	富山市寺島1298	(076)432-8705
福井	福井市開発4丁目112	(0776)54-5606
長野	松本市大字笹賀7600-7	(0263)58-0073
静岡	静岡市西島765	(054)287-9000
名古屋	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	(052)819-0225
岡崎	岡崎市岡町南久保28	(0564)55-5719
岐阜	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30	(058)323-6010
高山	高山市花岡町3丁目82	(0577)33-0613
三重	久居市森町字北谷1920-3	(059)255-1380

近畿地区

地域	所在地	電話
滋賀	守山市勝部6丁目2-1	(077)582-5021
京都	京都市南区上鳥羽石橋町20-1	(075)672-9636
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7	(06)6359-6225
奈良	大和郡山市椎木町404-2	(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	(0734)75-1311
兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6	(078)272-6645

中国地区

地域	所在地	電話
鳥取	鳥取市安長295-1	(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	(0859)34-2129
松江	松江市西津田2丁目10-19	(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	(0855)22-6629
岡山	岡山県都窪郡早島町矢尾807	(086)292-1162
広島	広島市西区南観音8丁目13-20	(082)295-5011
山口	山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23	(0839)86-4050

四国地区

地域	所在地	電話
香川	高松市勅使町152-2	(087)868-9477
徳島	徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108	(088)698-1125
高知	南国市岡豊町中島331-1	(088)866-3142
愛媛	松山市土居田町750-2	(089)971-2144

九州地区

地域	所在地	電話
福岡	春日市春日公園3丁目48	(092)593-9036
佐賀	佐賀市本庄町大字本庄896-2	(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1949-1	(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	(097)556-3815
宮崎	宮崎県宮崎郡清武町下加納366-2	(0985)85-6530
熊本	熊本市健軍本町12-3	(096)367-6067
天草	本渡市港町18-11	(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	(099)250-5657
大島	名瀬市矢之脇町10-5	(0997)53-5101

沖縄地区

地域	所在地	電話
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0100

本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では放送方式、電源電圧が異なりますので使用できません。
This unit can not be used in foreign country as designed for Japan only.

愛情点検 長年使用のDVハードディスクエディターの点検を！

こんな症状はありませんか

- 再生しても映像や音声が出ない
- 煙が出たり、異常なにおいや音がする
- 水や異物が入った
- 時計表示などに異常がある
- その他の異常や故障がある

このような症状のときは、使用を中止し、故障や事故の防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。

- 本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年　　月　　日	品　番	NV-HDD1
販売店名	☎（　　）　－	お客様ご相談窓口 ☎（　　）　－	

松下電器産業株式会社
ビデオ事業部
〒571-8504　大阪府門真市松生町1番15号
ビデオシステム事業部
〒571-8503　大阪府門真市松葉町2番15号

VQT8617
F0200S0（　300Ⓐ　）